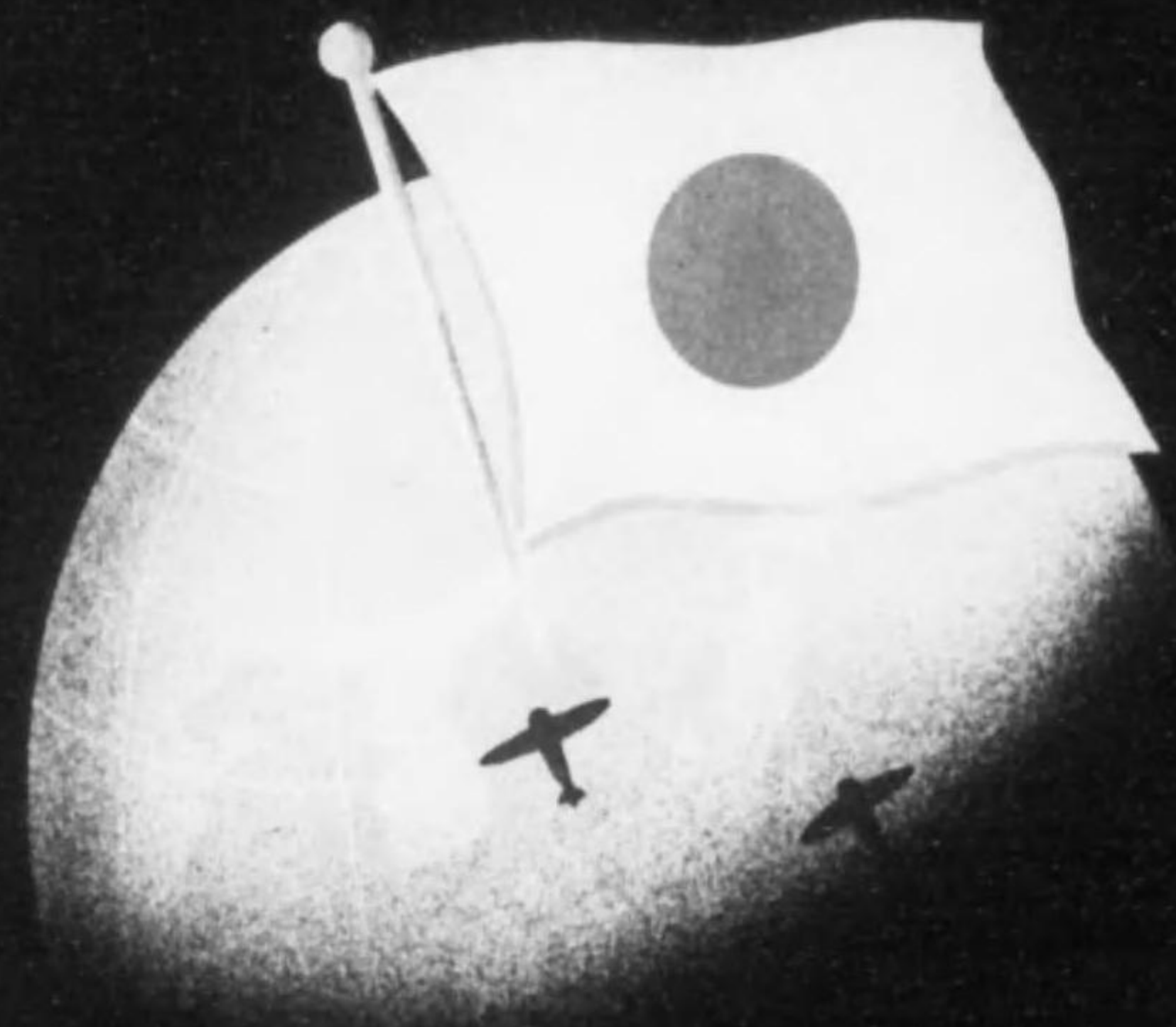


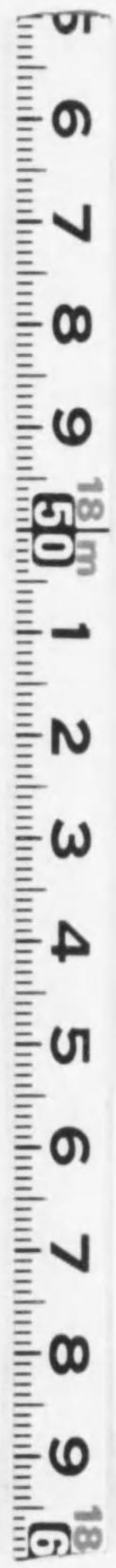
會覽展金白と防

録目品出

特 257
517



所張出京東局幣造



始



第 257
517



凡 例

本圖録は昭和十一年一月二十二日より同月二十九日まで、東京市日本橋、三越に於て、當所主催に係る國防に必要なる白金展覧會の出品圖録である。

陳列品中の圖表及諸統計は其重要なもののみを収録することとした。

昭和十一年二月



造幣局東京出張所

國防に
必要なる
白金展覽會要綱

- 一、會 期 自昭和十一年一月二十二日、至同年一月二十九日、一週間
- 二、會 場 東京市日本橋、三越五階西館
- 三、主 催 造幣局東京出張所
- 四、後 援 内閣資源局、陸軍省、海軍省
- 五、趣旨及目的

從來白金ニ關シテハ單ニ裝身具トシテノミ使用セララルガ如ク考ヘラレ來リシガ、最近科學ノ進歩發達ニ伴ヒ理化學工業、電氣工業等廣汎ニ互リテ使用セラレ、殊ニ軍事上最モ必要ナル爆藥ノ製造、硫酸ノ製造、送受信機ノ接點等其用途ハ頗ル多岐ニ涉リ、今日ニ於テハ國防上缺クベカラザル重要品トナレリ。

而ルニ我國ニ於テハ全ク其資源ヲ有セズ、年額三、四萬「オンス」ヲ國外ニ求ムルノ止ムヲ得ザル状態ニシテ一朝有事ノ際ハ誠ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ。

此ノ意味ニ於テ白金ニ關スル一般常識ヲ涵養スルト共ニ貴金屬製品品位證明制度ノ普及發達ヲ計リ、白金製品ノ品位ノ整正ヲ促シ、國防、國策ノ知見ヨリ、白金ノ國內保有ノ觀念養成ニ努メ、教育上ノ參考ト一般國民ノ教化ニ裨益セントスル目的ノ下ニ本展覽會ヲ開催スルコトトセリ。

六、出品部類

白金ニ關スル國勢ヲ現示スル圖表及諸統計表、軍事上、理化學工業、電氣工業上ノ一般資料

貴金屬製品品位證明ニ關スル資料

繪畫、寫眞、其他實物、標本、模型、參考資料

七、出品勸誘先

官衙、公署、會社、公共團體、個人

八、出品物ノ搬入及陳列

搬入、自昭和十一年一月二十日午後、至同月二十一日午前中

陳列、昭和十一年一月二十一日午後八時迄

九、出品物ノ搬出

昭和十一年一月二十九日午後五時半ヨリ午後六時半迄及昭和十一年一月三十日午前中

國防に必要なる 白金展覽會圖錄目次

(一) 圖 錄

國防に必要なる 白金展覽會々場平面圖	一
白金展覽會々場入口	二
白金展覽會に大角海軍大臣御臨場	三
白金展覽會々場(其の一)	四
白金展覽會々場(其の二)	五
白金展覽會々場(其の三)	六
白金と爆破(爆破狀況パノラマ)(其の一)	七
白金と爆破(鐵條網爆破模型)(其の二)	八
硝酸製造工程模型	九
醫療器具及機械	一〇
白金を使用したる兵器類	一一
本邦白金の用途別消費狀況	一二
白金の世界生産狀況及本邦輸入狀況	一三
本邦過去十ヶ年白金輸入額	一四

世界白金屬生産額及輸出入額一覽表	一三
世界列強の白金屬國內需要額比較表	一四
北米合衆國に於ける白金の需要狀況	一五
貴金屬製品品位證明濟製品模型	一六
白金ナゲット及金ナゲット標本	一七
電氣爐及各種計器類	一八
電信電話機及同上接點	一九
英國アクトン製鍊所に於ける貴金屬の分離精製法及白金に關する圖書其他各種文獻	二〇
白金電氣爐、理化學工業及電氣工業用諸器具	二一
高周波電氣爐、理化學工業用器具、齒科用白金及白金屬鍍金裝置	二二
爆藥バークロ製造工程	二三
鹽素酸曹達、鹽素酸加里及鹽素酸アンモニア製造工程	二四
硫酸アンモニア、爆藥の製造工程及各種化學工業用藥品、原料	二五
人造絹絲の製造工程	二六
白金箔、粉の製造工程及白金絲、白金箔を使用したる製品	二七
過鹽素酸アンモニア製造工程及硫酸製造工程	二八
白金の製煉系統圖及各種實物標本	二九
白金に關する圖書及各種文獻	三〇

理化學用器具、化學工業用觸媒、醫療用器具、白金塊及各種白金合金	三一
白金の精製法、白金塊及齒科用白金	三二
白金の瓦斯熔解實演	三三
白金寶飾品(白金側時計各種)	三四
白金寶飾品(白金側時計各種)	三五
白金寶飾品(白金と眞珠)	三六
白金寶飾品の即賣場	三七

(二) 圖表及諸統計表

我國の極印制度説明表	三九
世界の極印制度分布圖	四〇
世界各國の極印制度比較表	四一
我國の證明極印圖	四二
世界の主要國極印圖	四三
英國の證明極印	四四
瑞西の證明極印	四五
佛國の證明極印	四六
奧國の證明極印	四七

貴金屬製品檢定依頼數の地金別比較表	四六
白金製品檢定依頼數の品位別比較表	四七
貴金屬製品品位證明箇數指數表	四八
白金製品の品位の動向	四八
金製品の品位の動向	四九
白金製品品位別量目表	五〇
白金合金の配合及用途の説明表	五一
市販無檢定貴金屬製品の分析例	五一
國家檢定濟製品の種々相(廻轉式デオラマ)	五二
白金賣買價格の差及金の市價との比較表	五三
白金網一箇(一疋)の年硝酸製造能力	五三
白金と火藥、爆藥との關係	五七
硝酸製造工程圖	五八
白金屬分析表	五九
白金の精製法	六〇
白金の回收法	六一

(三) 總目録

國防に必要なる白金展覽會出品總目録	六三
貴金屬屬相談所	七三
入場者	七三

(四) 附録

白金の話	七五
------	----

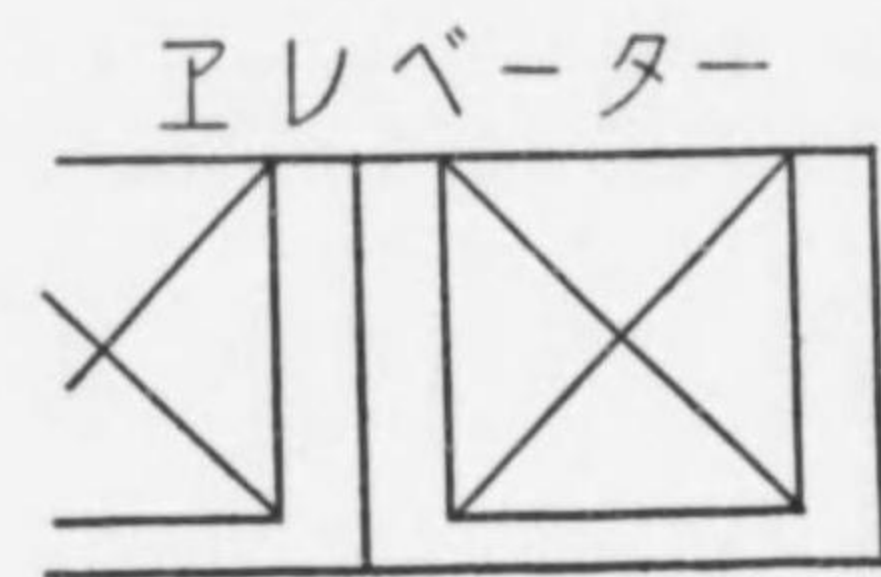
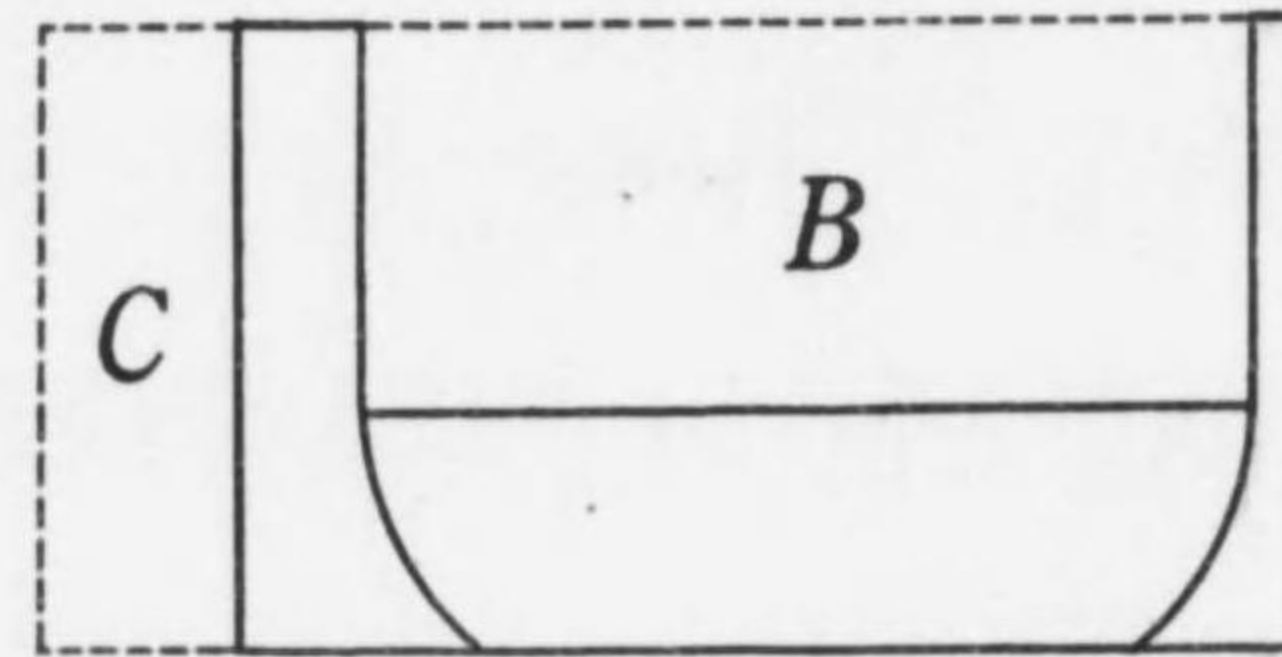
(一)

圖

錄

△

□

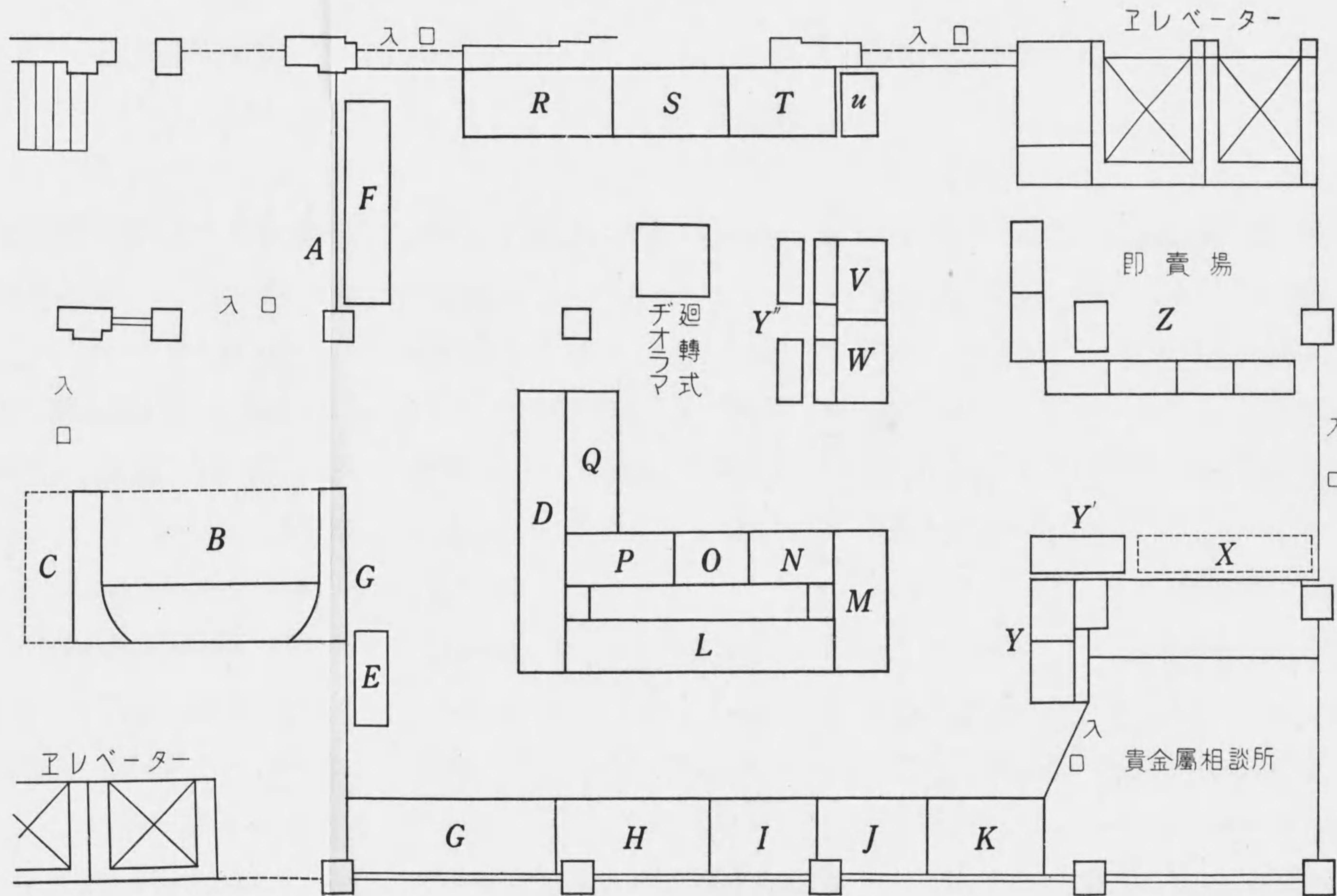


凡
例

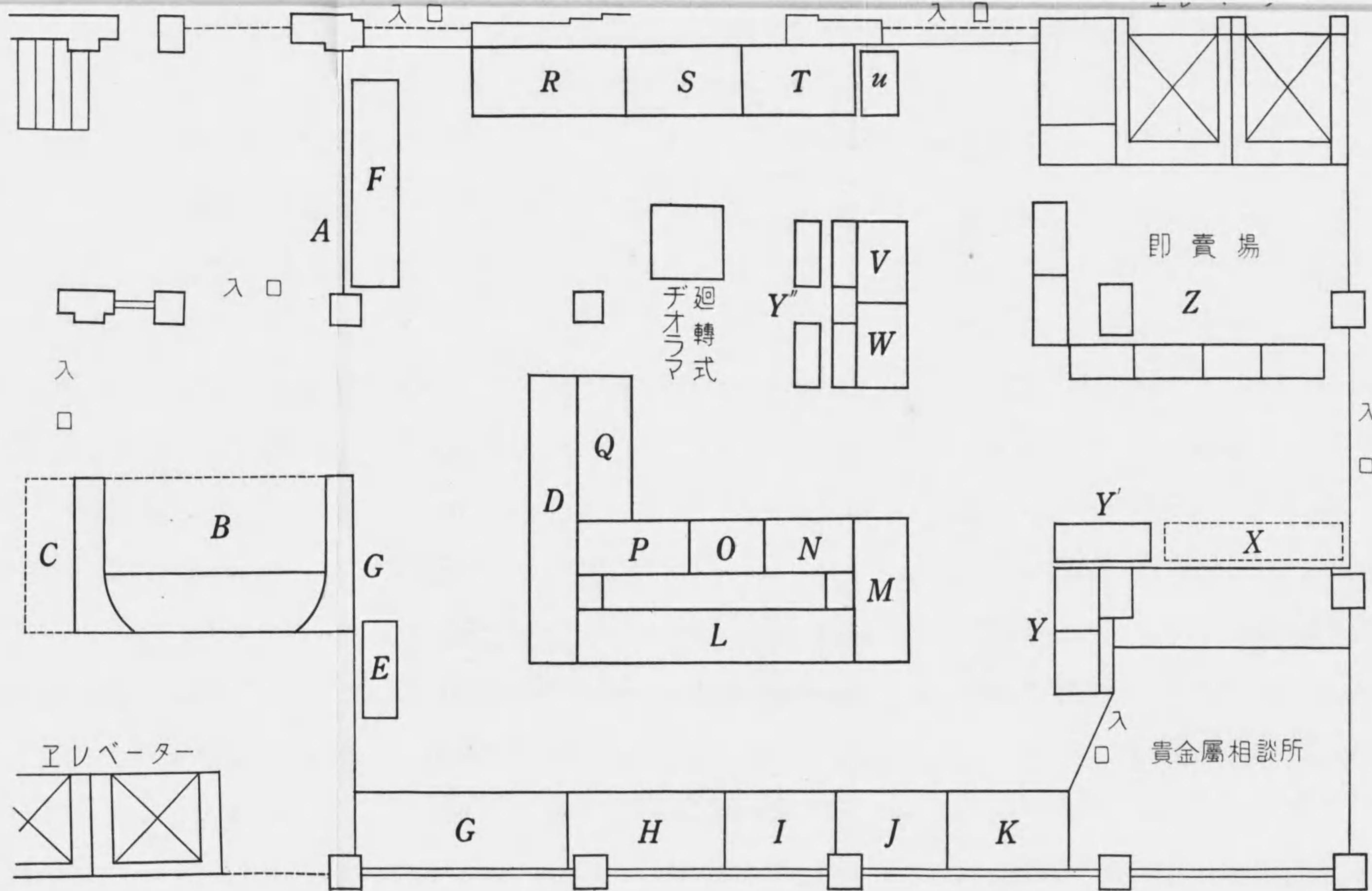
- A. 會場
- B. 陸軍省()
- C. 陸軍省()
- D. 陸軍造手
- E. 陸軍衛士
- F. 海軍
- G. 資
- H. 造幣局
- I. 千野

國防に必要な白金展覽會會場平面圖(三越五階西館)

(縮尺)



- | | | | |
|------------------|-------------|-------------|-------------|
| A. 會場入口 | J. 沖電氣株式會社 | S. 日本曹達株式會社 | Z. 即賣場 |
| B. 陸軍省(爆破狀況パノラマ) | K. ニッケル時報局 | T. 日本鑛業株式會社 | 日本白金協會 |
| C. 陸軍省(鐵條網爆破模型) | L. 株式会社津製作所 | U. アグネエ學社 | 細沼貴金屬工業株式會社 |

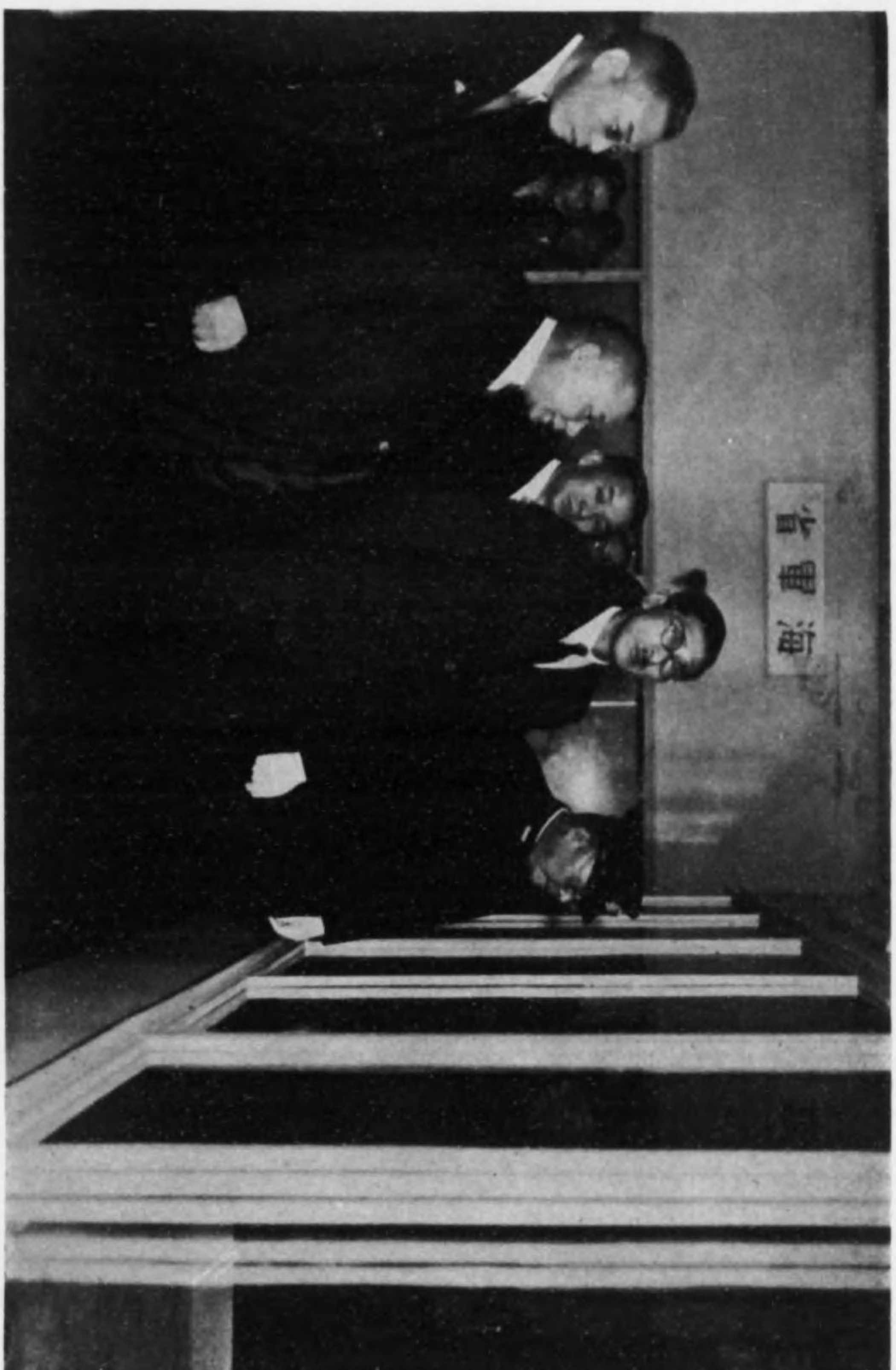


凡例

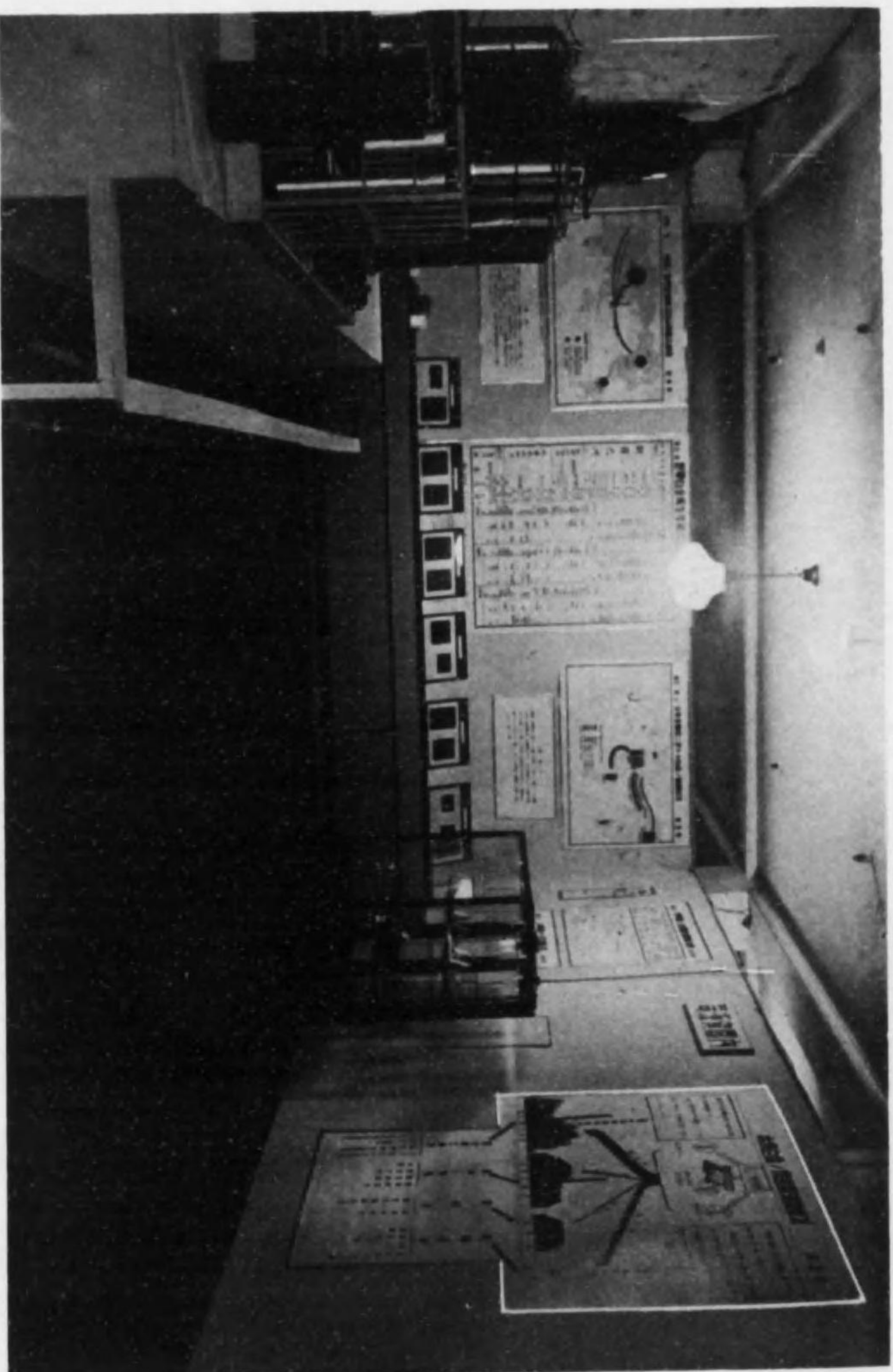
- | | | | |
|------------------|---------------|-----------------------|-------------|
| A. 会場入口 | J. 沖電気株式会社 | S. 日本曹達株式会社 | Z. 即賣場 |
| B. 陸軍省(爆破状況パノラマ) | K. ニツケル時報局 | T. 日本鑛業株式会社 | 日本白金協会 |
| C. 陸軍省(鐵條網爆破模型) | L. 株式会社 島津製作所 | U. アグネ工学社 | 細沼貴金屬工業株式会社 |
| D. 陸軍造兵廠火工廠 | M. 株式会社 徳力本店 | V. 株式会社 田中商店 | 梶田久治郎 |
| E. 陸軍衛生材料廠 | N. 昭和火藥株式会社 | W. 株式会社 石福商店 | 株式会社 山崎商店 |
| F. 海軍省 | O. 日本電気工業株式会社 | X. 株式会社 田中商店(白金ノ熔解賞演) | 天野時計寶飾品株式会社 |
| G. 資糧局 | P. 昭和肥料株式会社 | Y. 株式会社 服部時計店 | 金店 吳忠藏 |
| H. 造幣局東京出張所 | Q. 昭和人絹株式会社 | Y'. 株式会社 吉田時計店 | 株式会社 三輪屋商店 |
| I. 千野製作所 | R. 三井鑛山株式会社 | Y". 御木本眞珠店 | 溝口萬吉 |



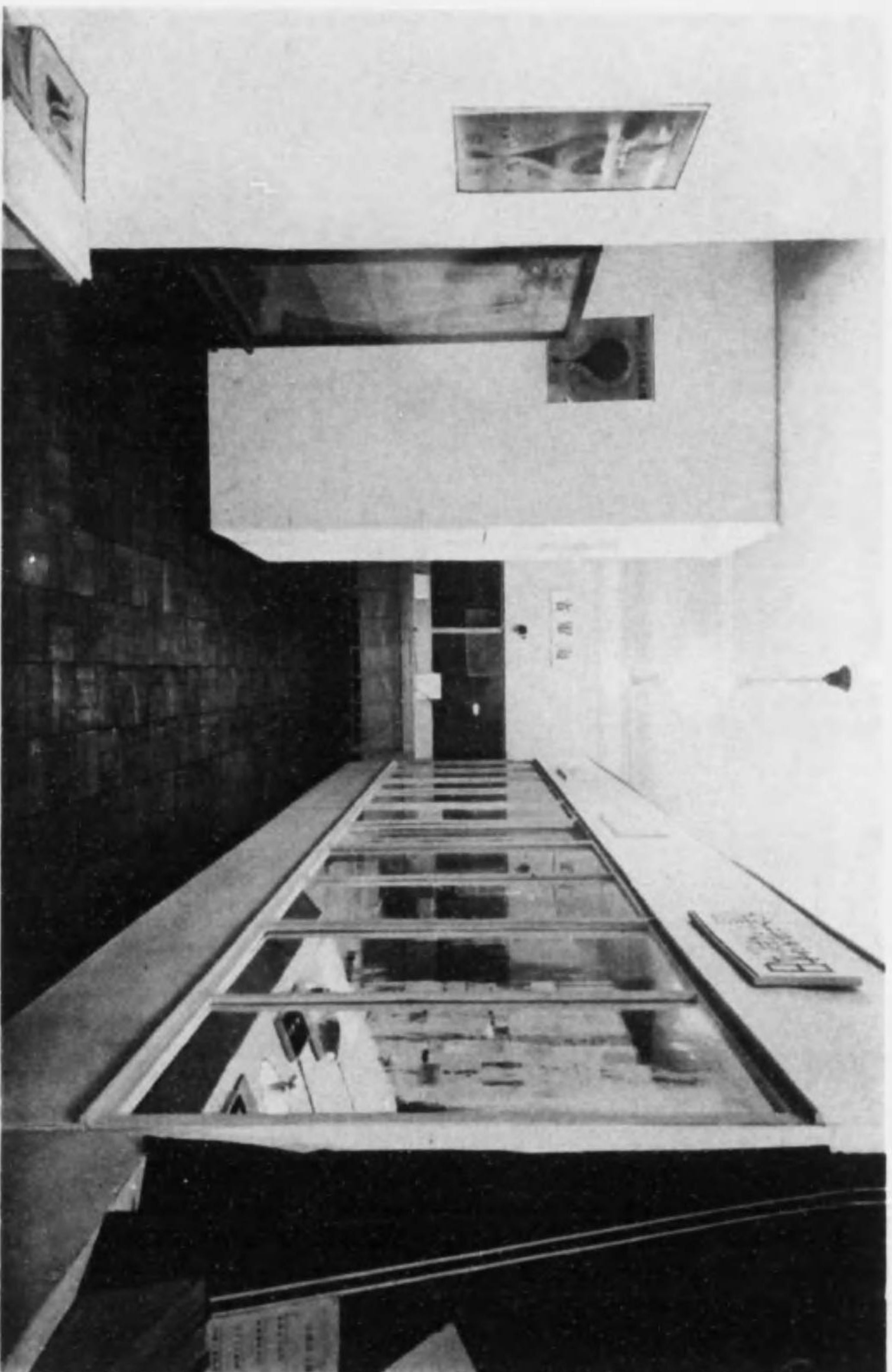
白金展覽會々場入口



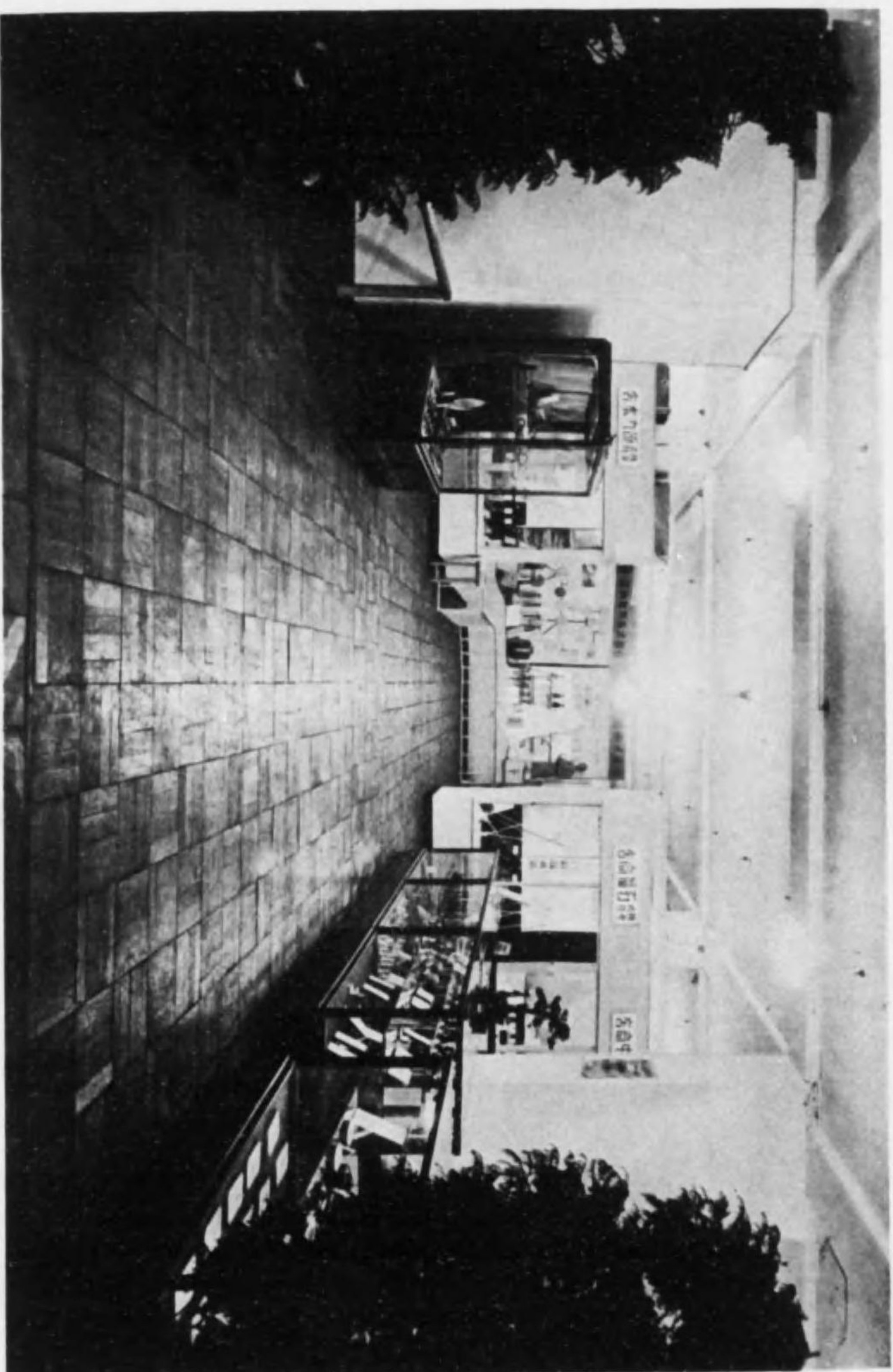
(日五十二月一年一十和昭) 場臨御臣大軍海角大に會覽展金白



(一の其) 場々會覽展金白



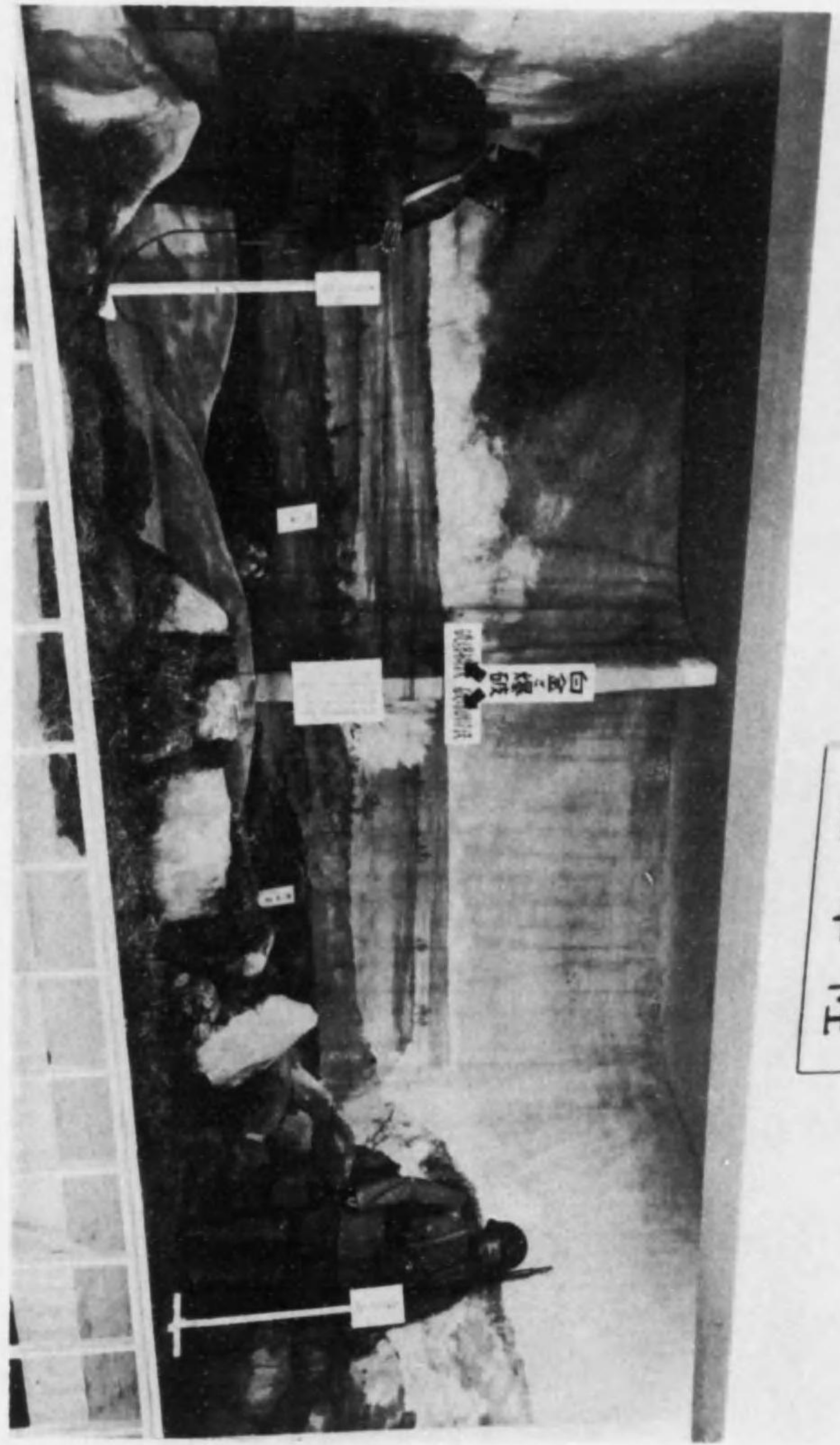
(二の其) 場々會覽展金白



(即賣場の一部)

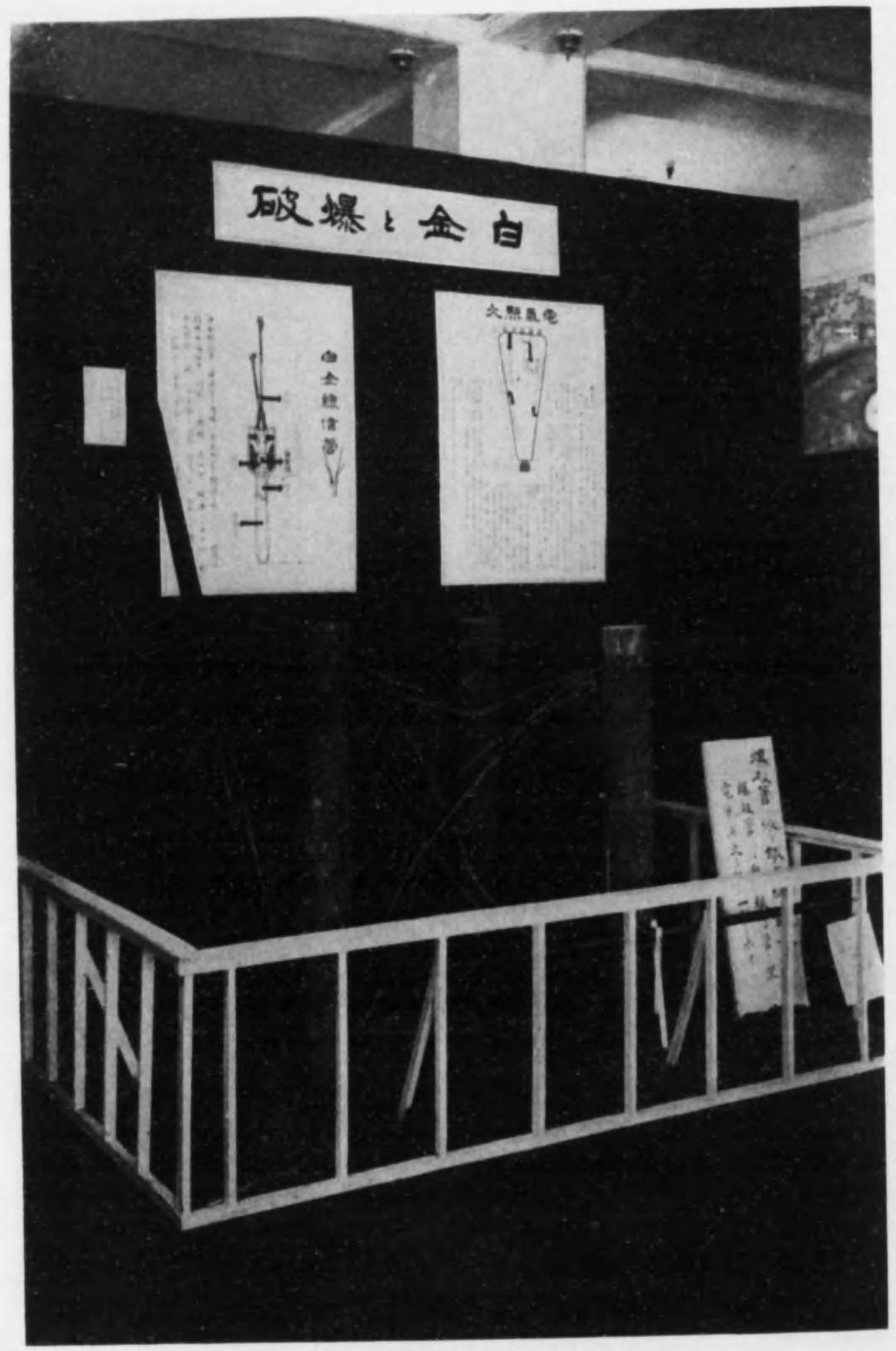
(三の其) 場々會覽展金白

陸軍省



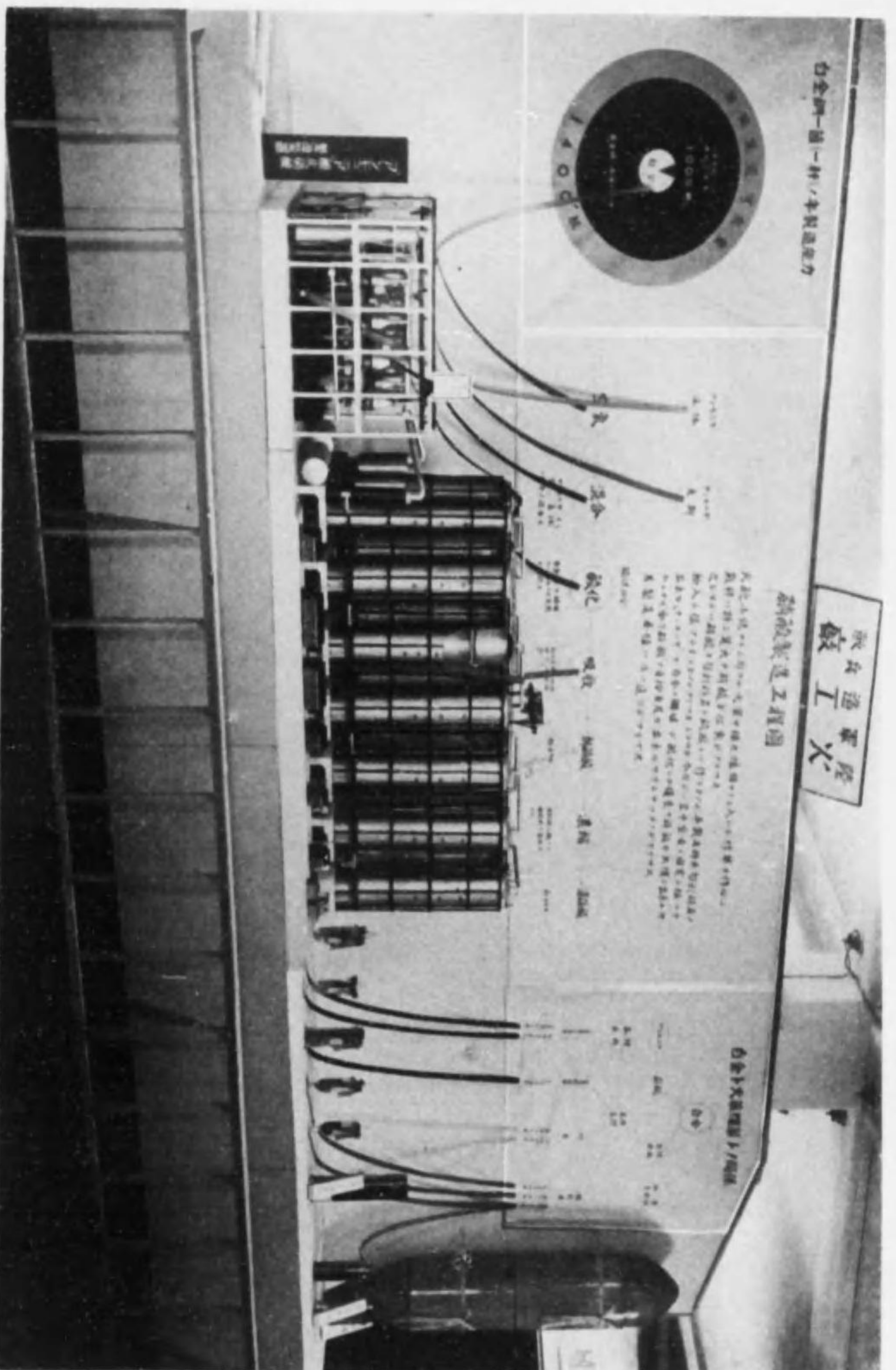
一の其 (バラノバ況狀破爆) 破爆と金白

(陸軍省出品)



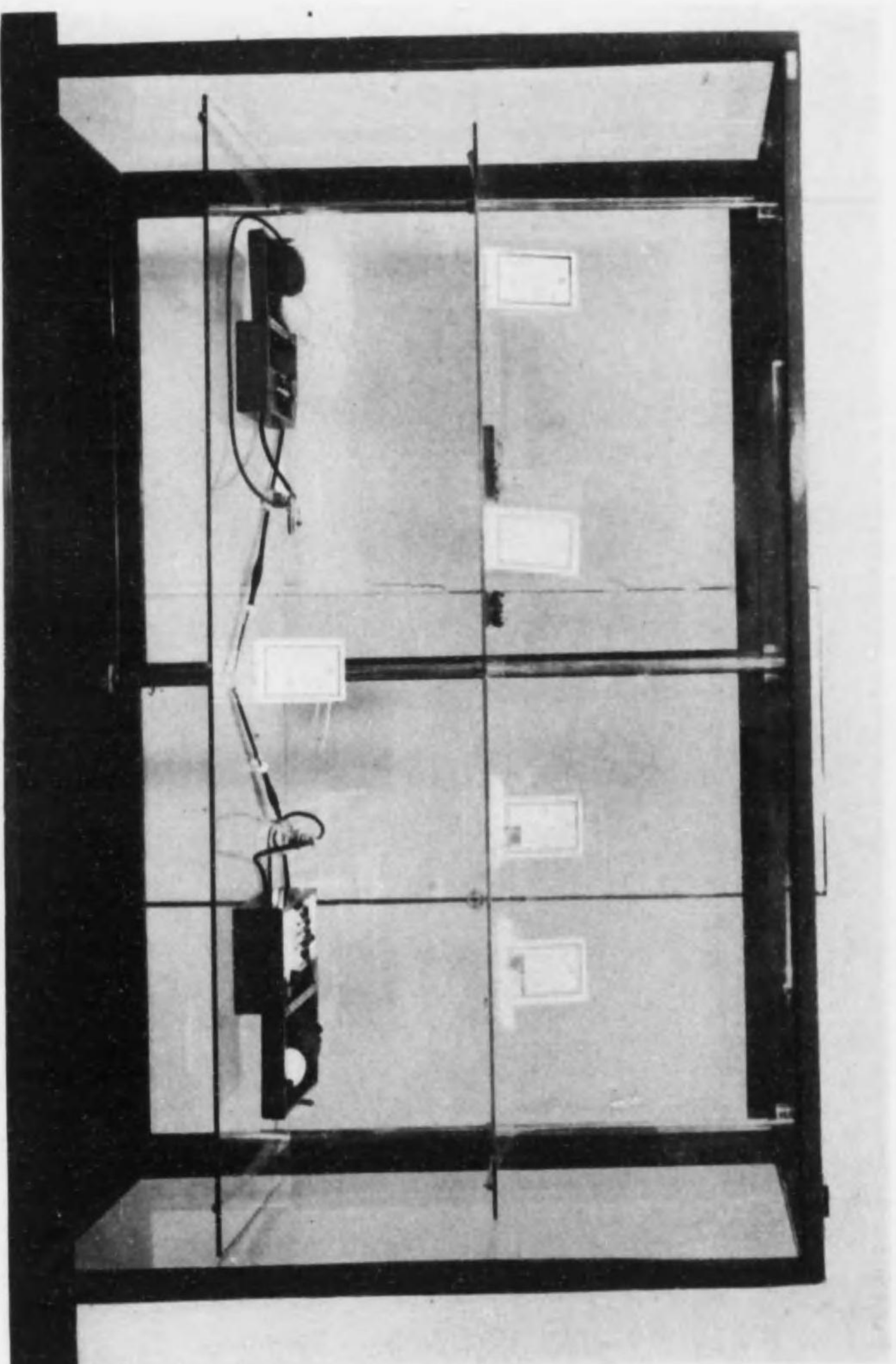
二の其 (型模破爆網條鐵) 破爆と金白

(陸軍省出品)



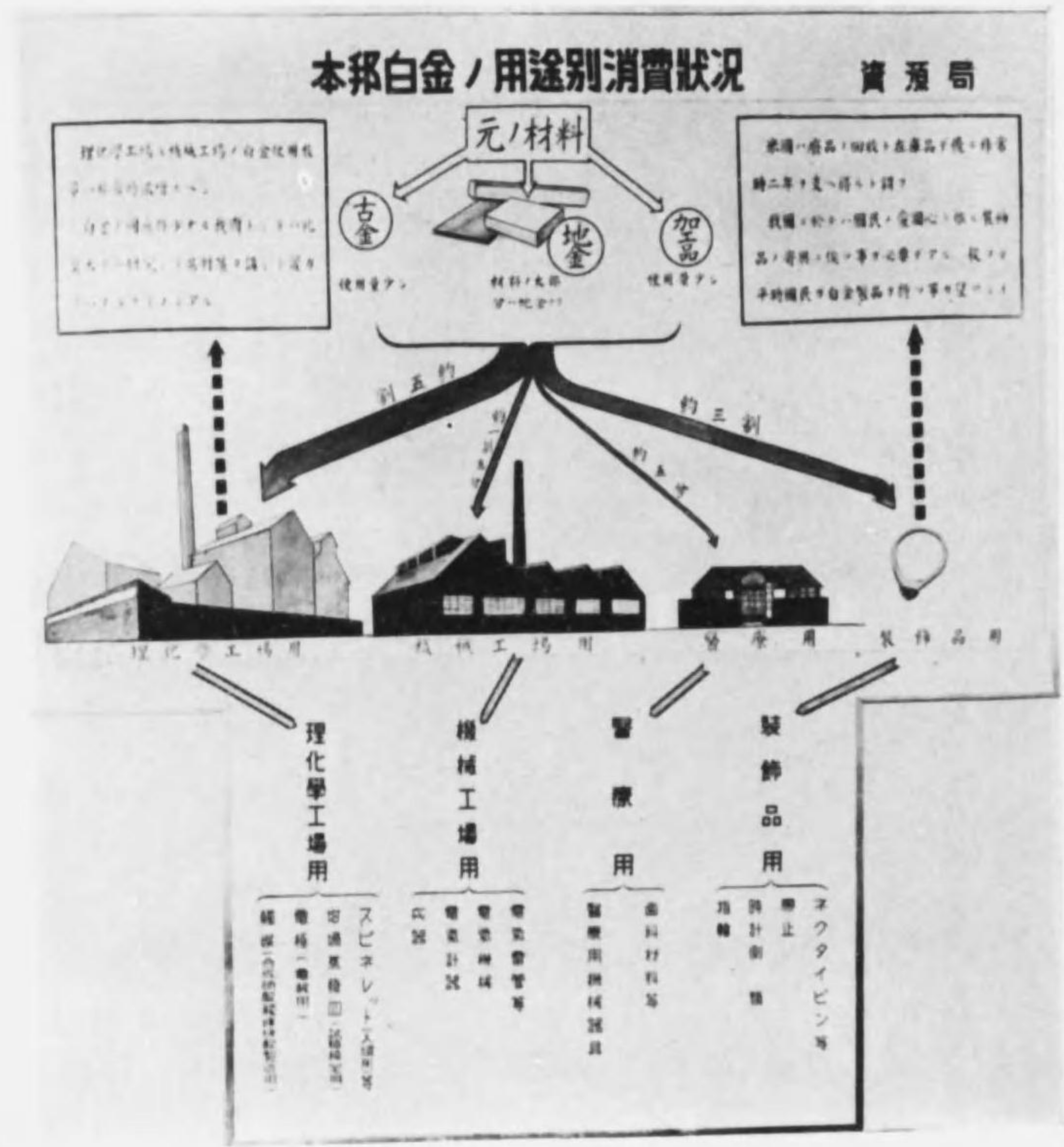
陸軍省(造兵廠火工廠)出品

硝 酸 製 造 工 程 模 型

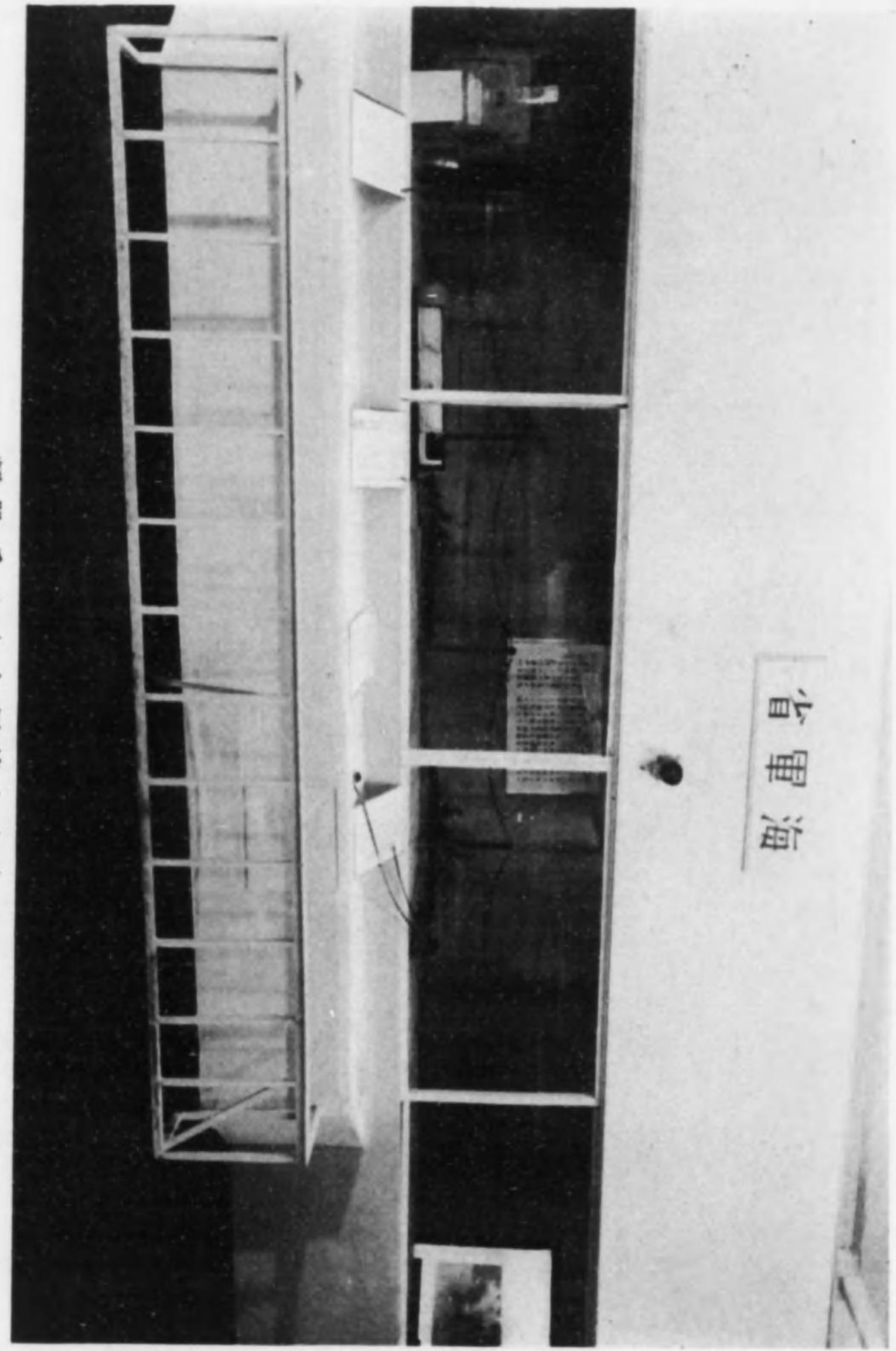


陸軍省(衛生材料廠)出品

醫 療 器 具 及 器 械



本邦白金の用途別消費状況



(身庫貯金)

白金使用の兵器類

單位 世界白金屬生産額又輸出入額一覽表 資源局

地域	領域	年次	昭和7年			昭和8年			昭和9年			
			生産額	輸出額	輸入額	生産額	輸出額	輸入額	生産額	輸出額	輸入額	
歐羅巴洲	日本	粗白金	8	-	343	7	-	1027	7	-	1208	
	英吉利	粗白金	-	214	1220	-	463	193	-	446	541	
	フランス	粗白金	-	8	9	-	51	11	-	153	-	
	ドイツ	粗白金	-	222	1297	-	523	361	-	599	541	
	オランダ	粗白金	-	693	3336	-	2547	3530	-	2241	2283	
	ベルギー	粗白金	-	451	995	-	446	1836	-	408	1160	
	イタリア	粗白金	-	222	123	-	300	151	-	163	141	
	スペイン	粗白金	-	673	1119	-	746	1987	-	571	1301	
	スイス	粗白金	-	39	111	-	51	208	-	91	418	
	その他	粗白金	-	39	113	-	51	210	-	91	423	
北亞米利加洲	カナダ	粗白金	-	33	39	-	39	0	-	0	0	
	アメリカ	粗白金	-	53	623	-	33	734	-	33	4132	
	グアテマラ	粗白金	-	36	1025	-	22	1575	-	39	929	
	エルサルバドル	粗白金	-	0	708	-	0	0	-	0	91	
	コスタリカ	粗白金	-	0	0	-	0	0	-	0	252	
	パナマ	粗白金	-	0	0	-	0	0	-	0	0	
	その他	粗白金	-	0	0	-	0	0	-	0	0	
	合計	粗白金	-	122	623	-	94	734	-	72	59	5404
	合計	粗白金	-	2137	1734	-	1823	6277	-	1698	1681	
	大洋洲	オーストラリア	粗白金	1255	498	-	1425	-	-	1698	1681	-
ニュージーランド		粗白金	10	24	12	4	23	15	6	73	21	
その他		粗白金	24	33	-	17	20	-	15	-	-	
合計	粗白金	1289	555	12	1646	23	34	30	21	21		
世界總計	粗白金	7358	-	-	6895	-	-	12773	-	-		

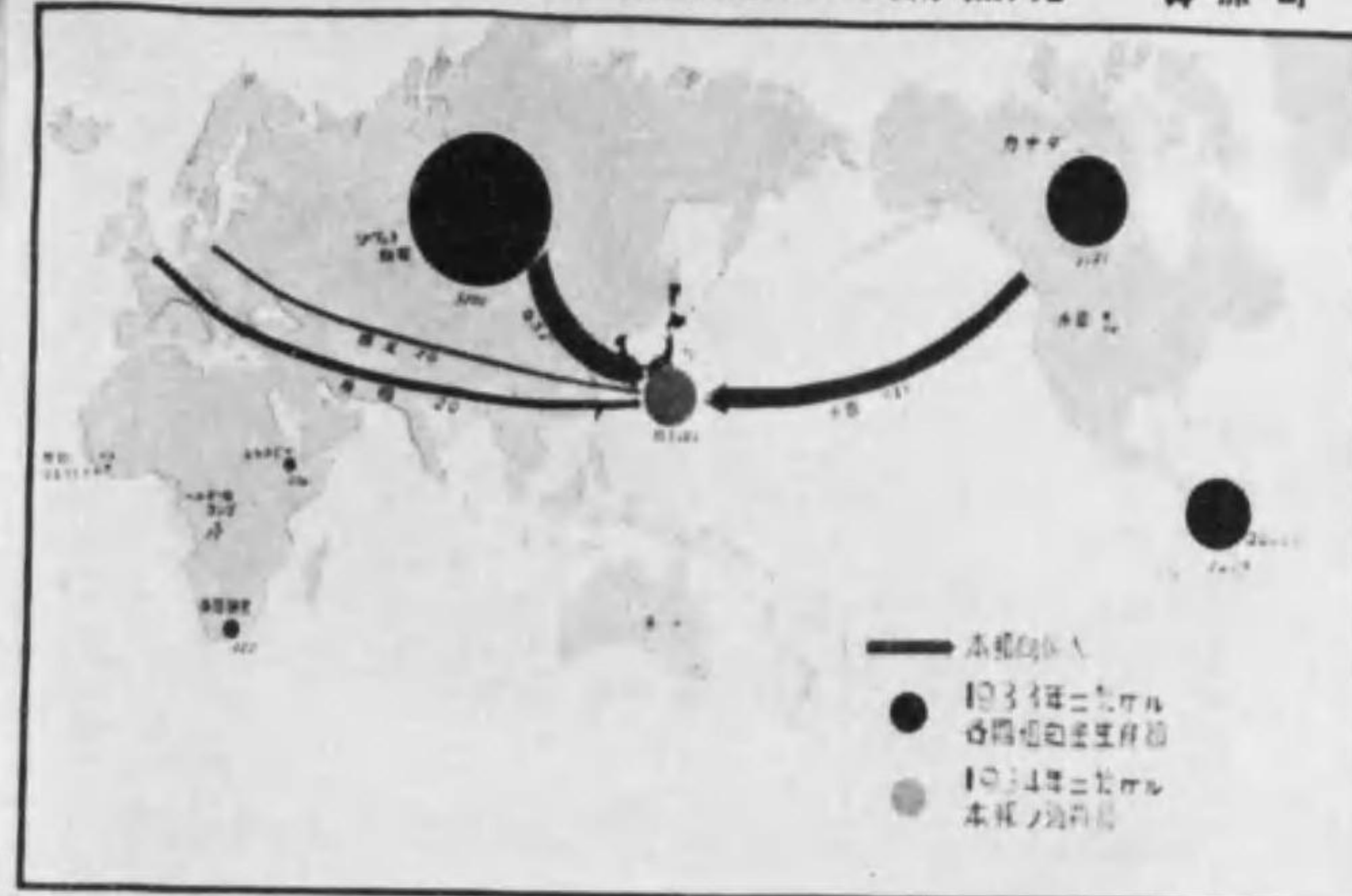
備考 資料出所 The Annual Industry of the British Empire and Foreign Countries 1931-1934
表中使用「算術」一次、如、

記事 加拿大、生産額中粗白金以外、オーストラリア、ニュージーランド、同数額計、北米合衆国、生産額中粗白金以外、国内、銅、鉛、錫、同数額計、其、他、各地、同数額計、其、他、一次、如、

	昭和7年	昭和8年	昭和9年
白金	670	1088	1100
パラチウム	180	149	174
イリジウム	115	22	41
その他	43	25	41
合計	1008	1284	1356

表覽一額入輸及額產生屬金白界世

單位 白金ノ世界生産狀況及本邦輸入狀況 資源局



況狀入輸邦本及況狀產生界世の金白

單位 本邦過去十ヶ年白金輸入額 資源局

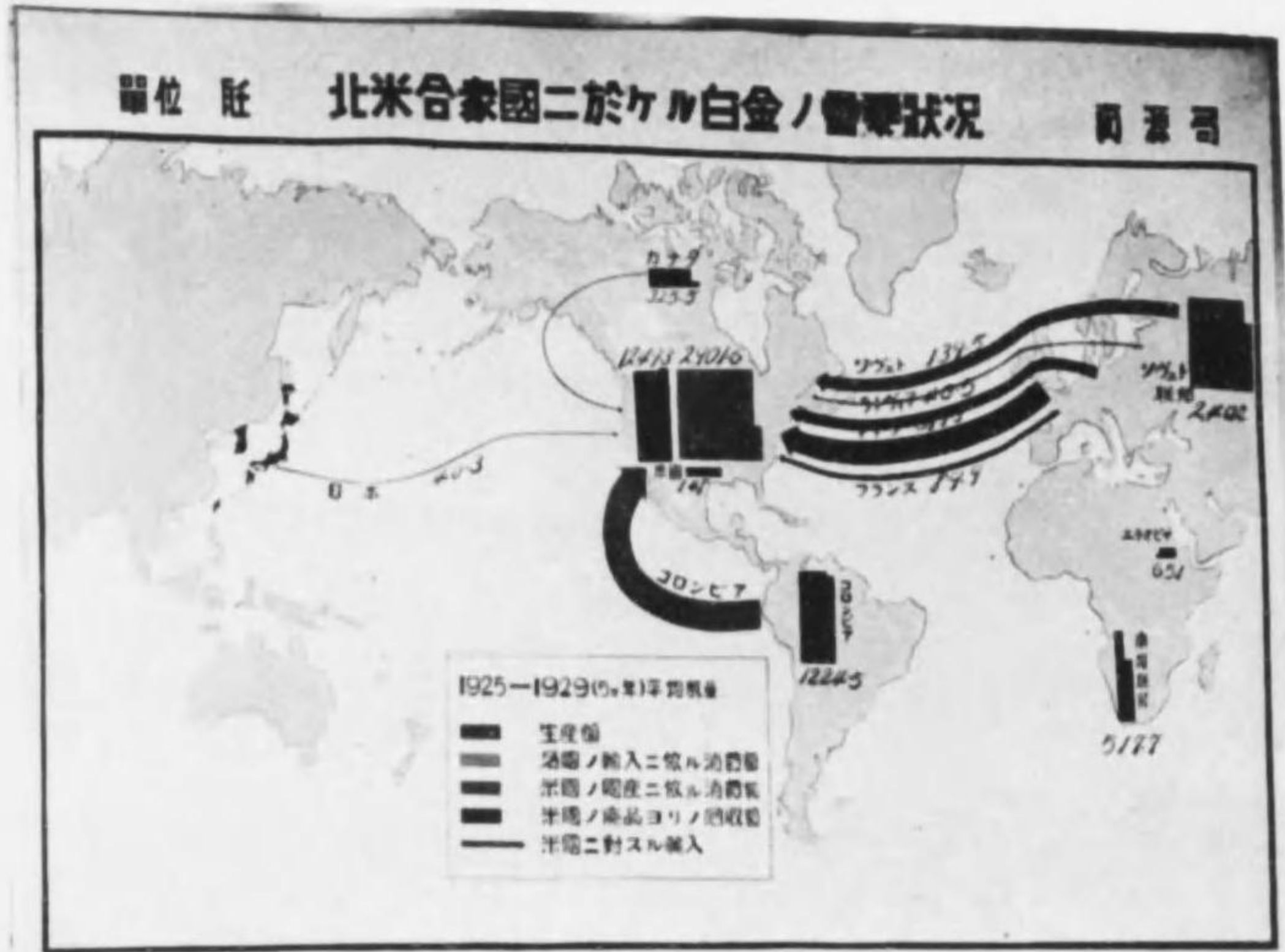
年次	大正14年	全15年	昭和2年	全3年	全4年	全5年	全6年	全7年	全8年	全9年
露國産物	-	-	0	123	-	-	-	161	3	-
英吉利	1	-	0	1	5	1	153	2	1	20
フランス	-	-	3	18	-	-	-	3	-	16
オランダ	-	-	194	189	258	263	615	109	742	658
北米合衆国	-	58	147	316	182	219	234	69	285	518
合計	1	58	344	647	445	483	1002	344	1031	1212

備考 資料出所 日本外関手帳年表
○ 單位未滿

額入輸金白年々十去過邦本

(内閣資源局出品)

(内閣資源局出品)



(内閣資源局出品)

— 説明 —

米國ハ自國內ニ極メテ少量ノ白金シカモシテ居ナイガ上ニ
 ノ如ク世界最大ノ消費國ナル 從テ商品ヨリノ回收モ莫
 大ナル額ニ上リ其ノ二分分ト在商品ヲ使用スレバ裝飾品ニ
 手ヲツケルコトナク僅ニ二年ノ非常時ノ軍需品ヲ購ヒ得ル
 ト云フ 要シイ限リテハナイカ

況狀要需の金白るけに國衆合米北

單位 既 世界列強ノ白金屬國內需要額比較表 資源局

項目	日本	英吉利	獨逸	佛蘭西	伊太利	ソソ聯邦	北米合衆國
生産額	7 × 4058	—	—	—	—	—	* 3100 △ 1324
輸出額	—	* 3112	1826	663	59	◎ 3007	471
輸入額	859	× 756	3054	1469	245	—	4058
差引淨額	866	1702	1228	806	186	93	4911

備考
 △ 政府回收額ノ含ム
 × 推定額
 ◎ 輸出額不明ノソソ聯邦ニ對シテ日本ニ對シテノ輸入額
 × 英國列強ニ對シテノ輸入額

資料出所
 日本 資源局 統計部 統計年報 昭和7年(1932) 第1卷 第1頁

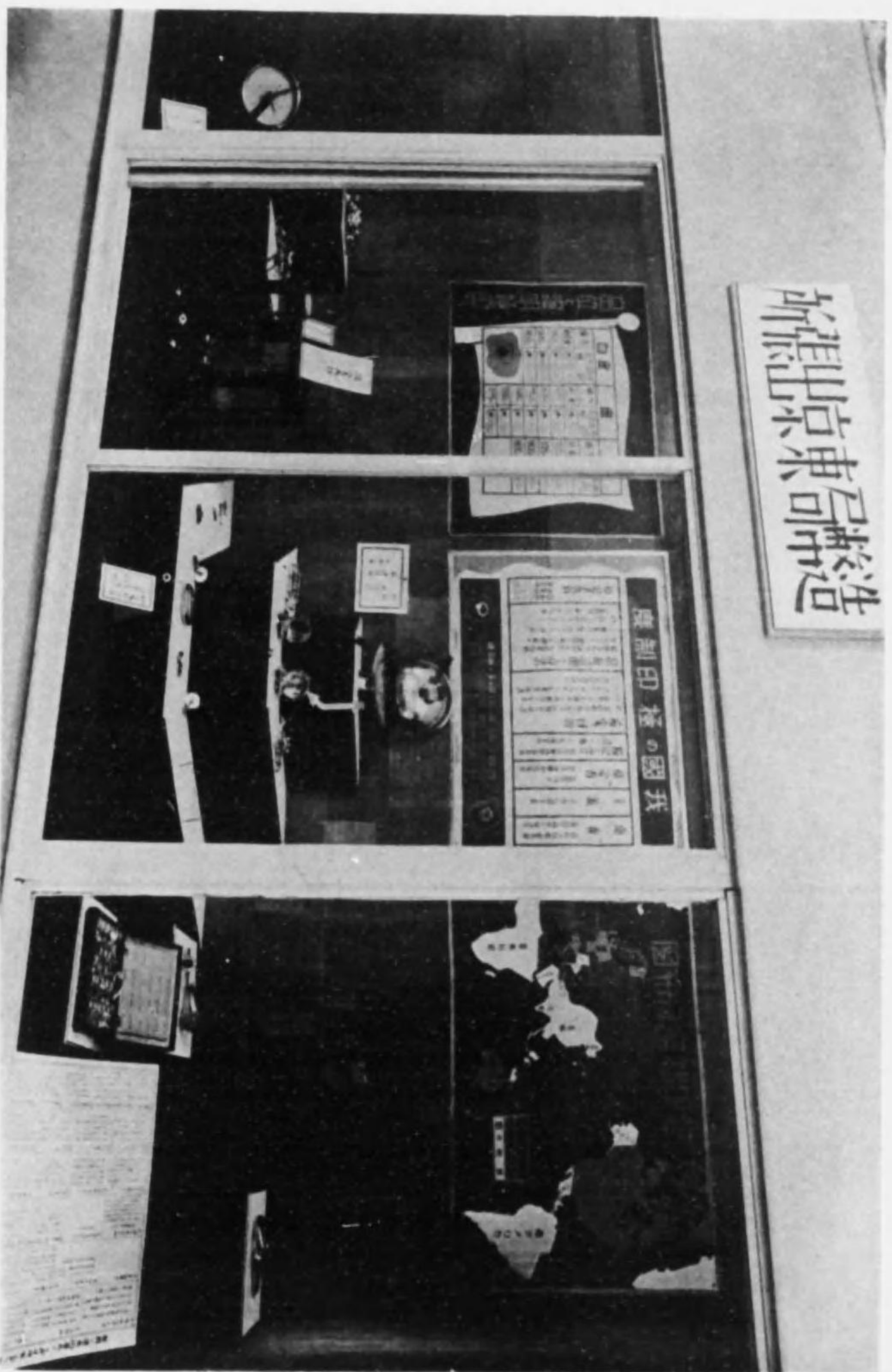
記事
 昭和7年(1932)平均数量

(内閣資源局出品)

— 説明 —

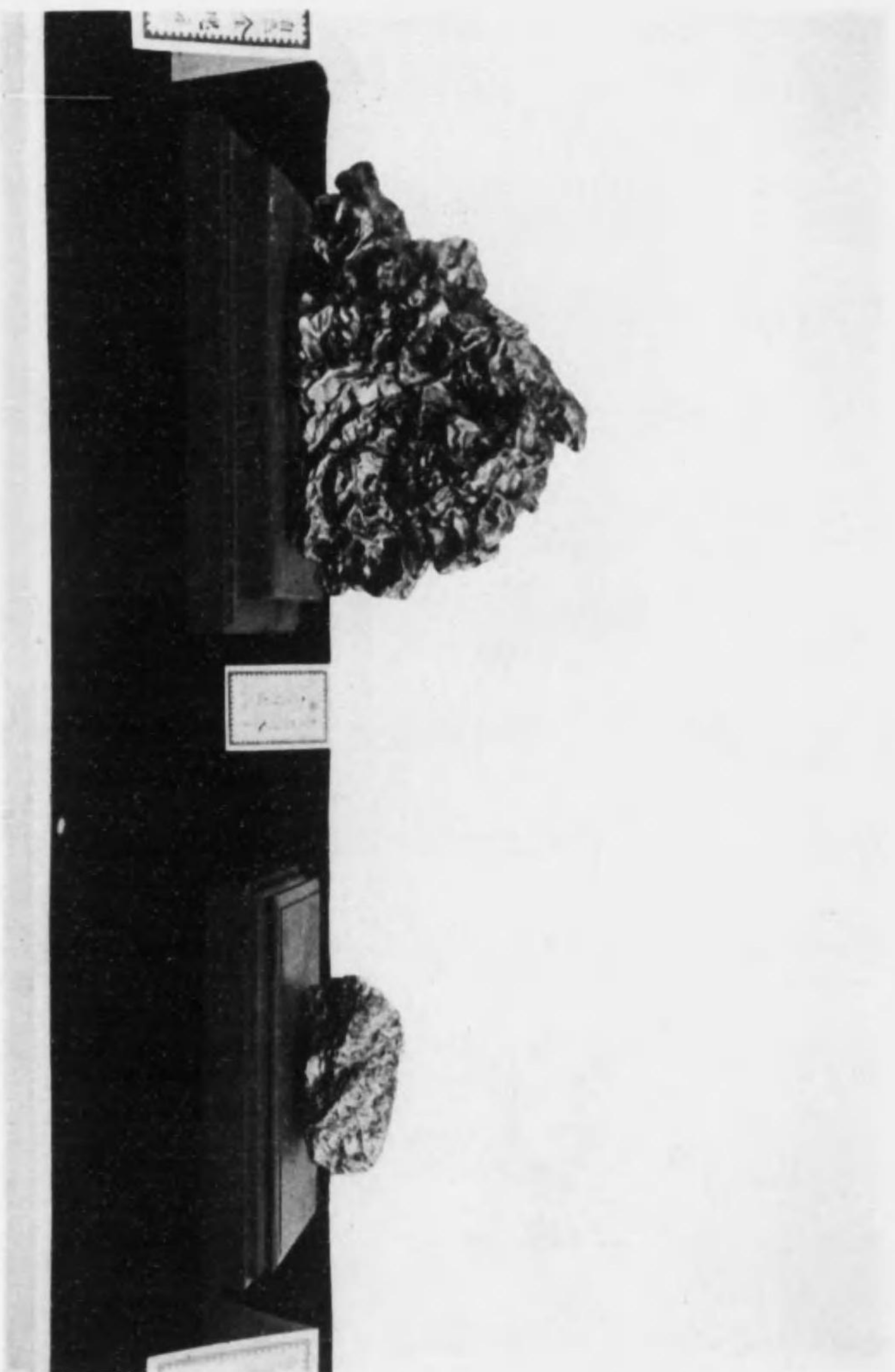
我國內ニ於テハ二三ノ製錬所ノ副産物トシテ僅少ノ白金ノ生
 産アル外北海道ニ若干ノ砂白金(白金含有率少ク)アルニ止マル
 從テ現在ノ消費ノ大部分ハ之ヲ歐州及米國ヨリノ輸入ニ依ツテ
 屬ル 而テ米國ガ其ノ輸入シタル白金ノ相當量ヲ商品中ヨリ回
 收再使用シテ居ル程度ニハ未ダ達シテ居ナイ
 此ノ如キ次第ニ白金ニ對シテ我國ノ對非常時準備上大イニ研究
 スベキモノガアルノデアル

表較比額要需內國屬金白の強列界世



(臺灣東京出張所出品)

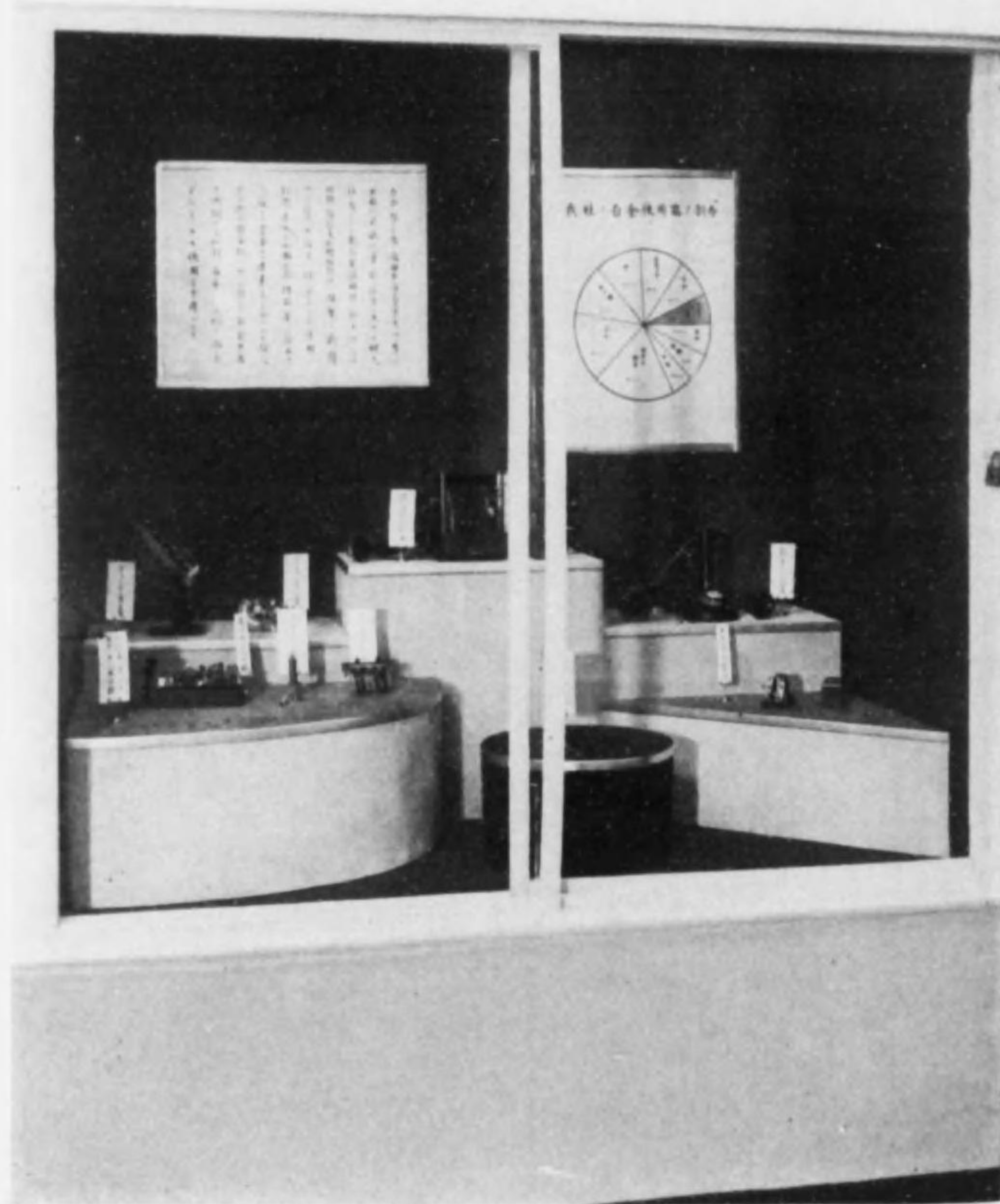
貴屬品位證明品製型



(東京帝國大學工學部出品)

本標(左)トツゲナ金 (右)トツゲナ金白

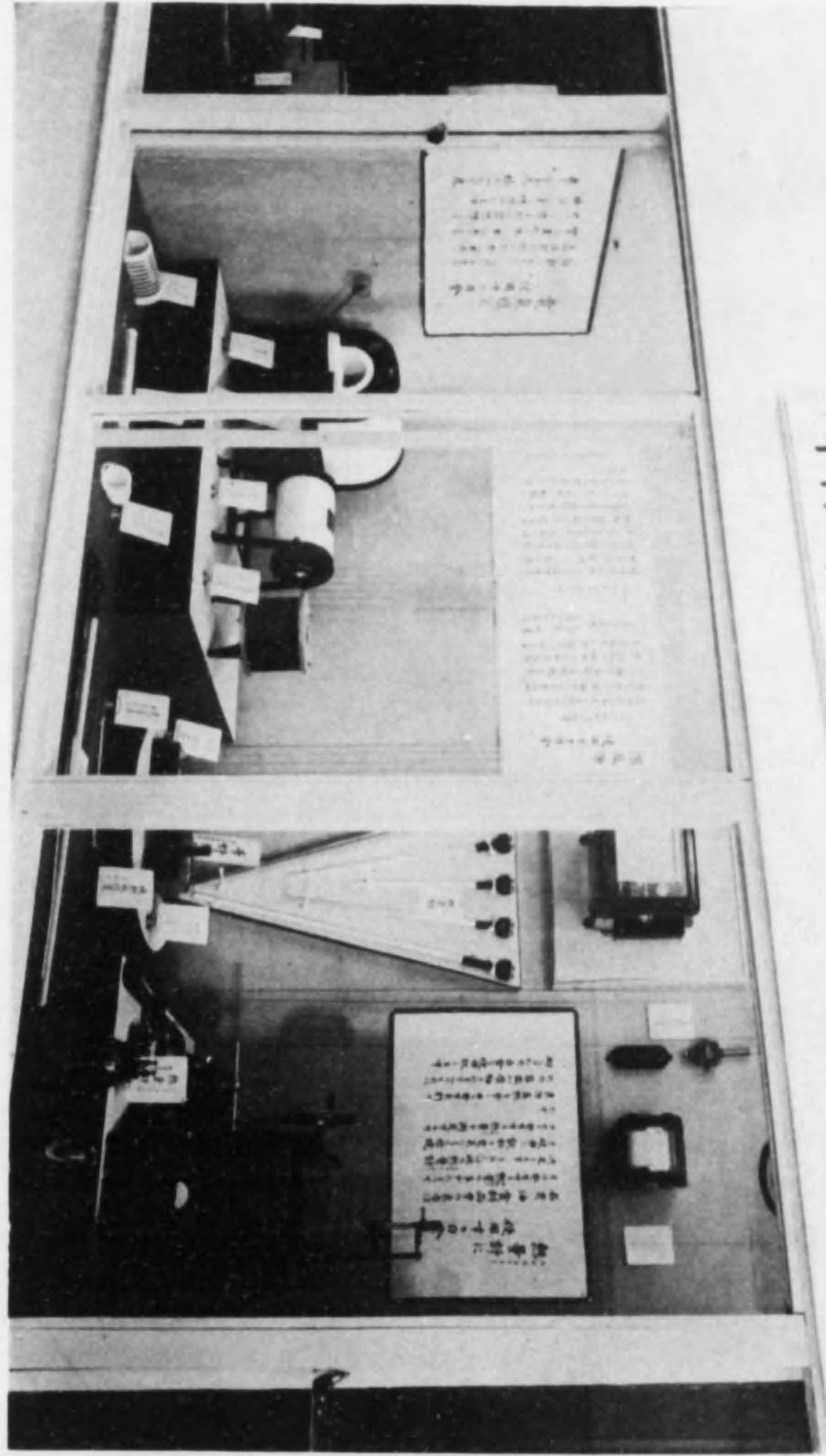
沖電氣株式會社



(沖電氣株式會社出品)

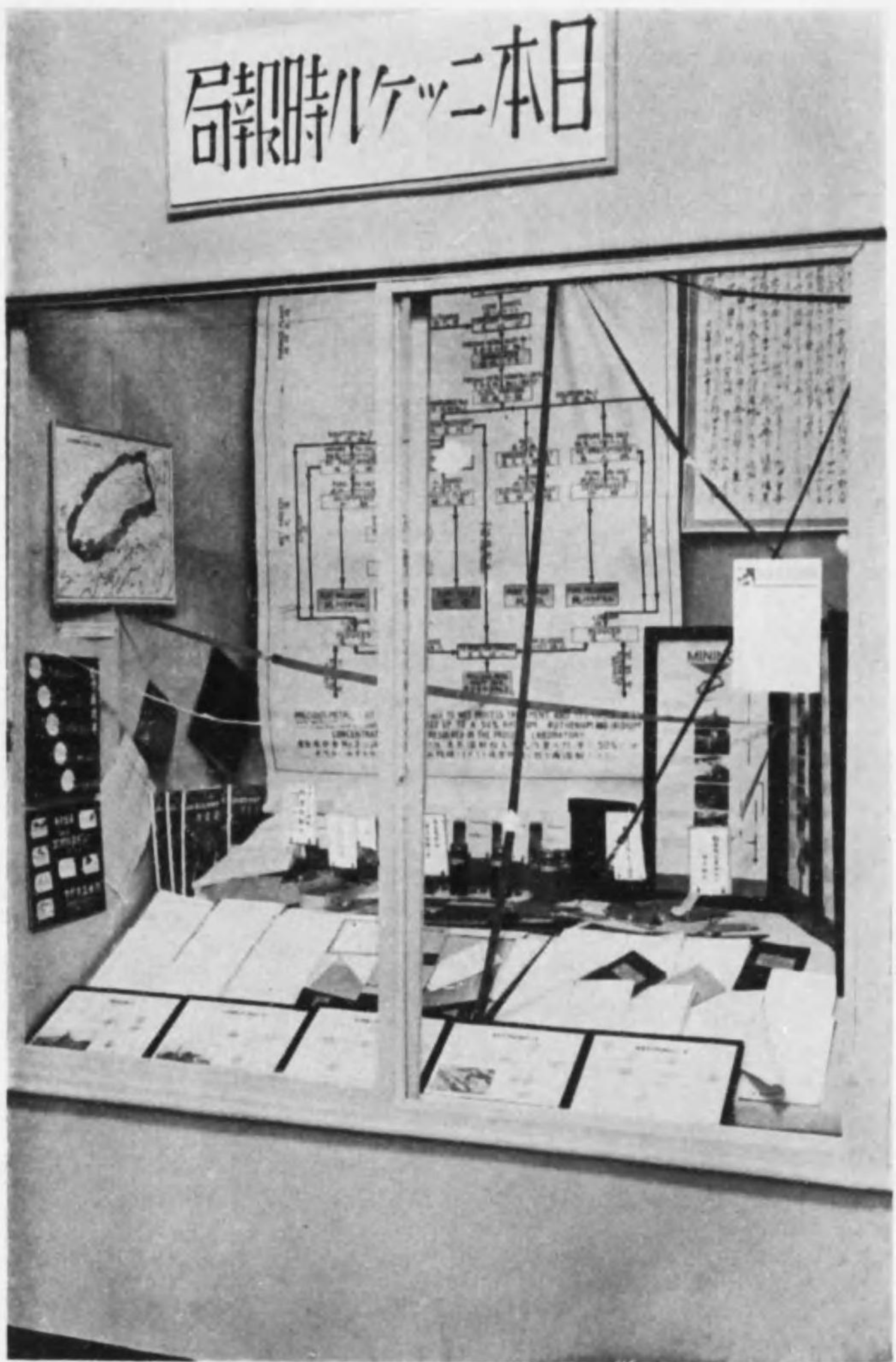
電信電話機及同接上點

千野製作所



(千野製作所出品)

電氣爐及各種計器類



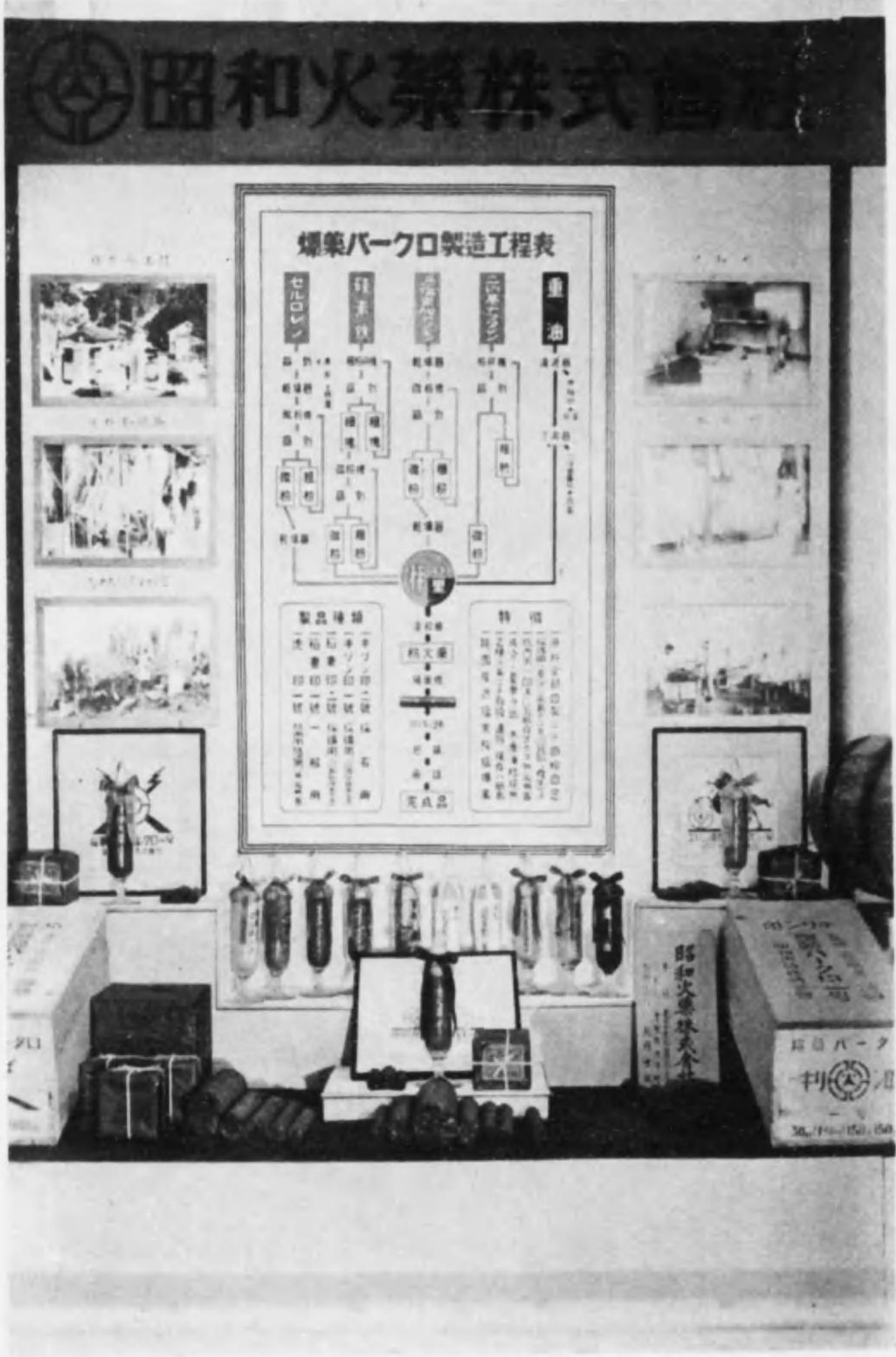
（日本ニッケル時報局出品）
二〇

英 國 精 鍊 所 於 此 貴 金 屬 分 離 精 製 法
及 白 金 關 於 其 書 圖 各 種 文 獻



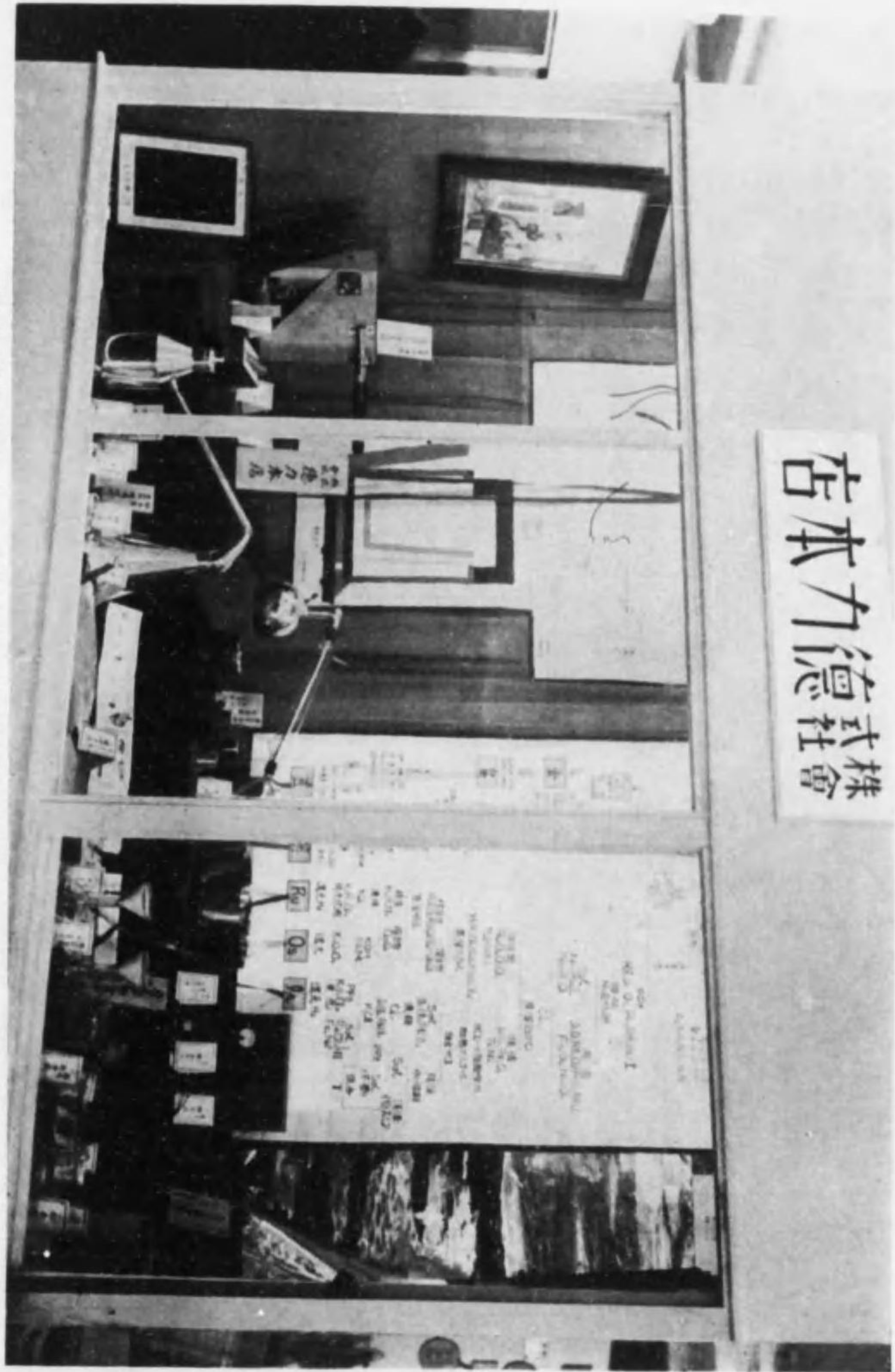
（株式會社
島津製作所出品）

白 金 電 氣 爐 、 理 化 工 業 及 電 氣 用 諸 器 具



爆薬パークロ製造工程

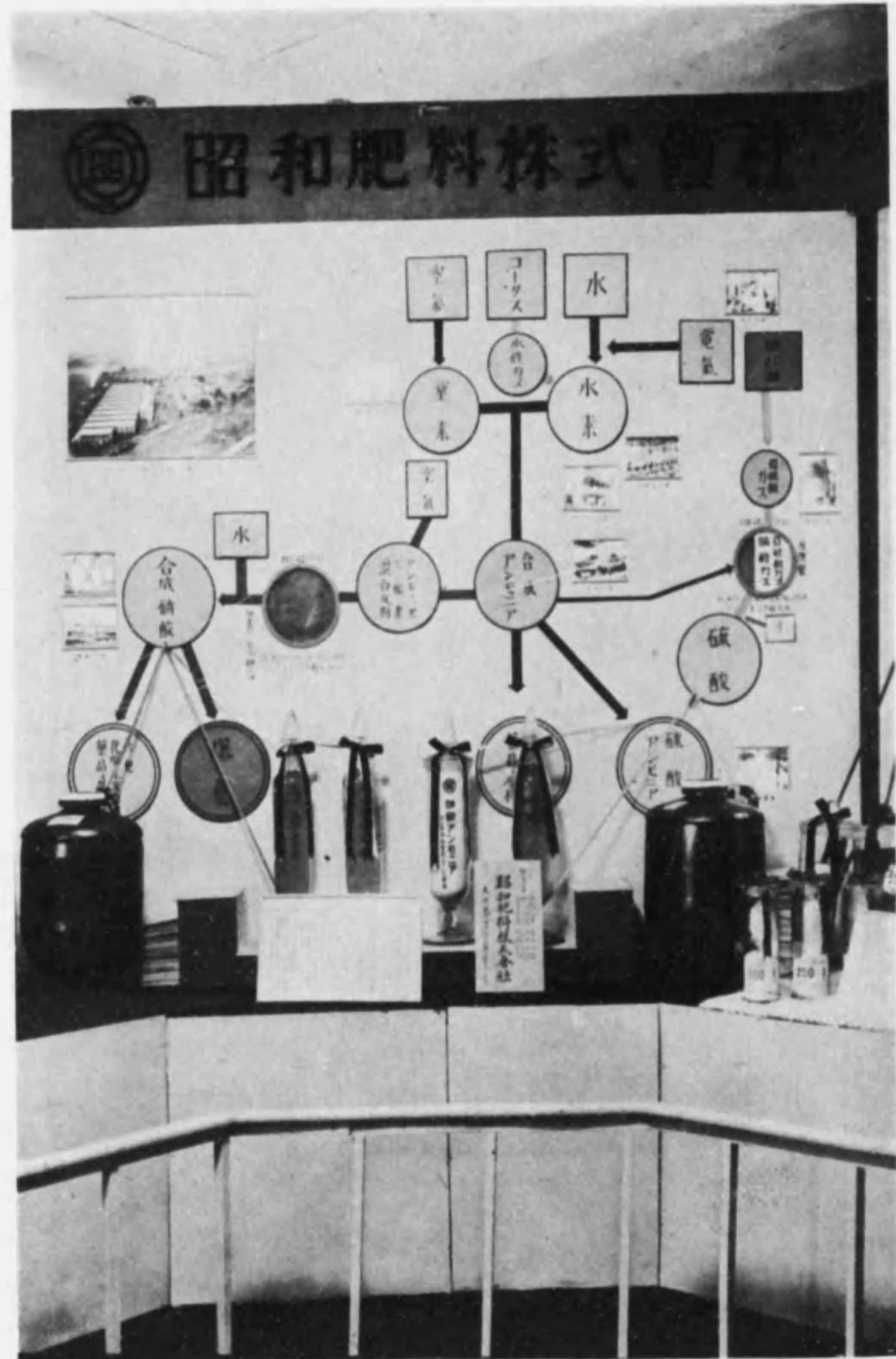
(昭和火薬株式会社出品)



(株式会社徳力本店出品)

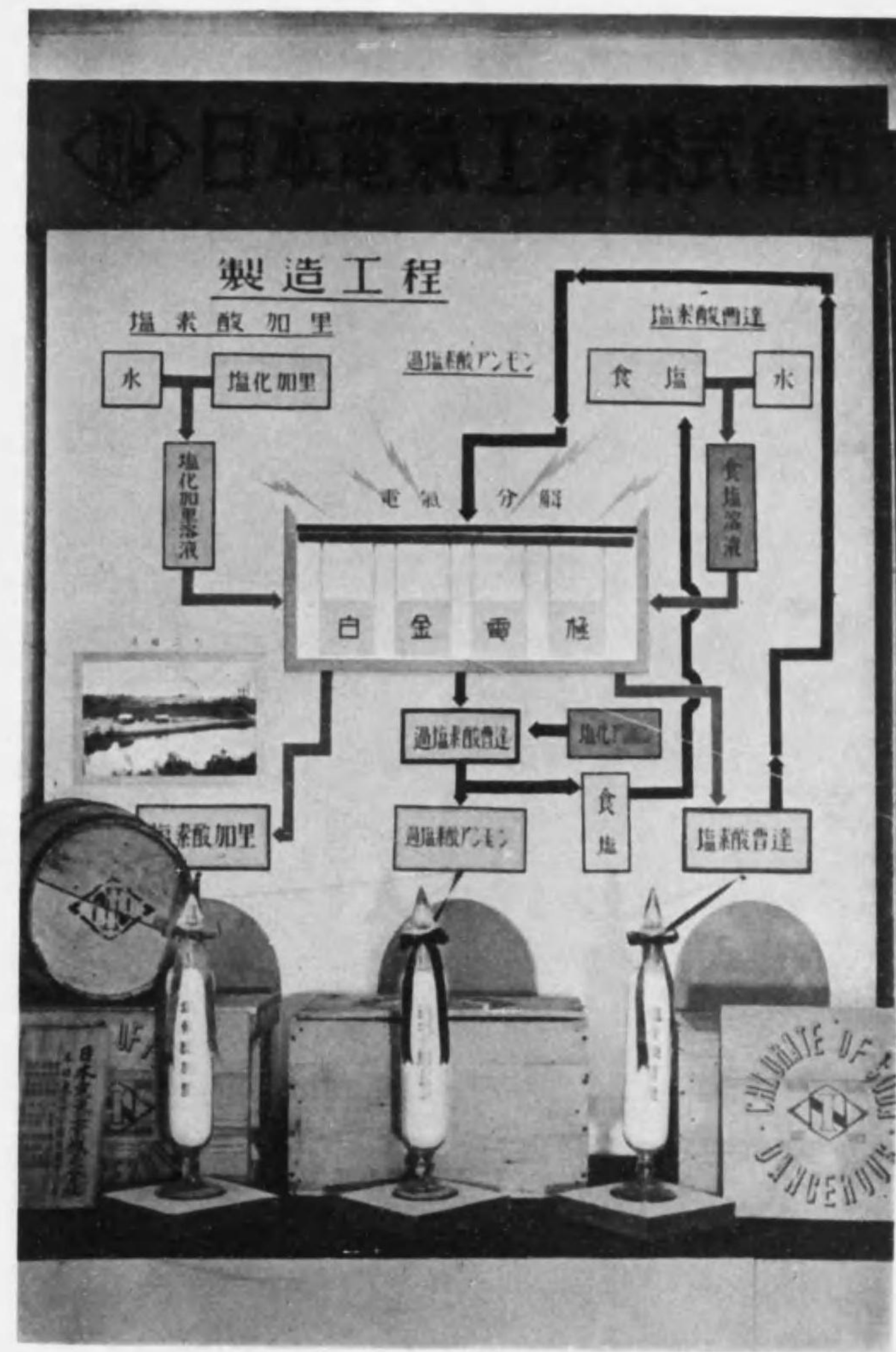
高周波電気爐、化學工業用器具、菌科及白金鍍膜装置

株式会社
徳力本店



原料、品薬用業工學化種各及程工造製の薬爆、アニモンア酸硫

(昭和肥料株式会社出品)



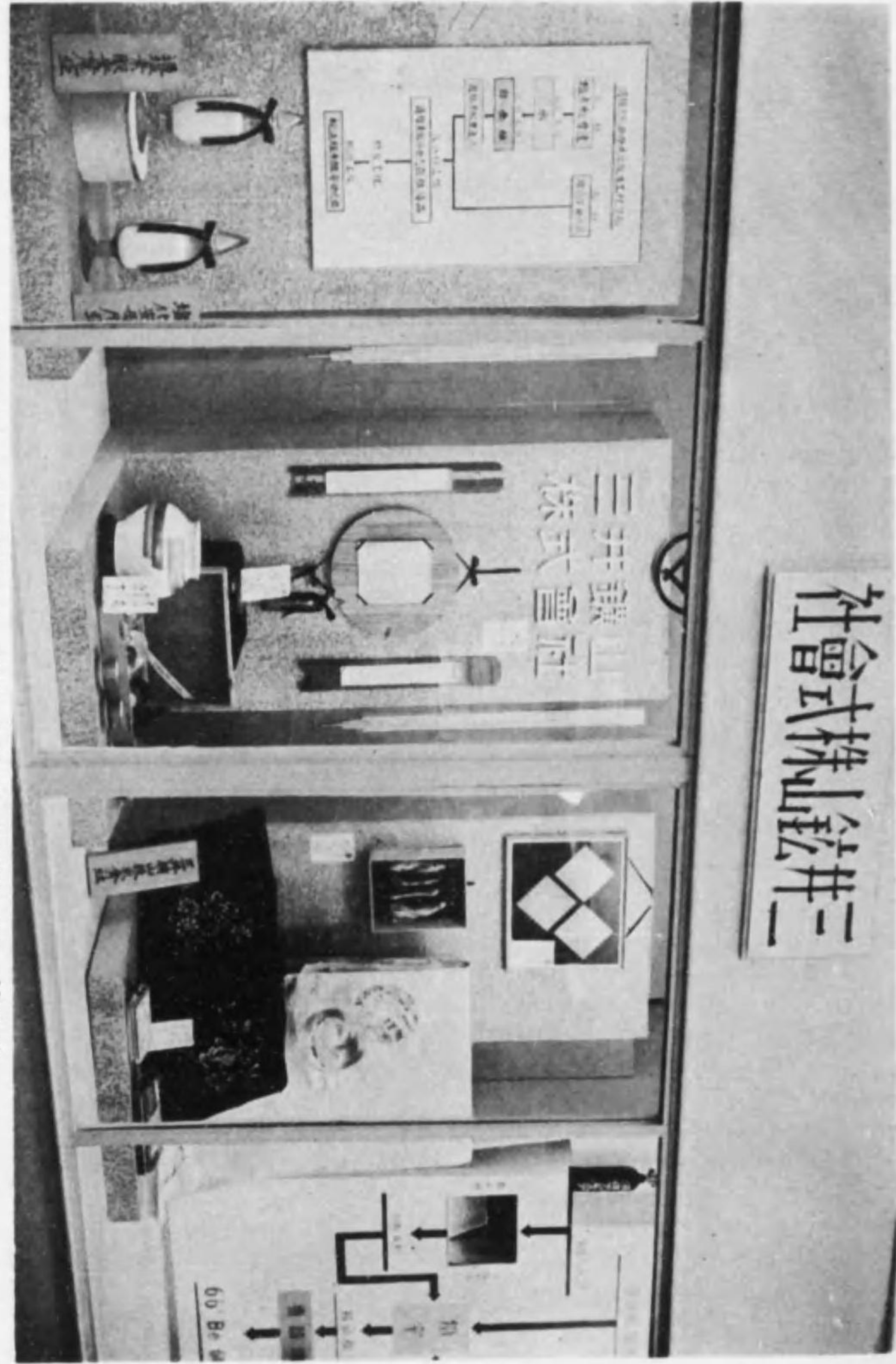
程工造製アニモンア酸素鹽及里加酸素鹽、達曹酸素鹽

(日本電気工業株式会社出品)



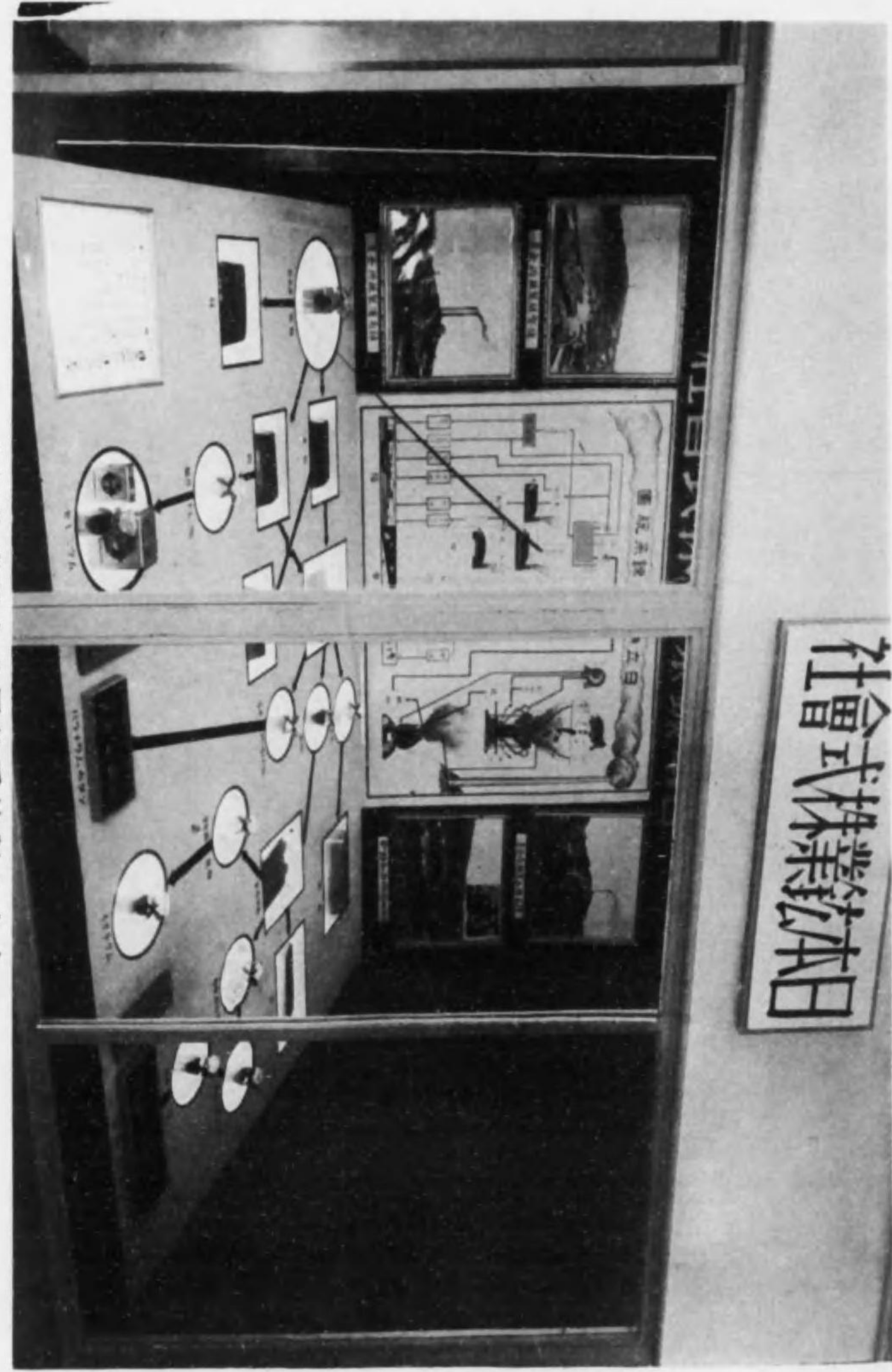
(昭和人絹株式会社出品)

人造絹の製工程



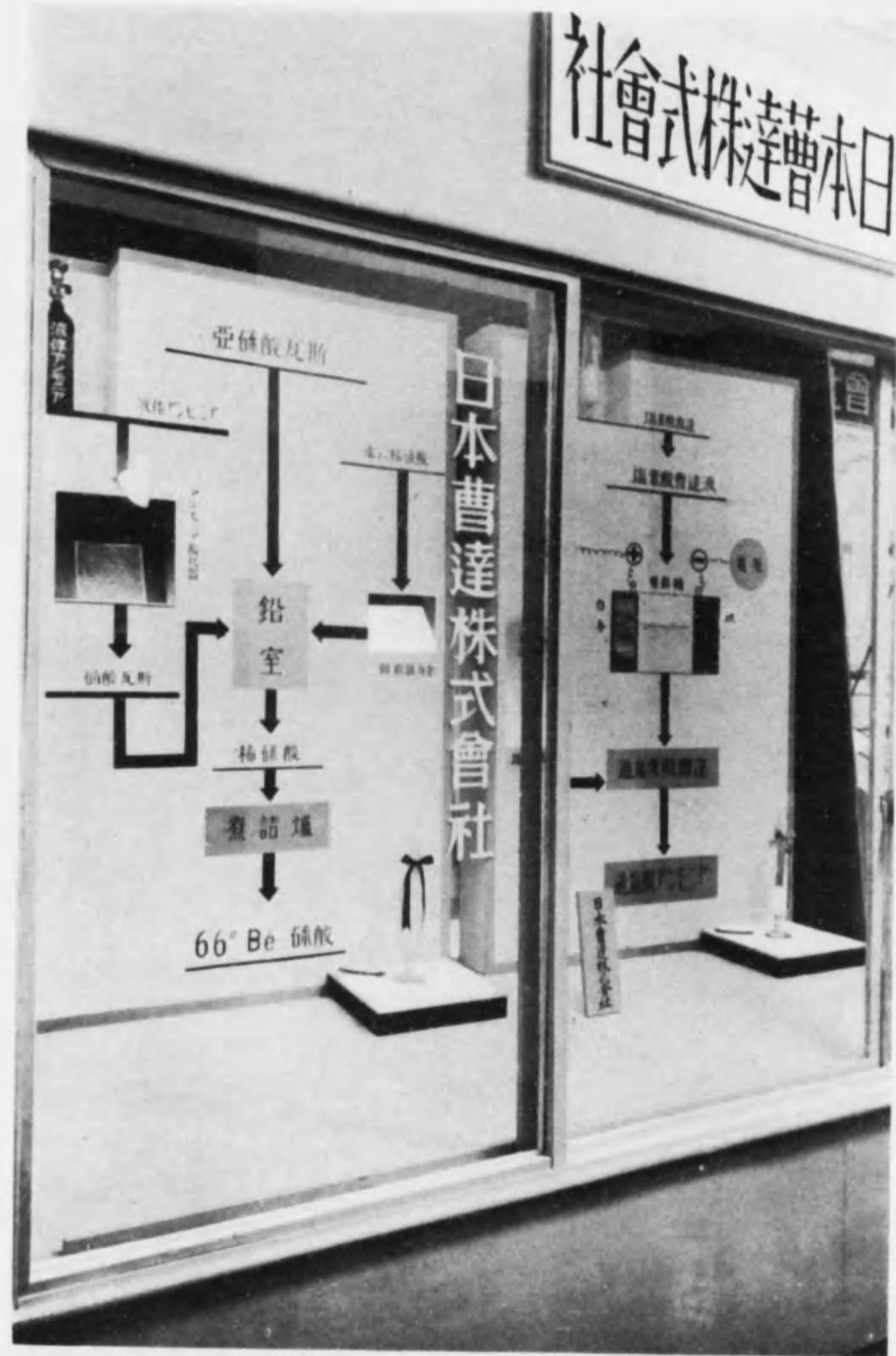
(三井物産株式会社出品)

白箔管を使用した製品、白箔管及種工製造の粉、白箔管



本標物實種各及圖統系煉製の金白

(日本工業株式会社出品)



程工造製酸硫及程工造製アニモンア酸素鹽過

(日本曹達株式会社出品)



媒觸用業工學化、具器用學化理
金合金白種各及塊金白、具器用療醫

(株式會社 田中商店 出品)



獻文種各及書圖ろす關に金白

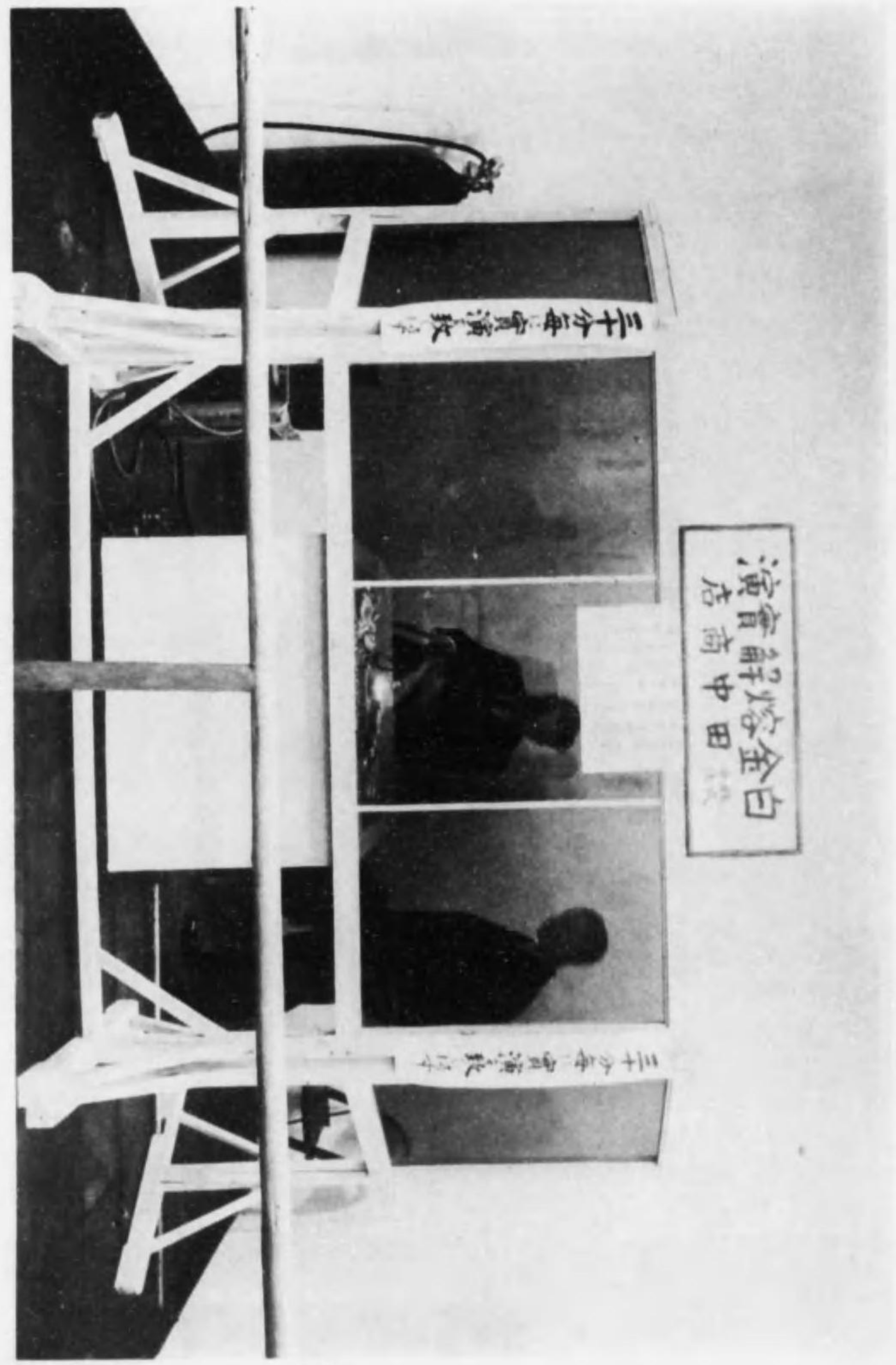
(アグネ工業社 出品)

株式會社 石福商店



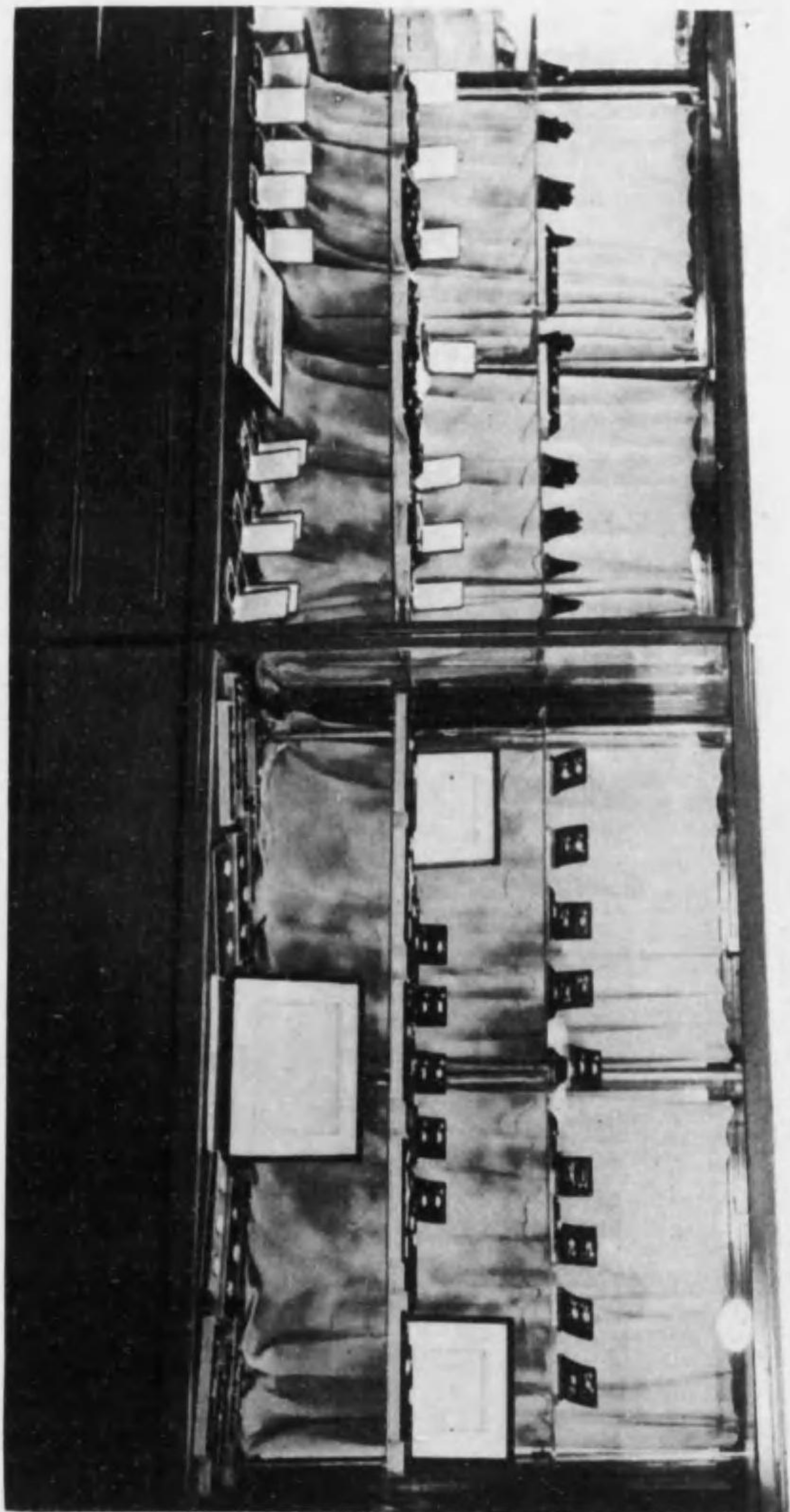
(株式會社 石福商店出品)

金白用科齒及塊金白、法製精の金白



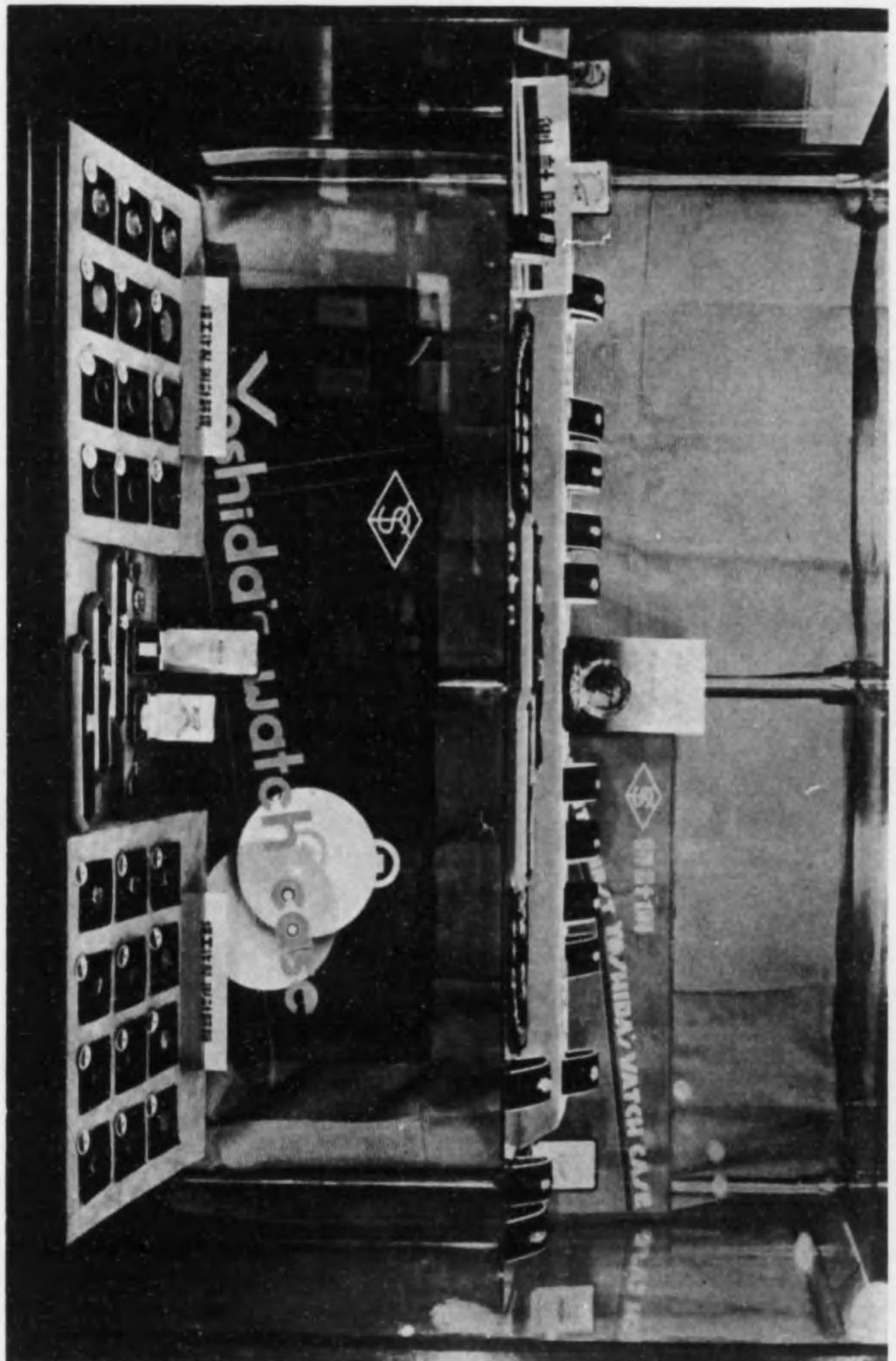
(株式會社 中田商店出品)

演實解鎔斯瓦の金白



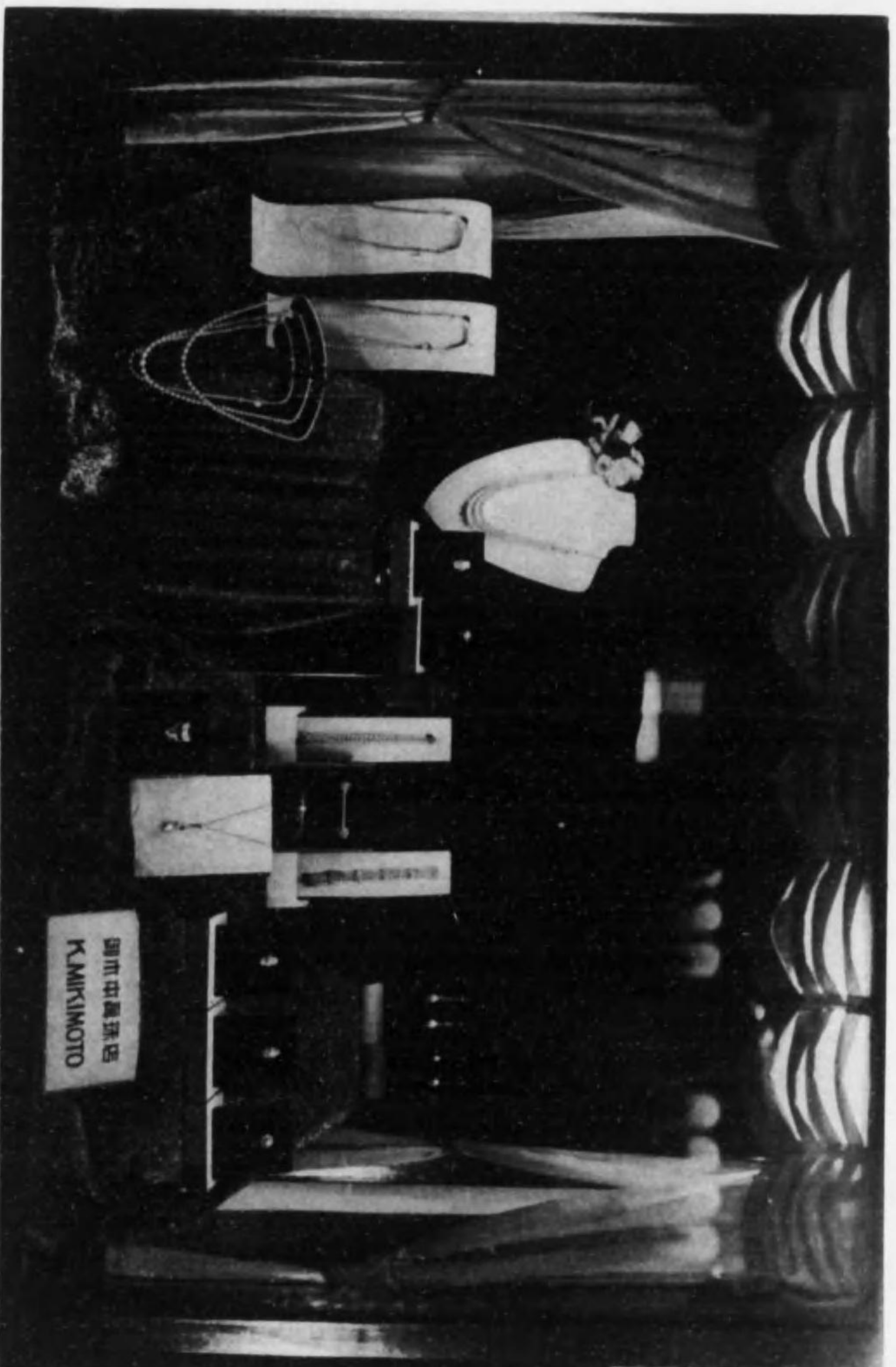
（株式會社 服部時計店出品）

（種各計時側金白）品飾寶金白



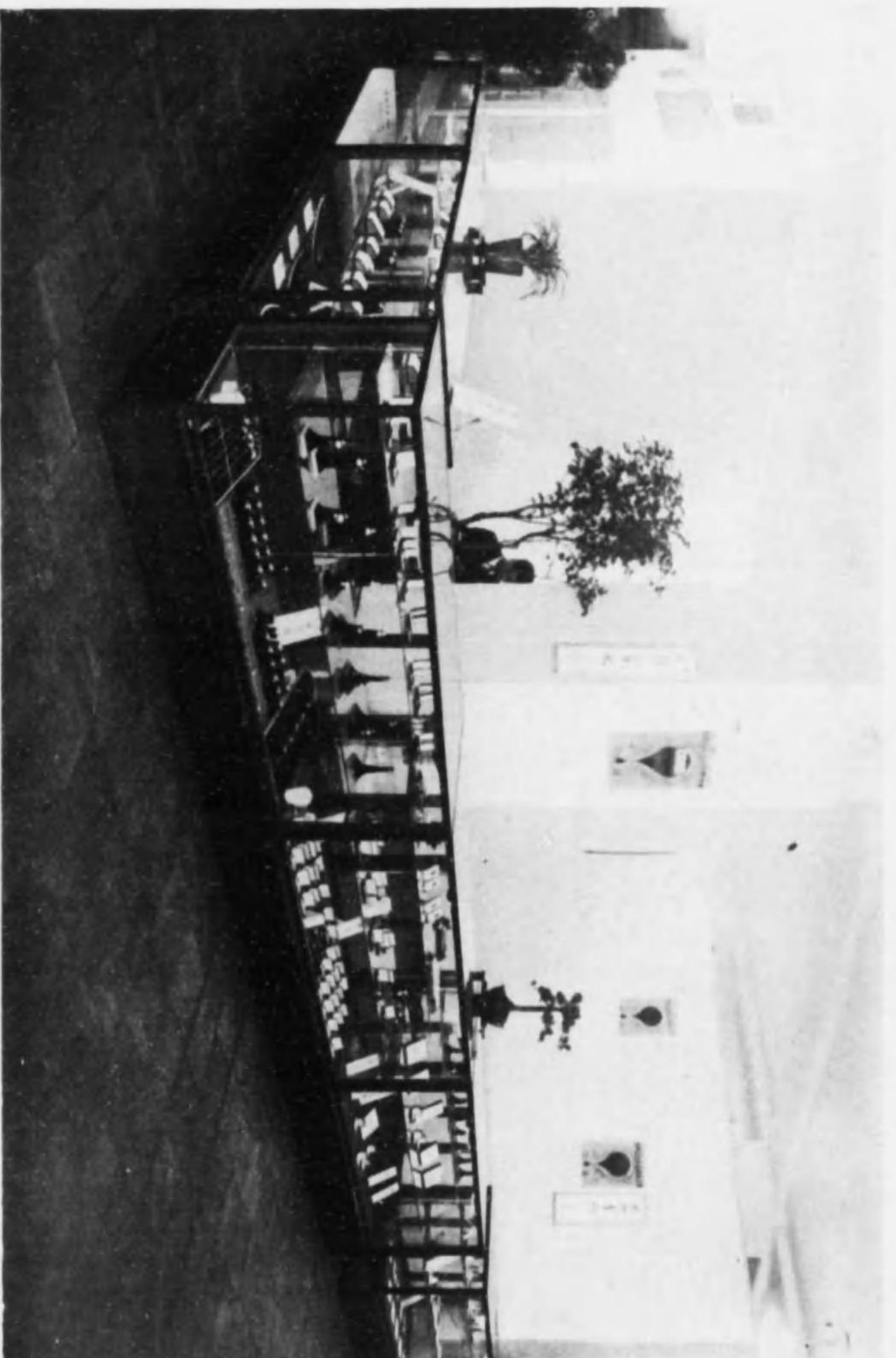
（株式會社 吉田時計店出品）

（種各計時側金白）品飾寶金白



(御本眞珠店用品)

(珠眞と金白) 品飾寶金白




(む含を品實非) 場賣即の品飾寶金白

出品者 日本白金協會
 細沼眞金屬工業株式會社
 梶田久治郎
 會社 山崎商店
 會社 三輪屋商店
 會社 萬吉
 大野時計寶飾品株式會社
 商會 巽忠藏

(二) 圖表及諸統計表

我國の極印制度

意 政府は白金及び銀 製品に品位を保証す	主義 任意公證主義	検定者 造幣局及 造幣局東京出張所	検定を受け 貴金屬製品製造業者 得べき者は販賣業者	検定の目的 (イ) 貴金屬製品の貯蓄的價値の保証 (ロ) 金性の真正確保は商取引の安全 (ハ) 營業上の模範内等正業者の保護 (ニ) 合金技術の向上	品位證明の方法 嚴密な化学試験を行つた結果合格した 製品にはその證明の極印を押しつけ (イ) 國家検定の記号として「日」は (ロ) 品位を表示する記号として 表形内に表した純分率	検定手数料 白金製品 三十銭 金製品 十銭 銀製品 三銭
-----------------------------------	---------------------	--------------------------------	--	---	---	--


 附印極の日の日
 貴金屬製品製造業者の
 品質を全うし、是れを以て貴金屬製品に
 品位を保証す。大正十一年八月一日

我國の極印制度說明表



世界の極印制度分布図

世界各國の極印制度比較

國名	極印制度	施行年	施行地
日本	有	明治	日本
朝鮮	有	大正	朝鮮
支那	有	大正	支那
印度	有	大正	印度
南アフリカ	有	大正	南アフリカ
カリメア	有	大正	カリメア
アフリカ	有	大正	アフリカ
南アメリカ	有	大正	南アメリカ
その他	無	-	-

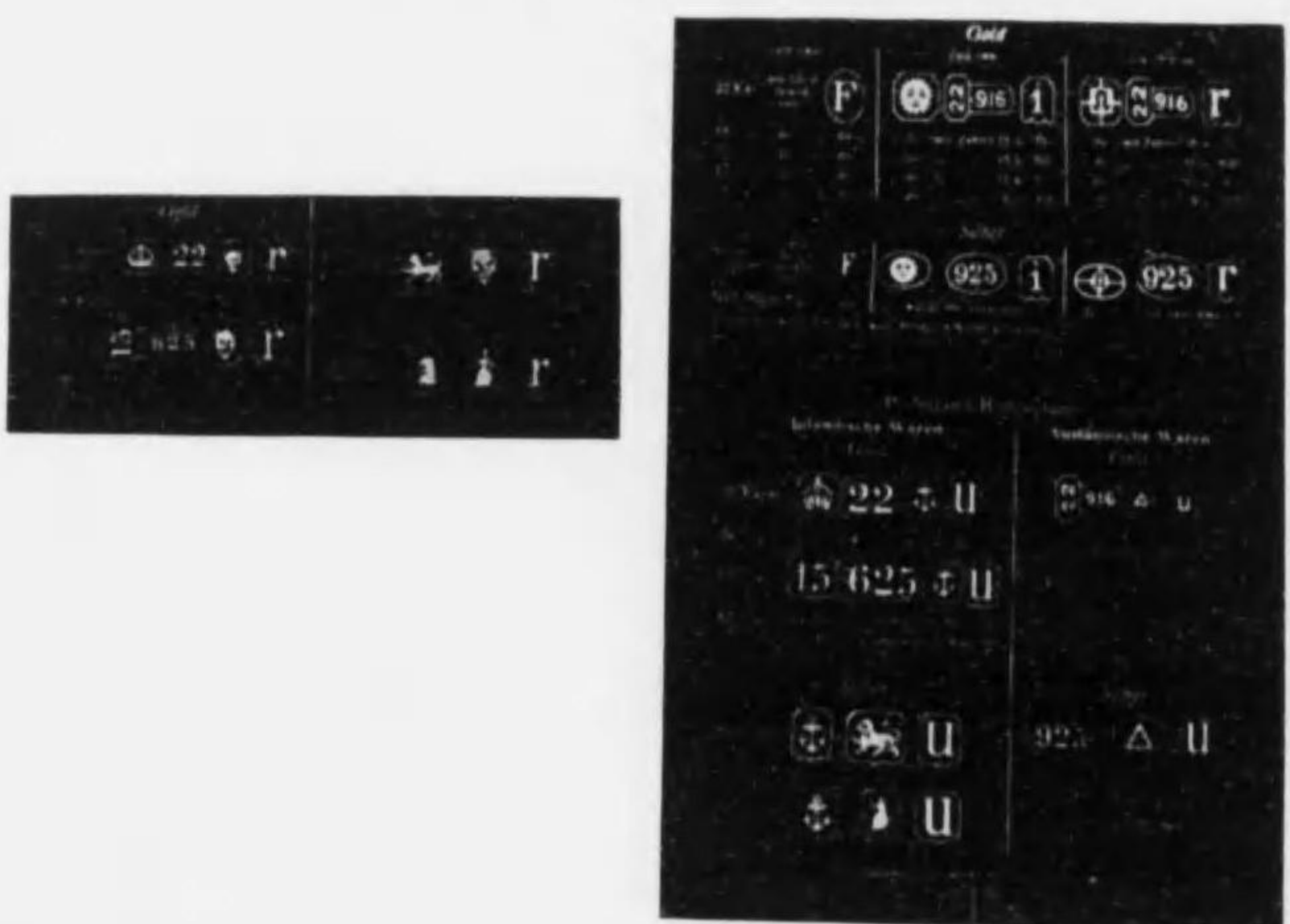
品位之證明極印

白金		金		銀	
稱方	政府證明極印	稱方 (旧稱)	政府證明極印	稱方	政府證明極印
純白金	1000 P.E.	純金 (K99.9)	1000	純銀	1000
950 ^位	950 P.E.	917 ^位 (K91.7)	917	950 ^位	950
900 ^位	900 P.E.	835 ^位 (K83.5)	835	925 ^位	925
850 ^位	850 P.E.	750 ^位 (K75.0)	750	900 ^位	900
		585 ^位 (K58.5)	585	800 ^位	800
		500 ^位 (K50.0)	500		
		375 ^位 (K37.5)	375		

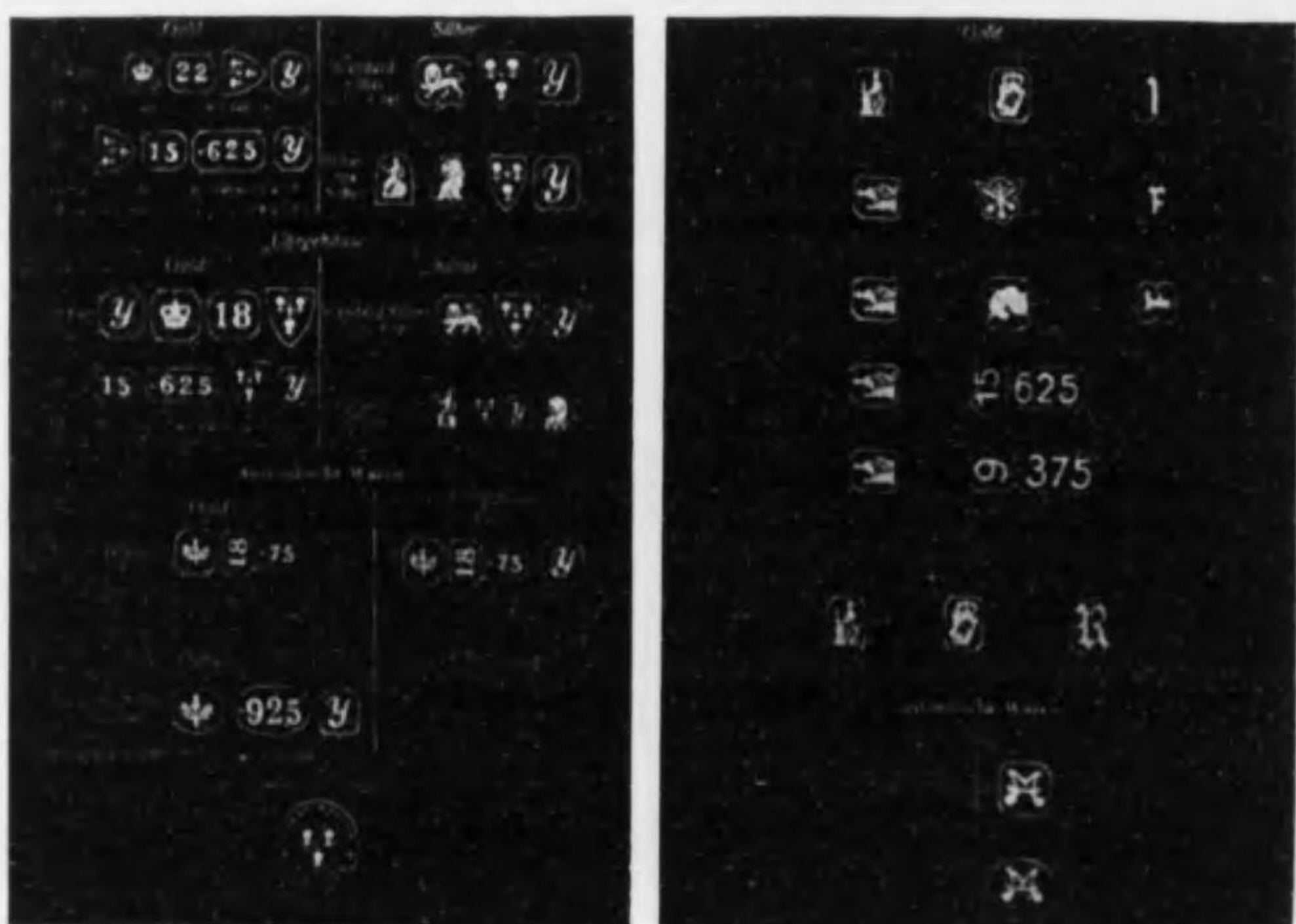
圖印極明證の國我

圖印極國要主の界世

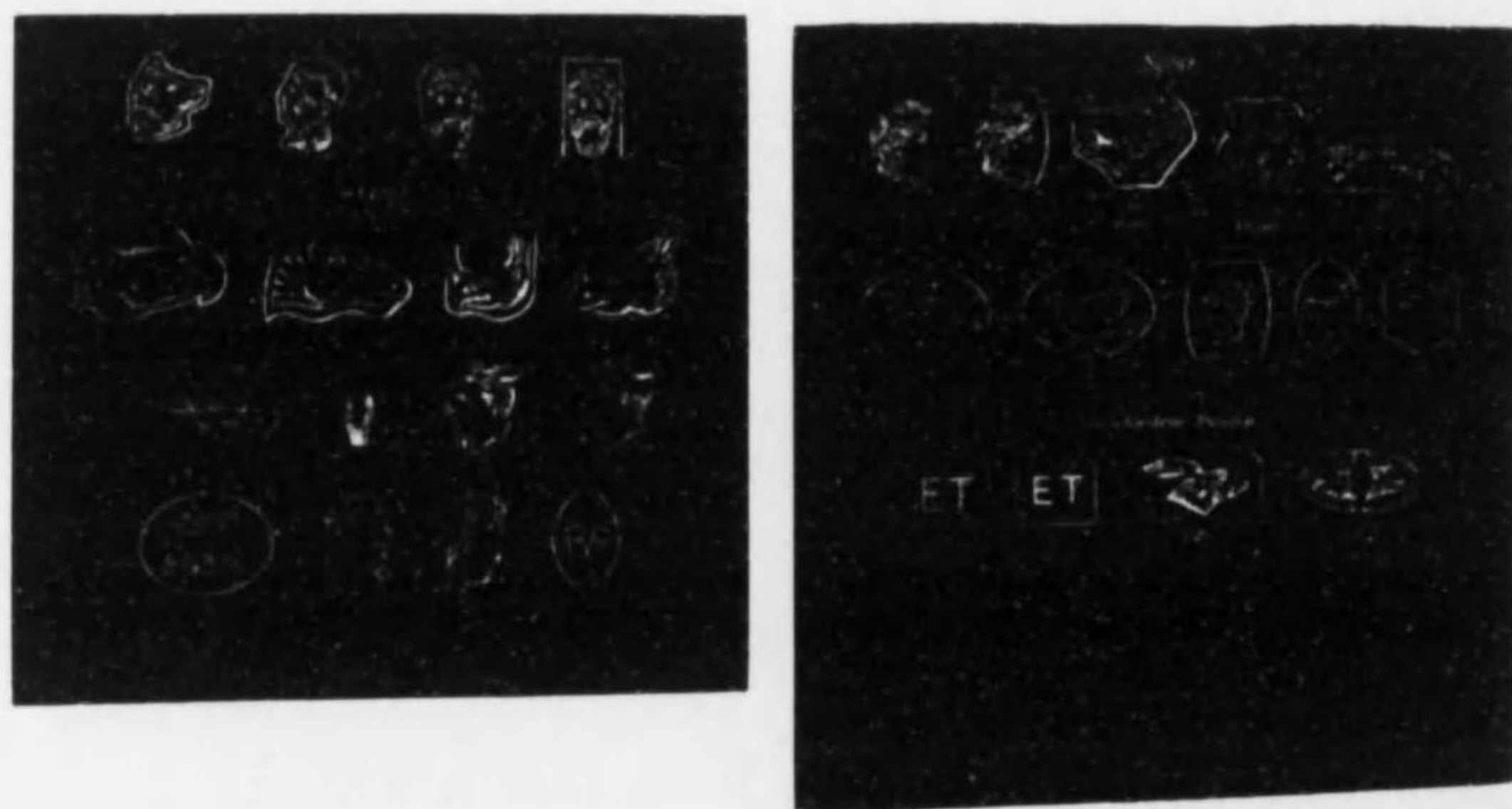
(一) 印極明證の國英



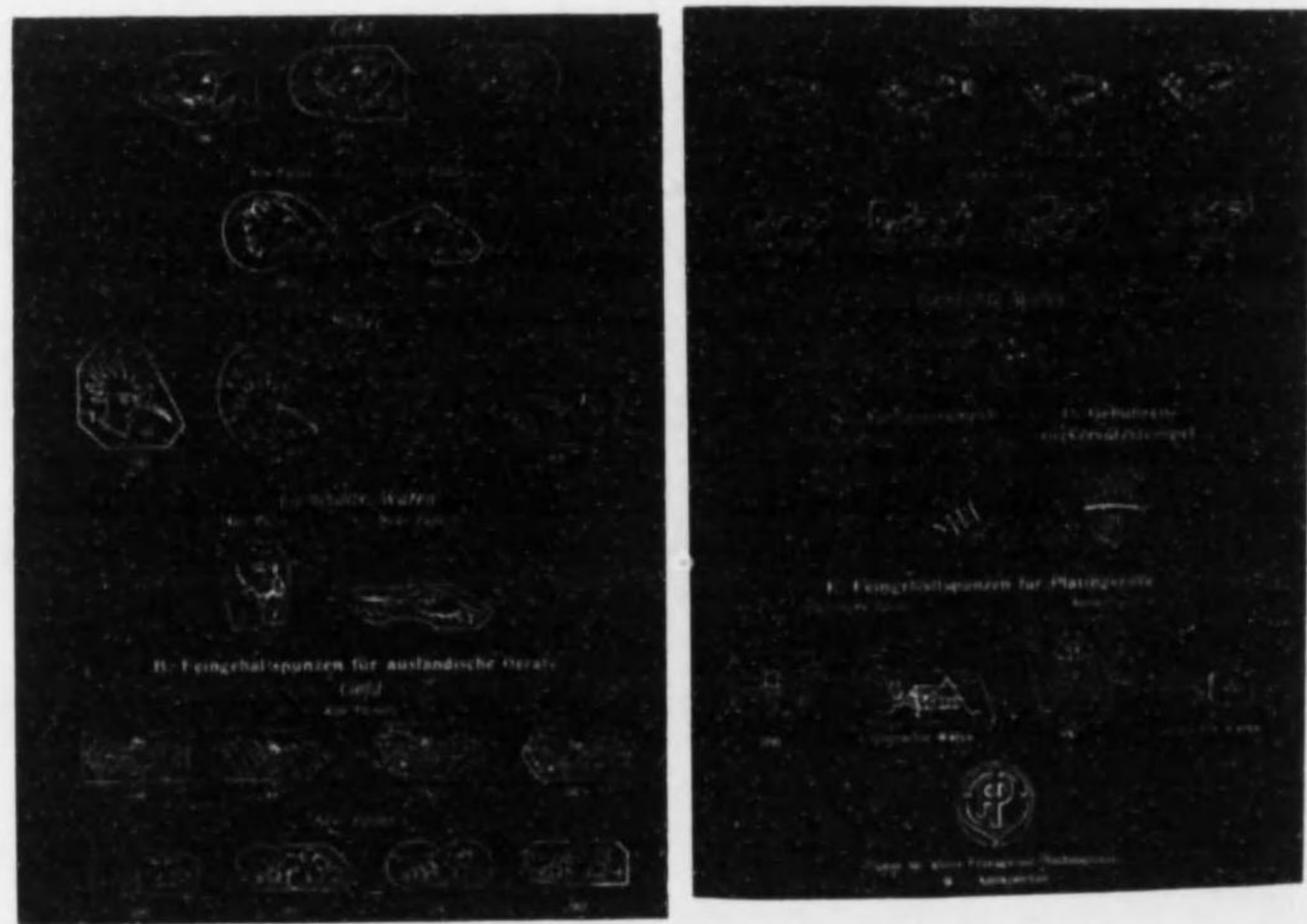
(二) 印極明證の國英



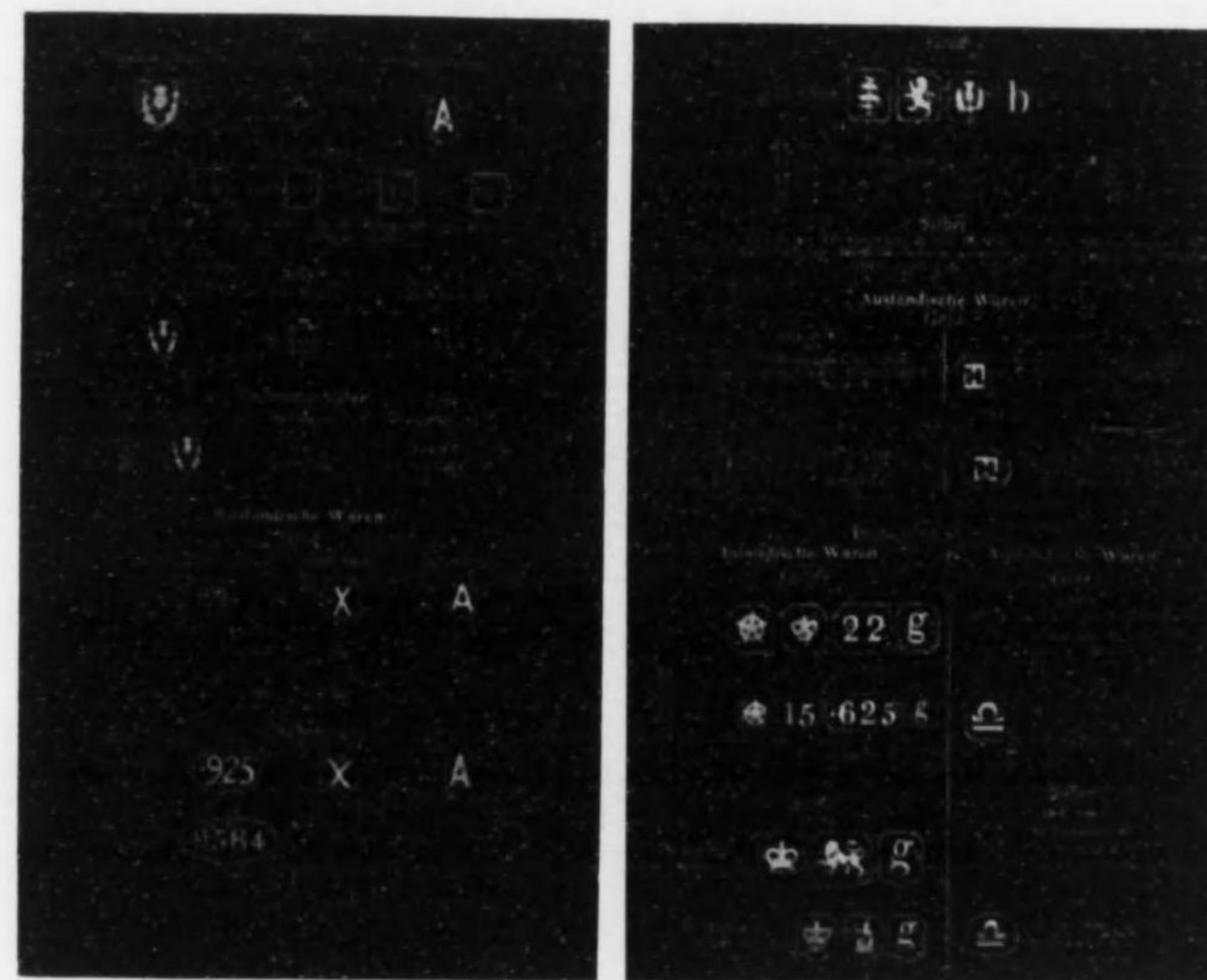
印極明證の國佛



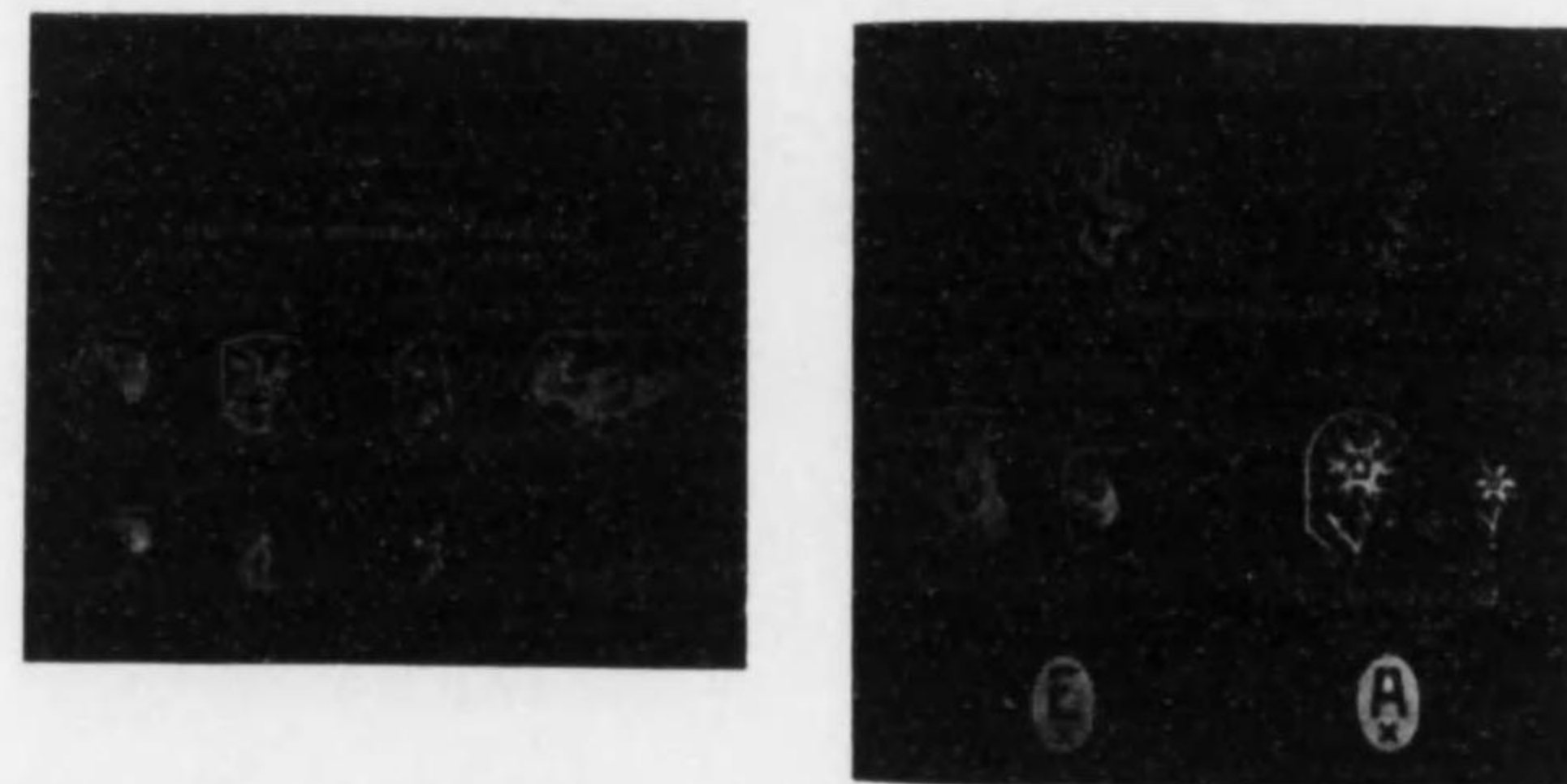
印極明證の國奧



(三) 印極明證の國英



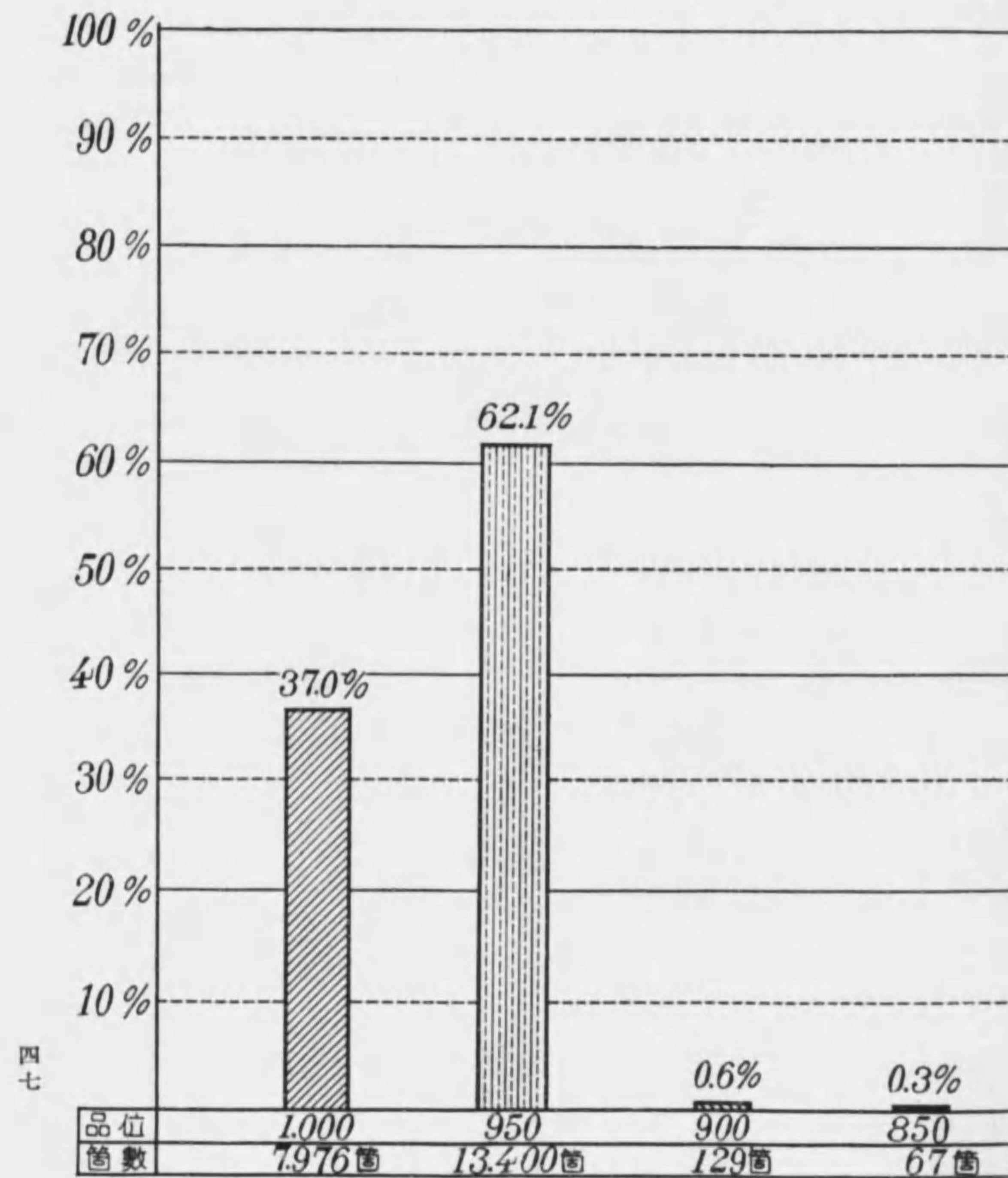
印極明證の西瑞



白金製品検定依頼数の品位別比較表

造幣局東京出張所

自昭和七年七月至昭和十年十二月

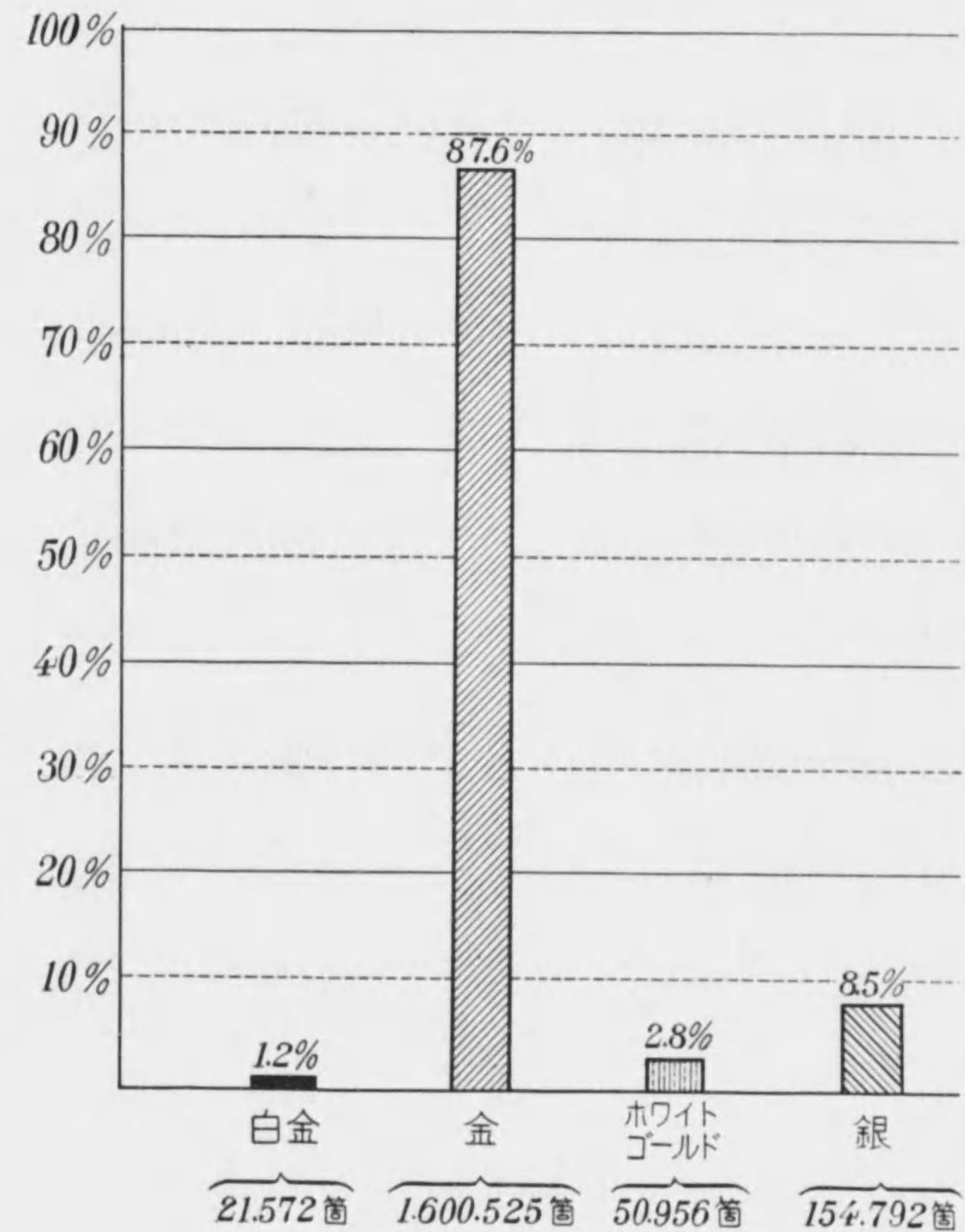


四七

貴金屬製品検定依頼数の地金別比較表

造幣局東京出張所

自昭和四年七月至昭和十年十二月

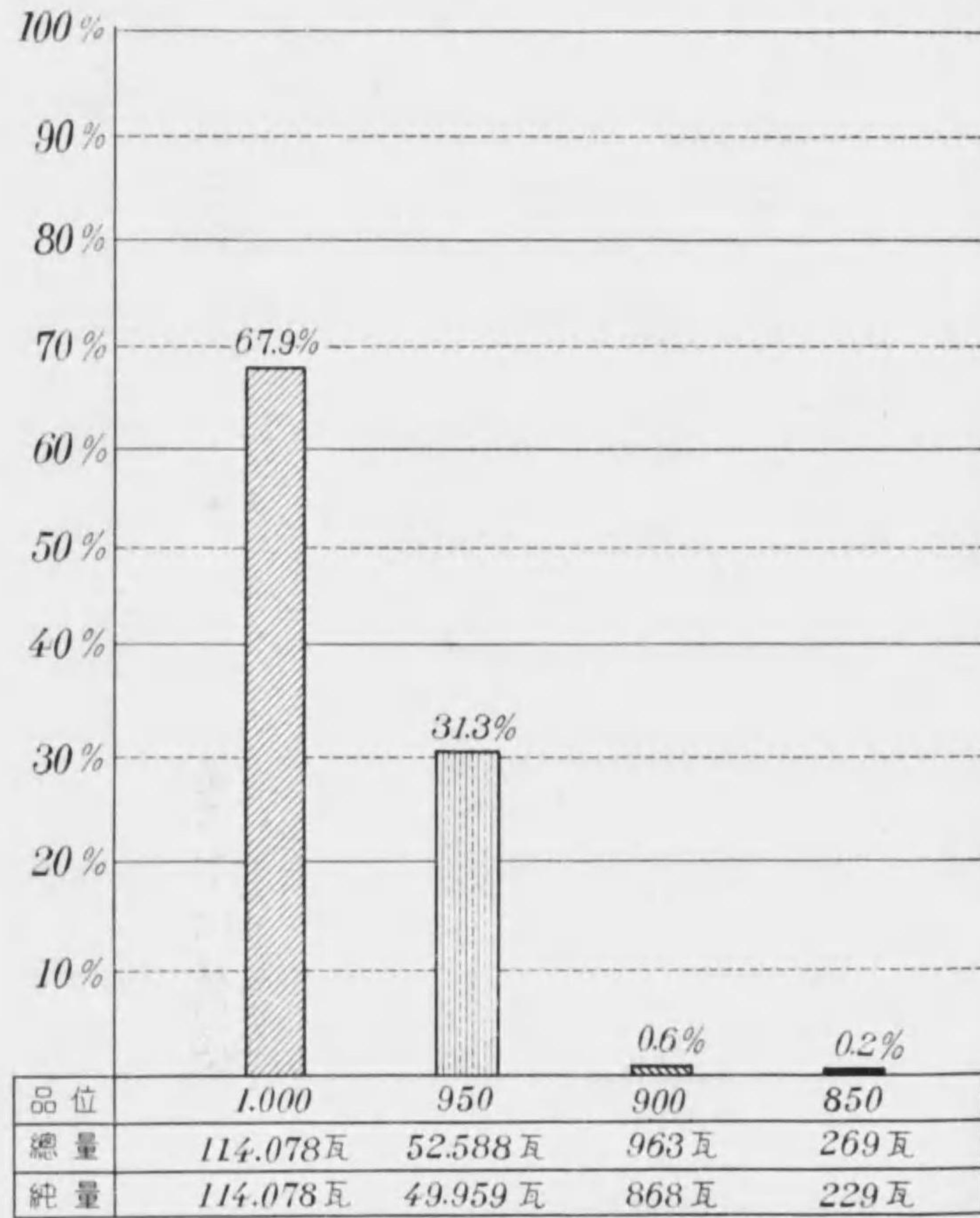


四六

白金製品品位別量目表

造幣局東京出張所

自昭和七年七月至昭和十年十二月



四九

白金製品の品位の動向

造幣局東京出張所

品位	1,000	950	900	850
7	27.2%	70.4%	2.3%	—
8	37.4%	62.0%	0.4%	0.2%
9	39.6%	59.4%	0.2%	0.7%
10	37.1%	62.4%	0.5%	—

本表は検定申請品の統計より作製
昭和七年度は自七年七月至八年三月
昭和十年度は自十年四月至十年十二月

金製品の品位の動向

造幣局東京出張所

品位	1,000	917	835	750	585	500	375
4	2.7%	0.8%	4.9%	88.8%	0.2%	—	2.6%
5	2.4%	0.5%	4.2%	86.1%	0.2%	—	6.6%
6	2.6%	0.5%	3.3%	89.5%	0.1%	—	4.1%
7	1.4%	0.1%	0.9%	86.8%	5.1%	0.2%	5.6%
8	1.8%	0.2%	0.6%	74.2%	10.3%	0.2%	12.6%
9	1.4%	0.2%	0.5%	62.4%	8.6%	0.1%	26.8%
10	1.3%	0.2%	0.5%	67.6%	6.0%	—	24.3%

本表は検定申請品の統計より作製
昭和四年度は自四年七月至五年三月
昭和十年度は自十年四月至十年十二月

備考 本表は白金製品の検定を實施せる昭和七年度を100とす。

昭和	年	白	金	ホワイトゴールド	銀	一箇月平均
十九	年	三〇・八・六	二二・二・一	一五・一・六	四八・三	二一・六・二
十八	年	一八・六・〇	一四・三・二	一六・二・二	一、五八九・一	一九三・五
十七	年	一五・二・八	一一・九・四	一三・一・八	一、四一四・四	二〇〇・〇
十六	年	一〇・〇・〇	一〇・〇・〇	一〇・〇・〇	一、〇〇〇・〇	一九〇・〇
十五	年	—	一九・三・二	一〇・〇・〇	三、五〇六・六	一九〇・〇
十四	年	—	一九・九・二	一〇・九・五	四、七一・二	二〇一・七
十三	年	—	二二・六・六	一二・八・九	一、〇七〇・七	二五六・八

○貴金屬製品品位證明箇數指數表

造幣局東京出張所

四八

表明説の用途及配合の合金白

用途	合金成分	配合割合
純白金	純白金	100%
時計	純白金、銅、銀	純白金 90%、銅 5%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 85%、銅 10%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 80%、銅 15%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 75%、銅 20%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 70%、銅 25%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 65%、銅 30%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 60%、銅 35%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 55%、銅 40%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 50%、銅 45%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 45%、銅 50%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 40%、銅 55%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 35%、銅 60%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 30%、銅 65%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 25%、銅 70%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 20%、銅 75%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 15%、銅 80%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 10%、銅 85%、銀 5%
時計	純白金、銅、銀	純白金 5%、銅 90%、銀 5%

表明説の用途及配合の合金白

○市販無検定貴金屬製品の分析例

白金製品

(本表は市販無検定品に就き分析したるもの内其の表示品位と實際品位との差著しきものを掲げたるものなり)

品目	表示品位 (千分率)	造幣局東京出張所分析品位 (千分率)	量	表示品位と内容との差		格
				品分率	内	
時計	純白金 一、〇〇〇	七五七・六	五・二〇	二四二・四	一八・二七	純白金 一匁十四圓五十錢と して計算
時計	〃	七三二・八	一・五〇	二六七・二	五・八一	
時計	〃	六九二・七	六・〇〇	二〇七・三	一八・〇三	
時計	〃	八〇五・一	五・五〇	一九四・九	一五・五四	
印臺指輪	〃	七六五・〇	三・五〇	二三五・〇	一一・九二	
甲丸指輪	〃	八六五・八	一・四〇	一三四・二	二・七二	
石入指輪	〃	六八八・七	〇・九〇	三一・三	四・〇六	
方計	〃	八五二・九	一・八〇	一四七・一	三・八三	
ヘヤーピン	〃	八四八・〇	四・二〇	一五二・〇	九・二五	
眼鏡縁	〃	九〇四・〇	二・五〇	九六・〇	三・四八	
カフス釦	〃	八五一・二	二・〇〇	一四八・八	四・三一	
ネクタイピン	〃	八〇一・四	一・〇〇	一九八・六	二・八七	

帶止金具
 ヘヤーピン
 眼鏡縁
 カフス釦
 石入指輪
 帶止金具
 ネクタイピン
 萬年筆用ペン先
 墓口口金
 眼鏡縁
 金盃
 パツクル
 ネクタイピン
 方計
 カフス釦
 眼鏡縁
 カフス釦
 ヘヤーピン
 帶止金具

九金
 十四金
 五八五

六一九・三
 三七二・八
 五九五・五
 六二四・一
 四三三・二
 六七九・〇
 六七四・三
 六九七・六
 六八一・六
 五一八・一
 四七一・五
 四六〇・三
 四八九・三
 四六〇・九
 三七八・五
 四八九・三
 四二九・三
 二三八・六
 二二七・〇

三・五〇
 三・〇〇
 二・〇〇
 二・〇〇
 二・〇〇
 〇・七〇
 三・五〇
 〇・八〇
 三・五〇
 二・二〇
 七・〇〇
 六三・〇〇
 五・五〇
 〇・八〇
 一・八〇
 二・〇〇
 二・〇〇
 三・〇〇
 三・五〇

一三〇・七
 三七七・二
 一五四・五
 一二五・九
 三一六・八
 七一・〇
 七五・七
 五二・四
 六八・四
 六六・九
 一一三・五
 一二四・七
 九五・七
 一二四・一
 二〇六・五
 九五・七
 一五五・七
 一三六・四
 一四八・〇

四・〇九
 一〇・一二
 二・七六
 二・二五
 五・一〇
 〇・五〇
 三・七二
 二九・五四
 四二・八五
 一・〇三
 二・七八
 〇・五三
 三・〇四
 一・〇一
 一・三三
 二・一七
 一・二二
 〇・六六

純金
 一、〇〇〇
 一、二五
 一、三一
 〇・六一
 〇・五四
 一・七六
 一・一八
 二・一〇
 二・五〇
 一・二三
 三・五八
 二・九九
 三・一七
 一・一〇
 四・〇八
 二・七四
 四・〇七
 三・二〇
 一・三四
 〇・五八

平打指輪
 印臺指輪
 高彫指輪
 甲丸指輪
 時計
 時計
 眼鏡縁
 帶止金具
 ヘヤーピン
 髻
 高彫指輪
 時計
 眼鏡縁
 時計
 時計
 石入指輪
 甲丸指輪

純金
 一、〇〇〇
 二十金
 八三五
 二十二金
 九一七

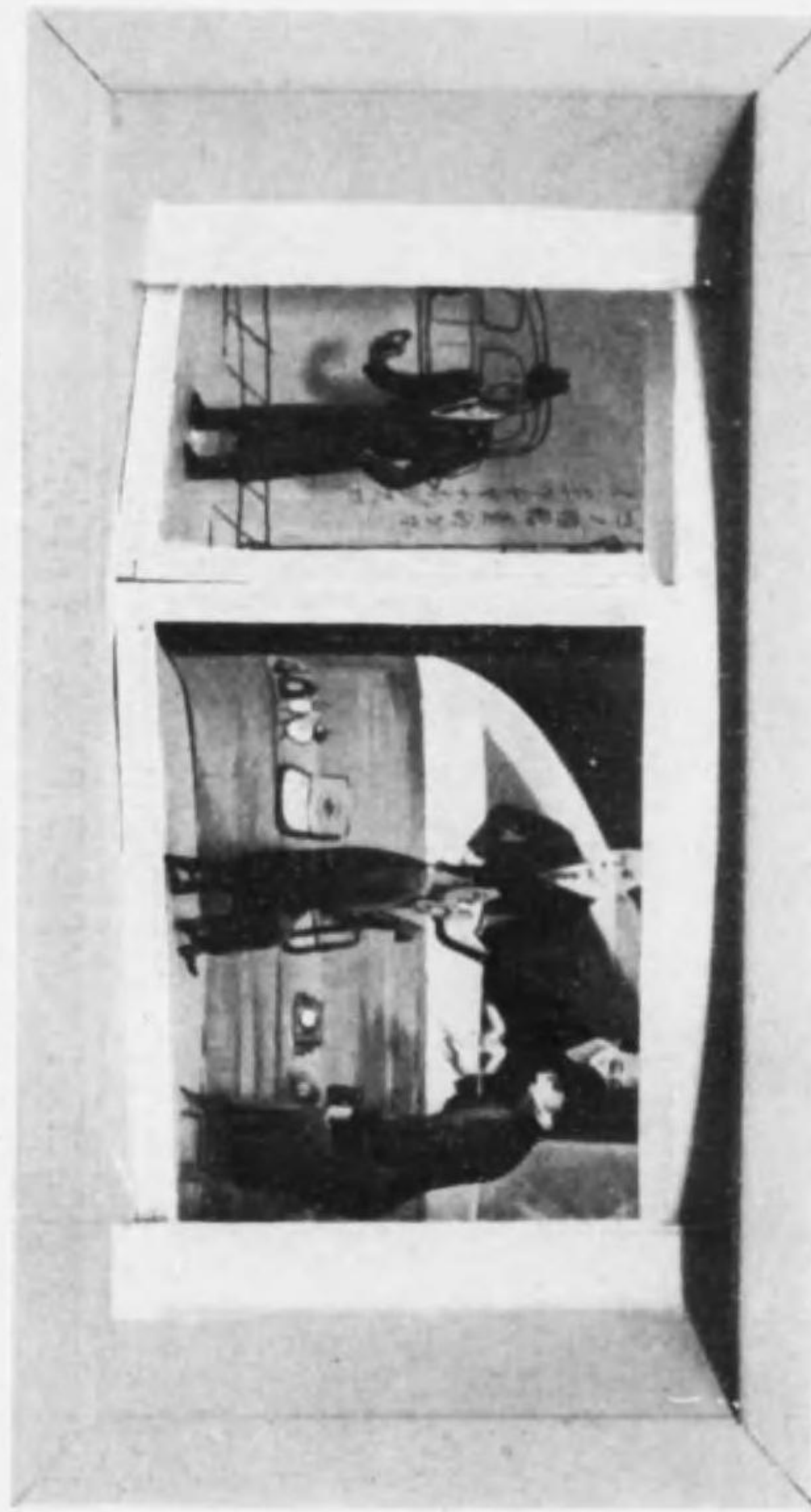
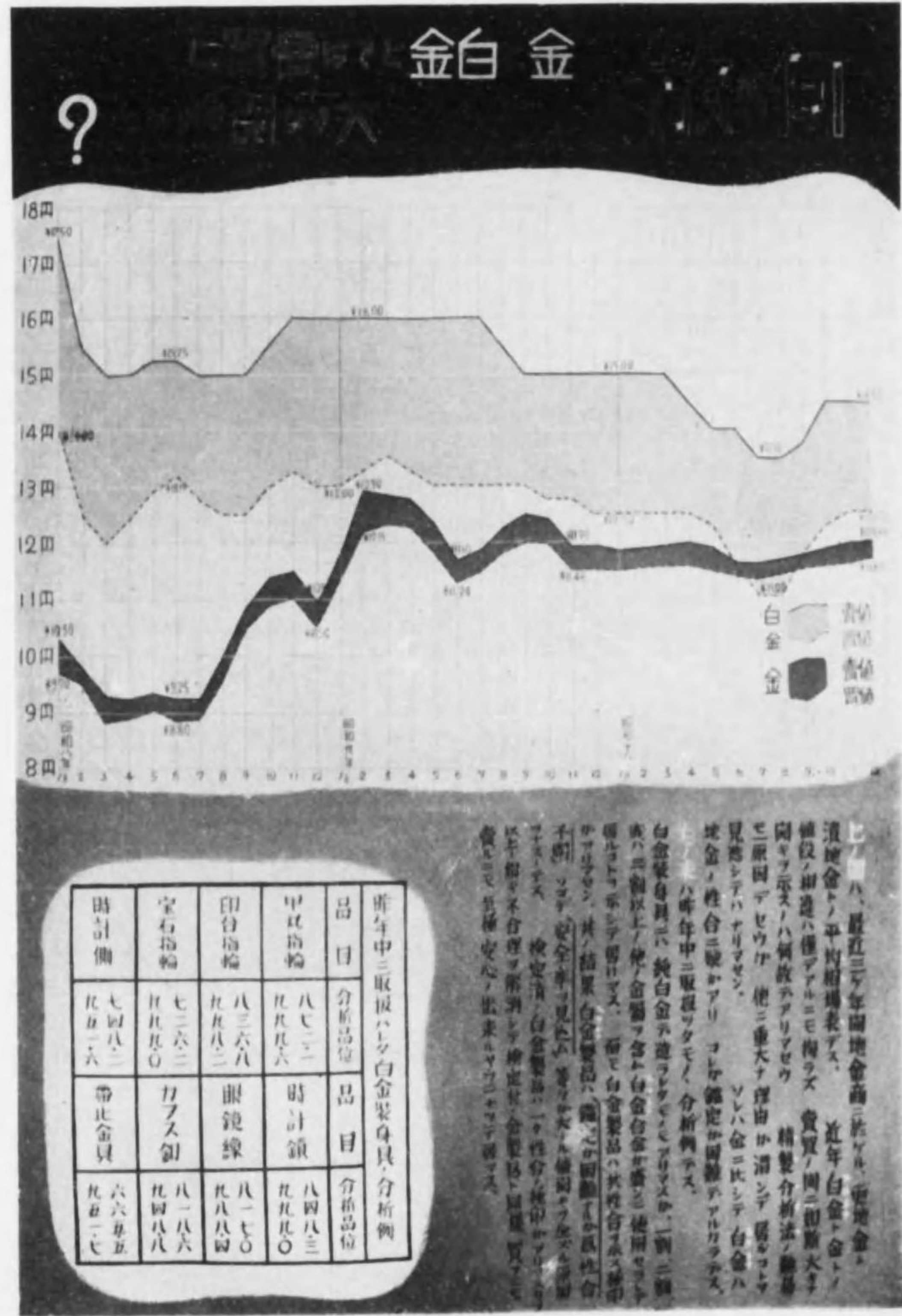
九五六・三
 九七六・九
 九八五・八
 九七八・二
 九八〇・二
 九八一・二
 八七一・二
 八八四・三
 八七二・〇
 七四五・〇
 七三四・七
 七〇七・四
 七九〇・六
 七八三・七
 七二〇・〇
 六三六・一
 六七八・三
 五三四・八
 六九五・六

二・四〇
 四・八〇
 三・六五
 二・一〇
 七・五〇
 五・〇〇
 四・二〇
 七・〇〇
 二・五〇
 四・〇〇
 三・〇〇
 二・五〇
 二・五〇
 八・〇〇
 二・四〇
 四・〇〇
 二・七〇
 〇・七〇
 一・二〇

四三・七
 二三・一
 一四・二
 二一・八
 一九・八
 一八・八
 四五・八
 三二・七
 四五・〇
 九〇・〇
 一〇〇・三
 一二七・六
 四四・四
 五一・三
 一一五・〇
 一一三・九
 七一・七
 二一五・二
 五四・四

一・二五
 一・三一
 〇・六一
 〇・五四
 一・七六
 一・一八
 二・一〇
 二・五〇
 一・二三
 三・五八
 二・九九
 三・一七
 一・一〇
 四・〇八
 二・七四
 四・〇七
 三・二〇
 一・三四
 〇・五八

純金
 一、〇〇〇
 一、二五
 一、三一
 〇・六一
 〇・五四
 一・七六
 一・一八
 二・一〇
 二・五〇
 一・二三
 三・五八
 二・九九
 三・一七
 一・一〇
 四・〇八
 二・七四
 四・〇七
 三・二〇
 一・三四
 〇・五八



(造幣局東京出展所出品)

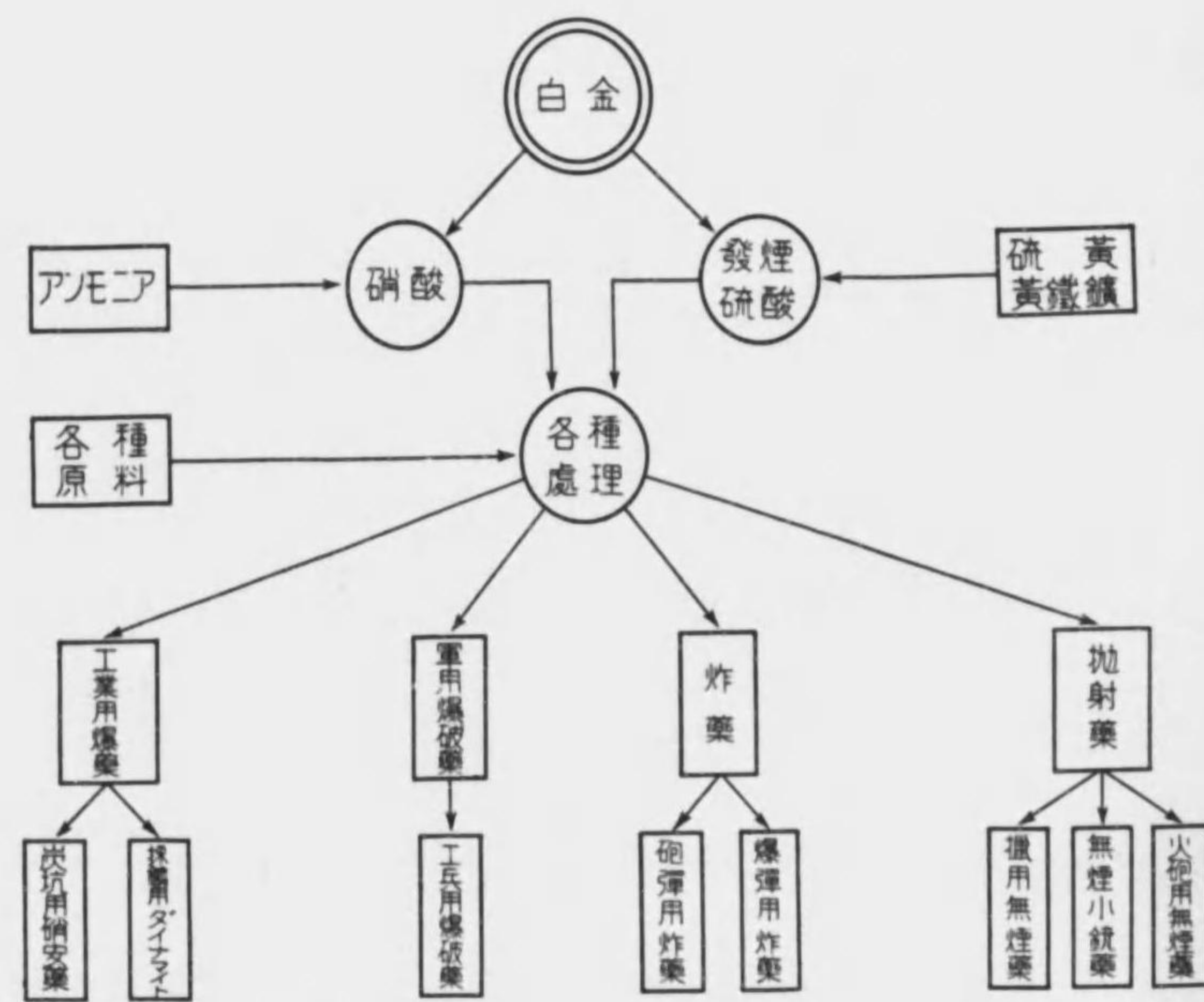
(ポラオチ式轉廻)和々種の品製齊定檢家國

石入指輪	二一四・五	〇・四〇	一六〇・五	〇・二八
カフス	三一七・二	一・八〇	五七・八	〇・四六
眼鏡線	三二二・一	一・八〇	五一・九	〇・四二
〃	〃			

白金と火薬爆薬との関係

陸軍火工廠出品

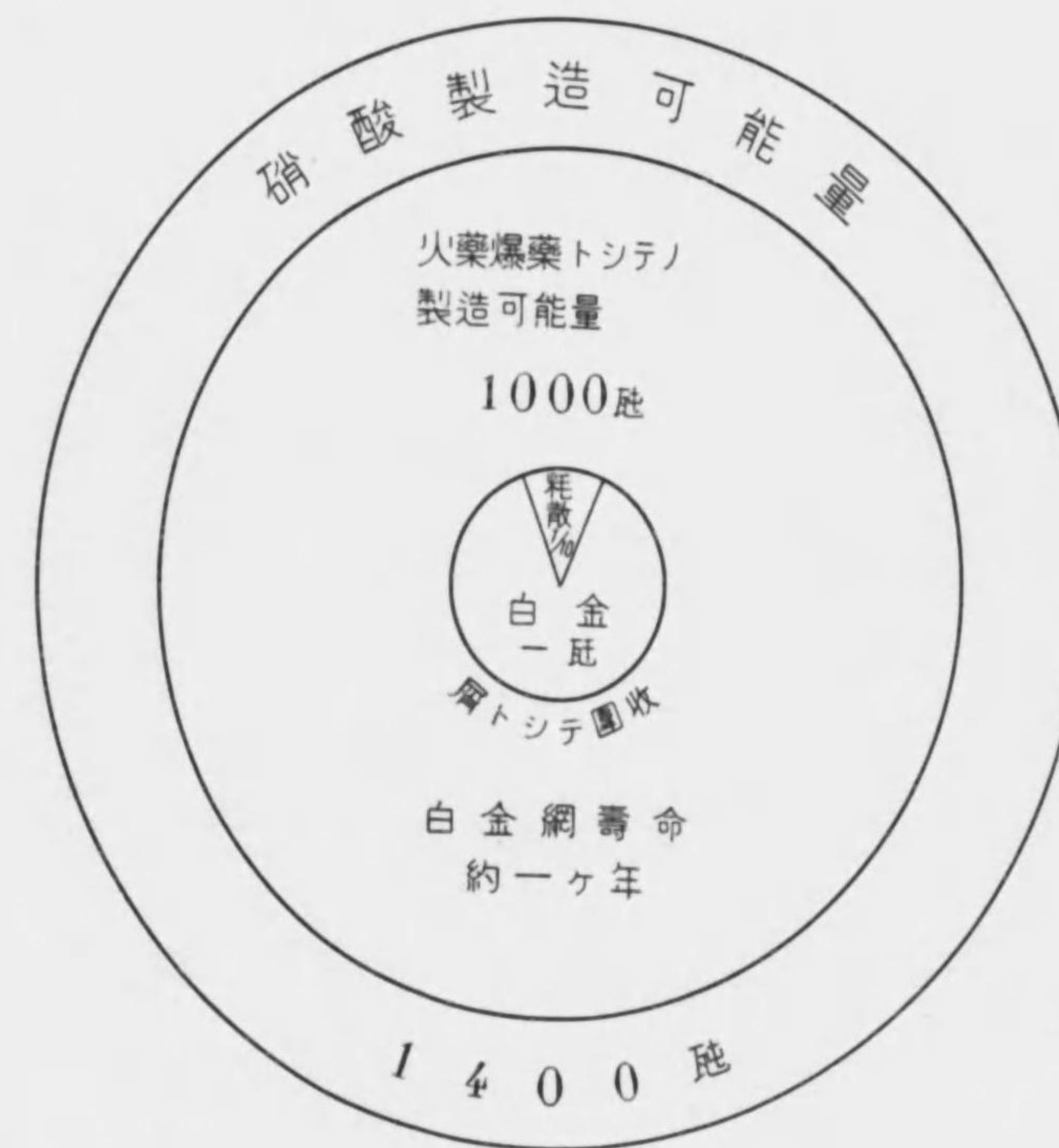
本表は火工廠出品物に添付せる説明なり



白金網一箇(一疋)の年製造能力

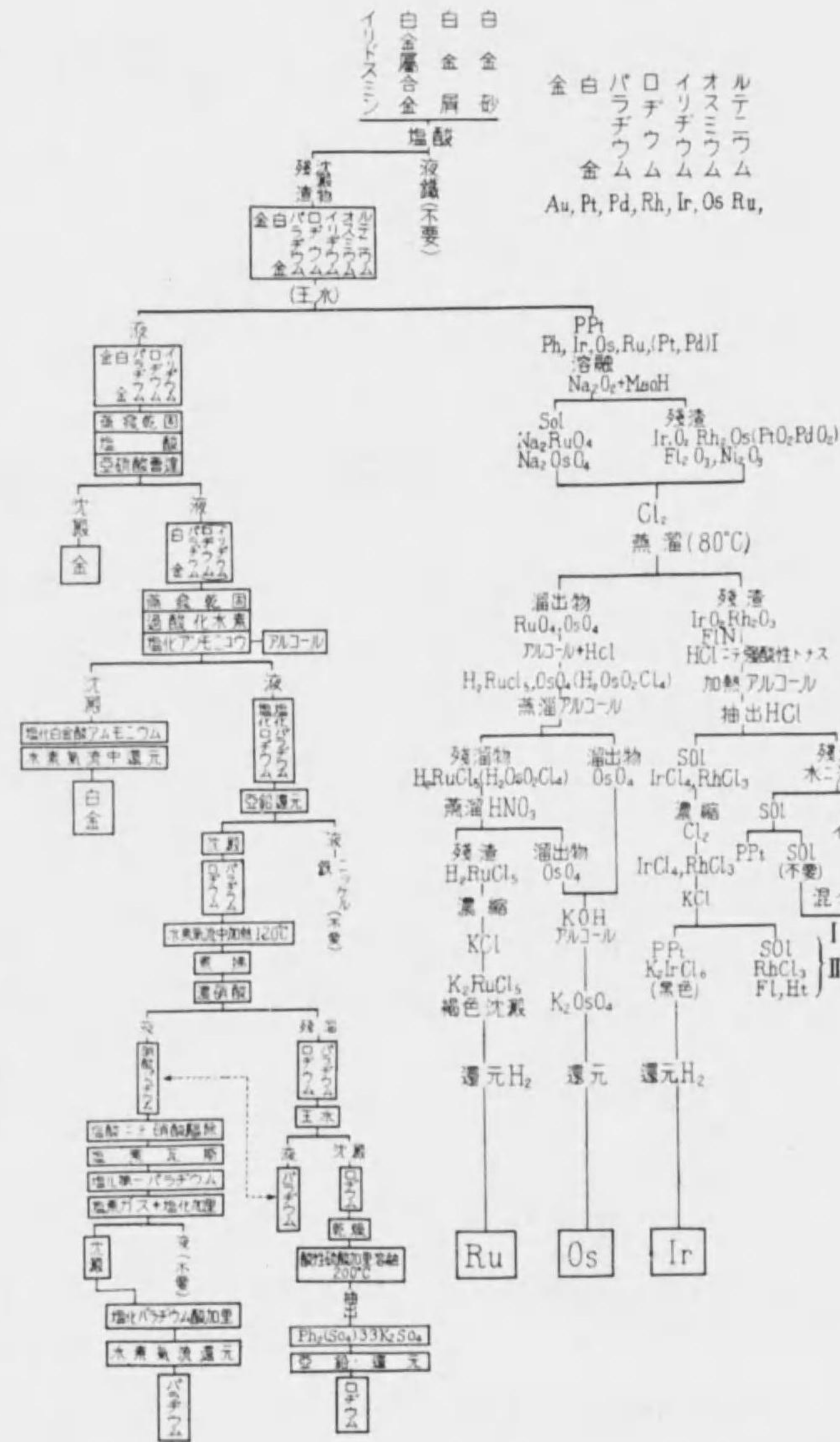
陸軍火工廠出品

本圖表は火工廠出品物に添付せる説明なり



白金屬分析表

株式会社 徳力本店 出品



硝酸製造工程圖

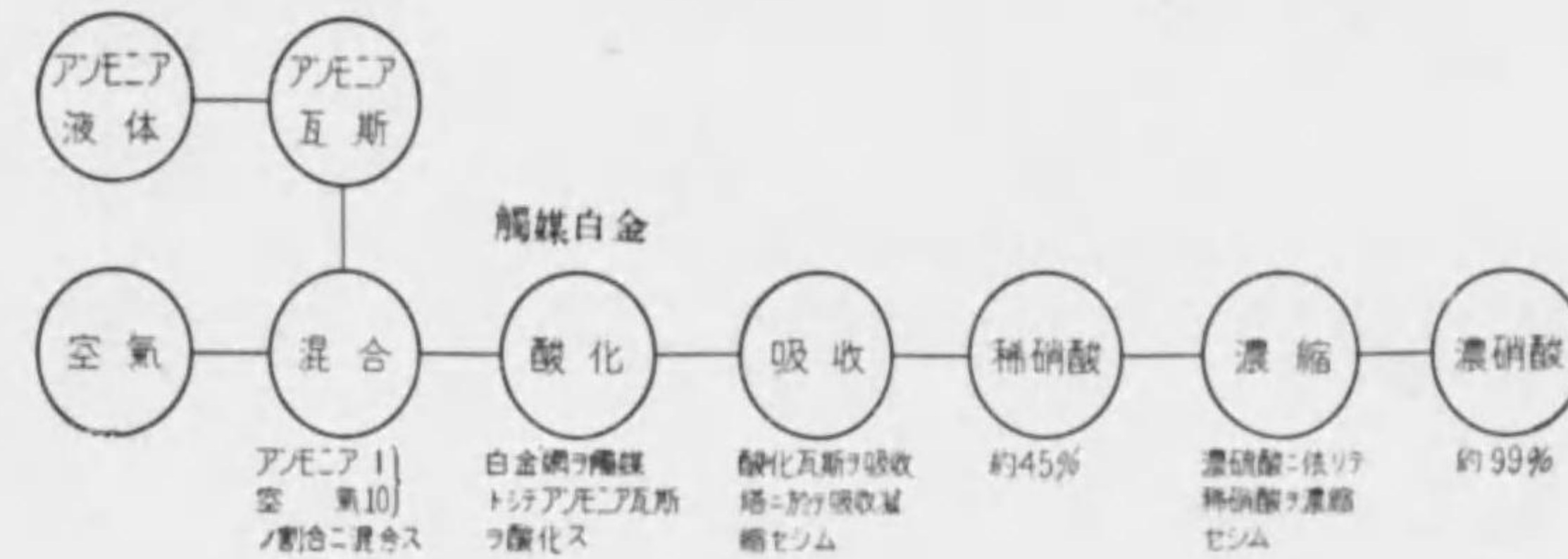
陸軍火工廠 出品

本表は火工廠出品物に添付せる説明なり

火炮小銃ナドニ用フル火薬ヲ彈丸爆彈ナドニ入レル炸薬ヲ作ルニ戰時ハ特ニ莫大ナ硝酸ガ必要デアリマス。

之マデハ硝酸ヲ智利硝石ト硫酸デ作ツタノデ平戰兩時共智利硝石ノ輸入ニ依ツテオツタノデアリマス。トコロガ今日デハ空中窒素ノ固定ニ依ツテ出來ル「アンモニア」ヲ「白金ノ觸媒」デ酸化シテ優良ナ硝酸ガ無限ニ出來ルヤウニナリ全ク硝酸ノ自給自足ガ出來ルヤウニナツタノデアリマス。

其ノ製造要領ハ次ノ通りデアリマス。



(三)
總
目
錄

國防に必要なる白金展覽會出品總目錄

趣旨

白金ニ關スル一般常識ヲ涵養スルト共ニ、貴金屬製品品位證明制度ノ普及發達ヲ計リ、白金製品ノ品位ノ整正ヲ促シ、併テ國防、國策ノ知見ヨリ白金保有ノ觀念養成ニ努メ、教育上ノ參考ト、一般國民ノ教化ニ裨益セントス。

(一) 内閣資源局出品

- (イ) 本邦白金ノ用途別消費狀況圖表
- (ロ) 本邦白金ノ主要國別輸入狀況統計表
- (ハ) 米國ニ於ケル白金ノ需給狀況圖表
- (ニ) 白金屬世界生産額統計表
- (ホ) 最近年間ニ於ケル主要國別白金使用額表
- (ヘ) 白金ノ世界生産狀況及本邦輸入狀況圖表等

(二) 陸軍省出品 (陸軍造兵廠、兵器本廠、技術本部、被服廠、火工廠、衛生材料廠)

- (イ) 白金線信管
- (ロ) 九三式電氣點火機
- (ハ) 硝酸製造裝置模型
- (ニ) 硝酸製造、重ナル火藥及爆藥ニ關スル説明圖表

- (ホ) 投下爆彈断面模型
 - (ヘ) 砲彈炸藥ノ模型
 - (ト) 拋射藥ヲ藥莖ニ填實シタル模型
 - (チ) 「ダイナマイト」模型
 - (リ) 醫療器具及器械
 - (ヌ) 爆破實況パノラマ、映畫等
- (三) 海軍省出品**
白金ヲ使用シタル兵器類

(四) 造幣局東京出張所出品

- (イ) 我國ノ極印制度説明表
- (ロ) 世界各國ノ極印制度比較表(附 極印圖)
- (ハ) 我國ノ證明極印表
- (ニ) 世界ノ極印制度分布圖
- (ホ) 白金製品量目調査表
- (ヘ) 市販無檢定白金製品ノ分析例
- (ト) 白金ノ用途表
- (チ) 白金製品品位別個數統計表
- (リ) 白金製品品位證明個數指數表

- (ヌ) 白金製品品位別量目統計表
- (ル) 貴金屬製品檢定依頼數ノ地金別比較表
- (ヲ) 白金製品ノ品位ノ動向
- (ワ) 白金賣買價格ノ差及金ノ市價トノ比較表
- (カ) ホール、マーク濟製品模型、各種
- (ヨ) 檢定器具(トーションバランス、試金天秤、試金標本、試金用器具等)
- (タ) チオラマ、映畫等

(五) 三井鑛山株式會社出品

- (イ) 白金箔及粉ノ製造工程
- (ロ) 白金絲、白金箔色紙等各種製品見本

(六) 日本鑛業株式會社出品

- (イ) 白金ノ製鍊系統圖及各種實物標本
- (ロ) 日本鑛業株式會社經營ノ鑛山、製鍊所寫真
- (ハ) 映畫等

(七) 日本電氣工業株式會社出品

- (イ) 鹽素酸曹達製造工程
- (ロ) 鹽素酸加里製造工程
- (ハ) 過鹽素酸アンモニア製造工程

(八) 昭和人絹株式会社出品

人造絹絲製造工程

(九) 昭和火薬株式会社出品

爆薬パークロ製造工程

(一〇) 昭和肥料株式会社出品

(イ) 硫酸アンモニア製造工程

(ロ) 爆薬ノ製造工程

(ハ) 各種化學工業用藥品及原料ノ製造工程

(一一) 日本曹達株式会社出品

(イ) 過鹽素酸アンモニア製造工程

(ロ) 硫酸製造工程

(一二) 株式会社島津製作所出品

(イ) 理化學工業用諸器具

(ロ) 白金電氣爐及電氣工業用諸器具

(一三) 沖電氣株式会社出品

電信、電話機及同上接點等

(一四) 千野製作所出品

(イ) 電氣爐

(一五) 東京帝國大學工學部出品

(イ) 白金ナゲット 標本

(ロ) 金ナゲット 標本

(ハ) ダイヤモンド 標本

(一六) 株式会社徳力本店出品

(イ) 理化學用器具

(ロ) 化學工業用觸媒

(ハ) 齒科用白金

(ニ) 高周波電氣爐

(ホ) 白金屬鍍金裝置等

(一七) 株式会社田中商店出品

(イ) 理化學用器具

(ロ) 化學工業用觸媒

(ハ) 醫療用器具

(ニ) 白金塊及各種白金合金

(ホ) 白金ノ瓦斯溶解實驗

(一八) 株式会社石福商店出品

(イ) 白金ノ精製法

(ロ) 白金塊及齒科用白金等

(一九) 日本ニツケル時報局アグネ社出品

(イ) 英國アクトン精鍊所ニ於ケル貴金屬ノ分離精製法

(ロ) 貴金屬ヲ含ムニツケル鑛ノ製鍊ニ關スル模型

(ハ) 白金ニ關スル圖書及各種文獻等

(二〇) 白金寶飾品(賣品、非賣品及參考品ヲ含ム)

出品者(イロハ順)

株式會社 服部時計店

日本白金協會

細沼貴金屬工業株式會社

梶田久治郎

吉田時計店

株式會社 山崎商店

天野時計寶飾品株式會社

金店 巽忠藏

株式會社 三輪屋商店

御木本眞珠店
溝口萬吉

(二一) 講演と映畫の會

一月廿二日、廿三日、廿四日 正午、三時、二回開催

番組

講演

(廿二日午後零時より)

一、白金の化學工業的用途に就て

(廿三日午後零時より)

一、世界と日本に於ける白金の生産と消費に就て

(廿三日午後三時より)

一、裝身具としての白金に就て

(廿四日午後零時より)

一、將來戰と國民生活

映畫(三日共通、次第不同)

日本鑛業株式會社製作

一、日本鑛業株式會社經營の鑛山實況

造幣局製作

一、貨幣の出来る迄

三卷

二卷

技師 長小玉美雄
日本電氣工業株式會社

内閣資源局事務官 陸軍歩兵少佐 石本五雄

造幣局東京出張所長 柴田武

陸軍省整備局 陸軍歩兵大尉 木下秀明

陸軍省整備局 陸軍歩兵大尉 木下秀明

一、金銀分析と品位試験	一	卷
陸軍省新聞班製作		
一、兵器の現在と其趨勢	四	卷
陸軍省新聞班製作		
一、總動員	三	卷
陸軍省新聞班製作		
一、一九三六年	二	卷

昭和十一年一月
日本橋 三越ホール 以上

○會場に於ては左の如き「リーフレット」を配布したり。

寶飾品に就ての常識 (買入時の注意)

造幣局東京出張所

貴金屬製品が、一般に尊重、愛好せらるゝ所以は、何時鑄潰しても一定の價値を持つて居ると云ふ、他の製品と異つた財寶的見地によることは明かでありませう。
政府の檢定事業は其財寶的價値を保證する爲めに、生れたもので、合格品には、凡て檢定の記號として、日の丸のマークが押刻してあります。

製品の品位(金性)は、一見素人には判別し難いから、往々市場には不正品の跋扈することを聞きますが、其不正品の鑑別には、日の丸のマークの有無によること、最も簡單で容易の方法の一つであります。
又若し、製品を處分する場合等は、檢定附製品であれば、確實で而も容易である事は勿論であります。
殊に最近白金の値段と金の値段の値開きが尠い爲に白金の裝身具としての需要がかなり増加しました。
夫れ丈けに、其品位に就ても、いかがわしい物が多い様であります。白金の賣値と買値との間の開きが金に比較して、可なり大きい事が此の事實を有力に裏書して居ります。
白金にも金の様に、色々の品位の製品があることを承知せられて、檢定附に留意せられる事が、最も大切で安全であります。

(御参考迄に裏面に、貴金屬製品の品位と、證明刻印の關係表を掲げてありますから、貴金屬製品の購入の際御利用下さい)

品位と證明極印

白金		金		銀	
稱方	政府證明極印	稱方	政府證明極印	稱方	政府證明極印
純白金	● 1000 Pt	純金	● 1000	純銀	● K24
950 _位	● 950 Pt	917 _位	● 917	950 _位	● 950
900 _位	● 900 Pt	835 _位	● 835	925 _位	● 925
850 _位	● 850 Pt	750 _位	● 750	900 _位	● 900
		585 _位	● 585	800 _位	● 800
		500 _位	● 500		
		375 _位	● 375		
		(K18)			
		(K14)			
		(K12)			
		(K9)			

○貴金屬相談所

會期中相談所を設置して、一般大衆の質疑に應じたり。其相談人員概要左の如し（日誌による）

昭和十一年一月二十二日 一八八人

一月二十三日 六〇人

一月二十四日 九六人

一月二十五日 三三人

一月二十六日 八五人

一月二十七日 一一五人

一月二十九日 一四一人

合計 六五八人

○入場者（三越調）

昭和十一年一月二十二日 三〇、〇〇〇人

一月二十三日 二八〇、〇〇〇人

一月二十四日 二九、〇〇〇人

一月二十五日 二二、〇〇〇人

備考

一月二十六日	三五、〇〇〇人
一月二十七日	三三、〇〇〇人
一月二十九日	三四、〇〇〇人
合計	二一、〇〇〇人

(一) 右の調べは、會場に於て調査すること不能なりし爲め、三越正面入口の入場者調べを参考としたるものなり。

(二) 本展覽會は、從來各種の展覽會と其趣きを異にし國防觀念と白金と云ふ特異性を有したるが爲め毎日の入場者常に雑踏し、各種の團體、學校生徒等の來觀者多く、殊に會期中、廣田外相、大角海相、矢吹大藏政務次官、津島大藏次官、川久保資源局長官、青木大藏省理財局長、高橋兵器本廠長、泉造幣局長、榊田火工廠長、野田海軍軍事普及部委員長、山脇陸軍省整備局長、星野資源局施設部長等其他各廳高官、名士等の來觀ありたり。

(四) 附

錄

白金の話

(一) 白金と國家的關心

黄金の燦然たるを絢爛といふならば、清澄たる白金の輝きは高雅といふに相應しい、黄金と白金——それは貴金屬界の双壁であり、人類渴望の的である、黄金のことについてはこゝにはないが、それと列んで一方の立役者たる白金が最近新しい視野から見直されて来たことは充分注目されてよい。

舊臘全國の民間業者による日本白金協會の非常時的結成、今年はまだ内閣資源局、陸軍省及び海軍省の後援造幣局東京出張所主催による白金展覽會が一月廿二日から廿九日まで日本橋三越で開催され、海軍大臣、外務大臣等今を時めく政府の顯官が熱心に參觀、白金の非常時性に對する國民的意識が今まさに勃然として昂まらうとしてゐる。

白金は何が故に斯くも必要であるかに就いては、これからだん／＼述べてゆくことゝして、さし當つては先づ日本白金協會の掲ぐる左記の標語を紹介しておかう。

「平時は財寶、非常時は國防」

十七世紀のこと當時世界商戰界の覇者たりしスペイン人は黄金探求のため南米コロンビヤのピント河で奇妙極まる砂を發見した、銀に似て白い光りを放つてゐるが、金よりも尙重いところを見ると銀ではない。

火には溶けんし、酸には侵されぬし——はてさて何だらうと本國へ持つていつて智慧自慢が頭を絞つて見たが、やつぱり正體がつかめない、さうかうしてゐる中にこの砂を金に混ぜ合せ擬交物として使用する不心得

者が現はれて来るし、折角南米くんだりから持つて来た砂だがホトホト持て餘してしまつた、そしてこんな魔物は海蛇にでも食はれてしまへとザンプと海へ……文字通りの金砂銀砂!

ところがこの砂が他ならぬ白金だつたといふのだから、思へば勿體ない話である、今ならば何百萬圓になるだらうと、氣を揉んでみたところでの後の祭り——今や跡も形も止めてゐない、しかし名前だけには名残りを止めて白金のことを人呼んでプラチナといふのは「ピントの小粒銀」といふ意味ださうである。

(二) 白金の貨幣

發見當初こそ白金を厄介物扱ひにしたスペイン人もその卓越せる眞價には何時までも盲目たり得なかつた、彼等は間もなく裝身具の製造に白金を材料に供し一七四二年にはチャールズ・ウッド氏によつて英國に傳へられた。

現在白金の世界的供給地はロシアだが、同國のウラル山脈中の金山で、白金粒の發見を見たのは一八一九年のこと、そして三年後にはその附近に莫大な鑛脈が發見された、こゝにおいてロシア政府は一八二八年三ルブル、六ルブル及び十二ルブルの白金貨を鑄造した。

しかし當時白金の價格變動が甚だしかつたため、一八四五年には白金貨幣發行も中止のやむなきに至つたが、この白金貨こそは世界最初にして最後のものだったのである。

次に我國における白金の歴史だが、古いことはなか／＼正確に判らない、しかし現在知られた範圍内でのその生ひ立ちを辿つて見ても相當數奇な運命に弄ばれて来たやうである、日本に佛教傳來と共に支那や印度から數多の

佛像が輸入されたが、當時謂はれたところのエンブダゴンの佛像は白金製だつたらしいし、經文を白金泥に書いたものも尠からず遺されてゐる。

長野善光寺の御本尊が未だ轉々としてゐたときのこと、佛教争ひで世の中が湧き立つて、どんな徑路を辿つてかそれが佛教反對派の手に入つた、坊主が憎けりや袈裟までも——といふ言葉があるが、ましてや御本尊に至つては憎さは憎し……といふところ、こんなもの燃やしてしまへとばかり、猛火にぶちこんで煽ぎ立て、見たが、案に相違で涼しい顔してすまして御座つた。

火に對して絶對的に強いプラチナ製であつて見れば、これも御尤も極まる話なのだが、勿論當時はこんなことを知らない、怖しさも手傳つてか七面倒なとばかりドンブと大阪灣へ投げ込んだ。

「ピント河の小粒銀」はスペイン人に捨てられて、金砂銀砂となれ果てたが、のちの善光寺御本尊は御厨子に納まつてゐたお蔭で海底の砂に埋れることは免れた、波のまに／＼漂つて間もなく大阪堀江の阿彌陀池に打ち上げられ、長野の善光寺に納まるまで……これは講談の方に任せた方が良ささうである。

(三) 廢電球からプラチナを

白金が裝身具の形で日本へ傳へられたのは明治以前のことであるが、それが化學工業用の資材として、金屬そのもの、形で輸入されたのは明治二年造幣局創設以後のことである。

凡ゆる化學工業に最も基本的な役割を演じてゐるのは酸とアルカリだが、我國に於ける酸、アルカリ製造の濫觴は他ならぬ造幣局であり、白金の輸入に最初大きな役割を演じたのも同局であつた。

一寸考へただけでは造幣局と酸、アルカリの關聯とは如何にも突飛のやうに思はれるが、金銀の化學的試驗並に分析に硝酸或は硫酸が不可缺であり、これ等藥品の製造に白金が絶對的に必要であると云ふ事實を知れば兩者の以上の如き關聯に何等變哲のないことが肯れやう。

當時横濱に巢を構へてゐた外國商館、ドイツ人經營のオットライメルス、アツペンハイム、カーチング・ブーム・エンド・ライフ——造幣局ではこれ等を経て白金の輸入を行つてゐたものである。さうこうしてゐる中に世に可笑しな商賣が現れた、電球から白金を採つて一儲けしようといふのである、今のものと違つて昔の電球は白金線が使つてあつた、そこで廢球を市中から買集め、之を潰して白金を掻き集めようといふわけである。

今から卅年餘り前のことだが、先年故人となられた元帝國電球重役大類宗一郎氏が築地の新榮町で初めてこれを試み、現市内有力某地金商店が未だ兩替屋をやつて居た頃、大類氏と特殊な縁故から間もなくこの業に手をつけた、當時東京電燈では一月約廿萬個の廢球を出したが、某商店ではこれを一個一錢で買取り、これに手を加へて多い時は一ヶ月五百匁、少い時でも四百匁位の白金を得て、東京電機（當時同社は芝の田村町にあつた）へ賣却した。

その頃白金一匁は七・八圓だつたが、その中値をもつて七圓五十錢とすると、一ヶ月四百匁は金高にして三三圓、これに對して廢球廿萬個は一個一錢として二千圓である、この他に硝子屑、眞鍮屑を處分すればまた利益もあるし、電球買集はさう割の悪い商賣でなかつたらしい、だから某商店に次いで續々此の商賣に手をつけ始めたのであつた。

(四) 歐洲大戰當時の價格一匁六十五圓

世の變轉と共に白金の上に廻り來つた運命の流轉——それは誠に數奇を極めたものだつた、前回記した「廢電球から白金を」の儲け仕事も、電球製造技術の進化と共に一大蹉跌に行き當つたのである、即ち電球の白金線が白金鍍金に變り、更にタングステンに變るに及んで全然白金が不要となり、廢電球は文字通りの廢電球と化し去つた、地金商の商賣が上つたりになつたのはいふまでもない。

歐洲大戰の勃發は我國の白金需要に一轉機を劃したものだつた、鹽酸加里その他各種爆藥原料製造の電極として、白金需要はそれこそ爆發的急増を示したのである、相場が一匁六十五圓に跳ね上つたのはこの時であり、華やかな脚光に彩られて、白金が化學工業の舞臺面に躍り出たのはこれ以來である、しかし戦火の終熄と共に、化學工業部門においてその演ずる役割は急に小さなものとなり、斯くては白金需要凋落の悲運が經過り來るかと思はれた、だが時代は進む!

戦争成金の奢侈慾は、黄金の燦然たるを下司と呼ばはり、時計に、指環に、帶止め、白金の床しき光りを求めて、世は「黄金時代」の一枚上の「白金時代」とはなつたのである、装身具分野における斯くの如き白金需要の般賑は、化學工業部門に見る反動的様相をカバーして餘りあり、我が世の春は白金界において壽がれた。

しかし戦時成金の大部分がその後幾何もなくして泡と消えたと同じやうに、當時における白金装身具界の華やかさも思へば蜃氣樓の如く儂いものだつた。

以上の如くして悲境に追ひ込まれた白金も、金輸出再禁止を轉期とする工業界の活況と共に、再び絢爛たる時

代を迎へた、人絹製造用のキャップ（スピネレット）各種化學工業用の觸媒、電極、坩堝その他耐酸、耐熱の工業用器具として、白金の需要が急激に増加するに至つたのである、しかもそれが軍需工業に基礎的な役割を演ずるものであるに於ては、國際關係の急迫化する今日、國內に資源皆無なる我國にとつて、嫌でも白金を國防と結びつけ、國家的な關心をこれに惹き寄せざるを得ない、この點に就てはあとでもう少し詳しく述べよう。

（五）工業方面の廣汎な用途

裝身具としての白金の用途は餘りにも常識的であるからこゝには省いて以下暫くは工業的方面における白金の重要性に就て記したいと思ふが、その前に白金が王水を除く他の如何なる藥品の化學的腐蝕作用に對しても抵抗力が極めて強く、また温度の變化による膨脹率の變化がないといふ特性を有するものであることを理解せられたい、白金が斯る性質を有すればこそ、化學工業を通じてその必需性に國家的關心が寄せられるに至つたのである。人絹製造の際グイスコース液を中和液に噴出するのにスピネレットといふものが使はれてゐる、これは大體金八、白金二の割合で合金したもので、肉眼では到底見えないやうな極小さな孔が明けられてゐる、この様に細かい細工を施し、かつ常に酸に曝されながらグイスコース液噴出の壓力に耐へ得るのは白金なしでは到底望めない世界制覇を目指す我國人絹工業界に、白金の演ずる役割たるや正に大きい。

接觸法による硫酸の製造、或はアンモニアの酸化による硝酸製造に當り、觸媒として白金は不可欠のものである、殊に硝石の資源を缺く我國にとつては硝酸製造用としての白金に重大な意義を見出さざるを得ない。強力爆藥たる過鹽素酸アンモニア、その他の鹽素化合物製造にも電極として白金が使用され、また坩堝、蒸發

皿、濾過漏斗その他の研究室用品として、絶対に他金屬の追隨を許さない。

以上は大體化學工業的方面に就て記したが、次いで電氣方面を見ても、磁石、恒溫器、スイッチ、電氣調整器具、電氣時計、高溫度計用電熱對、電氣爐用抵抗線、電氣鍍金、電氣接點用材料等頗る廣汎な用途を有し、また醫療器械、齒科用としては烙白金、ピンセット、注射針、金冠、繼續齒、架工齒、蝕蝕窩充填等に独自の用途を持つてゐる。

白金の利用は純粹のまゝ、よりも他の金屬と合金した場合の方が遙かに多い、しかして添加材料としてはイリヂウム、ロヂウム、パラヂウム等の白金族金屬を始め、金、銀、銅、ニッケル、亜鉛、タンタムステン、モリブデン等が使用されてゐる。

右の如き他金屬の添加は使用上より經濟的に、より效果的ならしめることを本來の目的とすべきことは勿論だが、一部好悪なる業者が不當なる利益を追はんがための具に供して、業界を毒し、世間を欺いてゐるのは誠に以て遺憾の極みである——この點に就てはあとで詳しく記さう。

（六）滿洲事變後の輸入狀況

白金の用途は前回に記した如く頗る廣汎、かつ切實なものであるが、我國においてはその資源が殆ど皆無である、尤も日立鑛山と佐賀關精鍊所からは多少の白金を産出するが、これは鑛石から採るのでなくて東京、大阪における貴金屬工場の塵埃から回收されたもので、量的にも質的にも問題とするに足らず、國內需要の殆ど全部が海外から輸入されてゐる實情にある、近年の輸入高を示せば次の如し。（單位數量、金額千圓）

昭 和 四 年	同 五 年	同 六 年	同 七 年	同 八 年	同 九 年	同 十 年	數 量	金 額
							四四五	二、〇九四
							四八三	一、五一六
							一、〇〇二	二、四〇七
							三四四	一、二五九
							一、〇三一	三、八〇三
							一、二一二	四、四五七
							七一一	二、六三八

滿洲事變勃發の昭和六年を轉機とする右の如き輸入高の激増が、白金の非常時的性質の顯現であることはいふまでもない。

その昔白金は専ら砂礫中から採取され、ロシアのウラル地方と南米のコロンビヤが主たる産地であつた、しかし約卅年ばかり前、カナダのサドベリーに品位の高いニッケル鑛が発見されて以來は、ニッケル及び銅を採つた残りの精鑛からも白金を析出し得るやうになり、世界の白金資源の分野に一大變化を齎した、一九三三年における各國白金生産額は次の如くである。(單位延)

蘇 聯	三、一〇〇	エチオピア	二〇六
カ ナ ダ	一、七二九	米 國	九四
コロンビヤ	一、四二五	白領コンゴ	一七

南 阿 二八二 英領シエラレオ 一三三

しかし我國では蘇聯、米國及び英國の三ヶ國から供給を仰いでをり、殊に蘇聯からの輸入が最も多きを占めてをる。

地金商として我國に重きをなしてゐるものは田中商店、徳力商店、松村金銀店及び石福商店の四軒である、しかしして前記の四大問屋の下に中間屋とも稱すべきものがあつて、装身具業者への白金地金供給上中間的役割を演じてゐるもの等がある。

(七) 國內保有の増加策

これまで述べたところによつて、白金が工業上のみならず國防的見地からも如何に必需性の大きなものであるか理解された、そこで問題をもう一步前進させて、白金の天然資源を有しない日本では、一朝有事の際に備ふべく平時において如何なる策を講ずべきかに就て考究して見る。

誰でも考へつくのは白金代用品の發明で、現に各方面で研究が進められてゐるが、造化神の手際に勝る人工的創造が果して可能かどうか——これは時日の経過に俟たねばなるまい、そこで消極的ではあるが、一番手取早い方法として採られたのが白金装身具の需要を振興し、平時において白金の輸入をうんと行つておいて、一朝有事の際にはこれを國防戦線へ動員しよういふ筋書である。

近年における白金装身具の需要不振が、經濟界の不況といふ客觀條件に制約されてゐることは否めないが、一面また白金そのもの、中に伏在する條件的不利が禍してゐることも確たる事實である、即ちこれを具體的に

いふならば、一般人にとつて白金装身具は買ふときに高く、賣る時には安い——貴金屬商から十四圓五十錢で買つたものが、後日不要になつて貴金屬商に買つて賣ふときには精々十一圓位にしかならない。

買値と賣値の差がこれ程甚だしいのは金にも銀にも見られないことである。そしてこのことは白金の財寶的價値を著しく減殺せずにはおかない。

しからは白金の斯くも甚だしき買値と賣値の差が何によつて生ずるかといへば、混ぜもの、多い製品が市中を横行し、これの鑑別が困難なため貴金屬商は危険率を多く見積るためなのである。

従つて白金装身具の財寶的價値を一般人に認識せしめんには、先づ從來の如き買値と賣値の大きな開きを匡正する必要があり、そのためには白金製品の純分に對して業者がもう少し良心的になると共に、一般購買者がもう少し認識を高めることだ。

斯る際にあつて昨年暮の日本白金協會の設立、また今回の白金展覽會の開催は、各般の見地から無關心でうち過ごせないものである。

(八) 白金寶飾品に就ての常識

白金装身具を買つたことのある人は大抵こんなことを貴金屬商から聞かされたことだらう「白金には混ぜ物が利きませんでしてねえ」ところが造幣局で白金製品の檢定事業を始めた昭和七年の頃、東京と大阪で試買した各種白金装身具を分析試験したところ、次の如き結果を得た(千分率)

時計側 八九七・三——九五三・八

指環	六七六・三——九五五・〇
時計鎖	九一一・四——九九七・二
ヘアーピン	八四八・〇
眼鏡	九〇四・〇
カフス釦	八五一・五

以上が總て純白金として客に賣られたものだといふのだから驚かされる、持つてゐる御當人がその積りで有難がつてゐる間は良いが何かの機會で眞實を知つたとして誰だつて腹が立つ、そして「もうプラチナなんか……」と思ふのが人情の常であらう。

前にも書いたやうに造幣局では昭和七年以來白金製品の品位證明を行つてゐる、しかし證明を受けるか受けないかは業者の任意となつてゐるため、現在市場に出てゐる製品の大多數は無檢定のものである、これは檢定手数料や手續の煩雜さを厭ふ結果といふより、品位の刻印が打つてあれば純白金といつて客をたぶらかすことが出来ないといふこと、もう一つには「白金は混ぜ物が利きません」といつた舊惡の暴露するのが恐ろしいことが理由となつてゐる、尤も時代に目覺めた業者はこんなケチな考へを振り捨て、必づ自己製品の證明を行つてをり、昨年中造幣局東京出張所で取扱つた白金装身具の各種類につき最高、最低品位を挙げれば次の如くである(千分率)

	最 高	最 低
甲 丸 指 環	九九・六九八	七二・一

印 臺 指 環	九九八・二	八三六・八
寶 石 指 環	九四九・〇	七二六・二
時 計 側	九五一・六	七四八・二
時 計 鎖	九九九・〇	八四八・三
眼 鏡 綠	九八八・四	八一七・〇
カ フ ス 釦	九四八・八	八一八・六
帶 止	九五一・七	六六五・五

使途によつては多少の混ぜ物をした方が純白金よりも経済的であり、能率的である場合が有り得る、だから白金に混ぜ物をするのが必ずしも悪いといひ切るのは正當でないが、一部の業者が上陳の如き事實を蔽つて、知識のない大衆を欺瞞してゐることは斷じて許しておけない、世の人は白金装身具に關する右の如き實狀を認識して、財布の紐を解く前には先づ政府證明刻印の有無に注意することが肝要である。

檢定済の製品には必ず白金含有率を表した刻印があるが、無檢定のは玉石混淆、何れもPM若くはPTの判が捺してあり、品位がどれ位であるかを鑑別することは、化學的試験に依らない限り、當業者でさへ不能である。

(九) 平時は財寶非常時は國防の爲の白金裝飾品の常識

一部貴金屬商のインチキ振りをもう一つ御紹介しよう、或人がプラチナ時計を買ふとき品位の刻印が打つてな

いのに氣がついて、どうして檢定を受けないのかと聞いてみた、これに對して貴金屬商の曰く、

「檢定を受けますには日數がかかりますし一個一圓五十錢の高い手数料をとられます、それにもとゞプラチナには混ぜ物が出来ないのでから(これが大嘘であることは前回述べた通りである)檢定を受ける必要なんか御座いませぬよ、手数料の分だけ安く店へ出す方が結局お客様にもお徳でせう」と。

これまた大衆を瞞着するも甚だしい、昭和七年六月大藏省令第十號による貴金屬製品品位證明規則には、白金製品の檢定について左の如く手数料を規定してゐる。

時 計 側	十 箇 迄	一 圓 五 十 錢
	十 箇 を 超 へ る 數 量 に 對 して	一 箇 を 増 す 毎 に 十 五 錢 を 加 ふ
そ の 他	五 箇 迄	一 圓 五 十 錢
	五 箇 を 超 へ る 數 量 に 對 して	一 箇 を 増 す 毎 に 卅 錢 を 加 ふ

即ち時計に就ていへば一個の場合も十箇の場合も、一圓五十錢の手料をとられる、しかし實際問題として貴金屬商がたつた一箇の檢定を申込むなどは有り得ないことで、若し本當に自己製品の全部に就て品位の證明を行はふといふ意思があるならば必ず十箇以上の數が纏まるに相違ない、さうすれば一箇當り僅か十五錢の檢定料でこと足りるわけだ。

彼等はまた日數のかゝることを一つの口實にしてゐるやうだが事實は決してさうでない、指環の場合は朝申出でればその日の夕方まで、時計の場合は三日目の午前中までには大抵手許に歸つて来る、だから檢定のために取引の圓滑が阻害されるといふことは殆んどないのである。

以上の規則は當業者のみに適用されるが、一般の人が所有物の檢定をして欲しいときでも、大阪の造幣局或は東京出張所に申出れば鑛物分析規則に基き、品位の證明書を書いてくれることになつてゐる。

日本白金協會では先頃來「國防指環」といふのを賣出し、陸海軍兩省、内閣資源局、造幣局、東京府市、商工會議所後援のもとに徹底的普及を期してゐる、即ちこれの需要を喚起することを以て白金の國內保有量増加に通せしめ、一朝有事の際には國防線に動員しようといふわけだ、純分は千分の九百五十、此價額十六圓廿五錢だが

「一朝有事の際にはその可憐な身を以て國防の一端を擔ひ……而も歐洲大戰の頃、戰時需要の激増により内地市價一匁六十五圓の暴騰振りに想到するとき、國防指環を身にすることは、極めて有利な投資といへるのであります……」

と協會では宣傳になか／＼手際によいところを見せてゐる、世はまさに軍擴競争いよ／＼酣ならんとするとき結婚指環なんかには持つてこいの品物かも知れない。

昭和十一年七月十日印 刷
昭和十一年七月十五日發行

(非賣品)

麴町區大手町一丁目

造幣局東京出張所

東京市本所區麴橋一ノ二七

凸版印刷株式會社本所分工場

印刷所

終

